



## ソフトウェア アクティベーション 設定ガイド

### シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

**【注意】** シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（[www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2017 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



## 目次

### 最初にお読みください 1

#### 『Cisco IOS Software Activation Conceptual Overview』 3

##### 機能情報の確認 3

##### Cisco ソフトウェア ライセンシング プロセスに関する情報 4

##### Cisco ソフトウェア ライセンシングの概念 4

##### Cisco Product License Registration Portal 4

##### 製品認証キー 4

##### UDI 4

##### Cisco ソフトウェア ライセンスの検証 5

##### Cisco License Manager 5

##### ソフトウェア エンド ユーザ ライセンス契約書 5

##### イメージと機能のライセンス モデル 5

##### Cisco IOS ユニバーサル イメージ ベースのライセンス 5

##### 機能ベースのライセンス 6

##### ライセンスタイプ 7

##### 永久ライセンス 7

##### 一時ライセンス 7

##### 緊急用の組み込みライセンス 7

##### 評価ライセンス 8

##### 拡張ライセンス 8

##### 非カウントまたはカウント ライセンス 8

##### 成長に応じて拡張可能なモデル 8

##### サブスクリプション ライセンス 9

##### ソフトウェア アクティベーション プロセス 9

##### 製造時にプレインストールされるライセンス 9

##### Cisco License Manager を使用したソフトウェア アクティベーションの自動化 10

##### EXEC コマンドを使用したライセンス ソフトウェア アクティベーション 11

デバイス間でのライセンスの転送	12
2つの稼働中のデバイス間でのライセンス移動	12
問題のあるデバイスと作動デバイスの間の RMA ライセンスの移行	13
ライセンスの再送信要求	14
その他の参考資料	14
Cisco IOS ソフトウェア アクティベーションの機能情報	15
用語集	16
<b>Cisco IOS ソフトウェア アクティベーション機能の設定</b>	<b>19</b>
機能情報の確認	19
Cisco IOS ソフトウェア アクティベーションの制限	20
Cisco IOS ソフトウェア アクティベーションに関する情報	20
ライセンス有効化の MIB サポート	20
Cisco IOS デバイスのソフトウェアをアクティベートする方法	20
ソフトウェア アクティベーション コマンドを使用したライセンスのインストールとアップグレード	20
ソフトウェア アクティベーション コマンドを使用したライセンス管理	23
ライセンス ファイルへのコメントの追加	23
指定されたストレージエリアへのすべてのライセンスの保存	24
デバイスに関連付けられたライセンス クレデンシャル情報の指定ストレージエリアへの保存	24
デバイス上のすべてのライセンスの表示	25
ライセンス対象の機能の詳細情報の表示	26
利用可能なライセンス対象の機能セットの画像表示	26
ソフトウェア アクティベーション コマンドを使用したライセンス削除	27
恒久ライセンス ファイルからのライセンス エントリの削除	27
ライセンスのリホスト（取り消しおよび移行）	28
ソフトウェア アクティベーション コマンドを使用したトラブルシューティング	
ライセンスの運用	29
ソフトウェア ライセンシングの設定例	31
例：ライセンスのインストールとアップグレード	31
例：ライセンス ファイルへのコメントの追加	31
例：指定したストレージエリアへのすべてのライセンスの保存	32

例：ライセンスの削除	32
例：ライセンスのリホスト（取り消しおよび移行）	32
例：ライセンス情報で強化される一般的なコマンド	33
reload	33
show running-config	33
show tech-support	34
show version	35
その他の参考資料	36
Cisco IOS ソフトウェア アクティベーションの機能情報	37
<b>Cisco 使用ライセンスの設定</b>	<b>39</b>
Cisco 使用ライセンスの機能情報	39
RTU の前提条件	39
Cisco RTU Licensing の情報	40
評価ライセンスをアクティベートする例	43
スループットの設定	45
例：グローバル EULA の承認	45
例：ソフトウェア冗長性ライセンスの EULA の承認	46
例：シャード間冗長性ライセンスの EULA の承認	46
例：合法的傍受のライセンスの EULA の承認	47
show コマンドの出力例	47
show license EULA コマンドの出力例	47
show license all コマンドの出力例	48
Cisco One スイート	50
Cisco ONE スイート ライセンスのアクティベーション方法	50
その他の参考資料	51
Call Home に関する機能情報	53
<b>Call Home の設定</b>	<b>55</b>
機能情報の確認	55
Call Home の前提条件	56
Call Home の概要	56
Call Home を使用するメリット	56
Smart Call Home サービスの取得	57
Anonymous Reporting	58

Call Home の設定方法	58
Smart Call Home の設定（単一コマンド）	58
Smart Call Home の設定と有効化	60
Call Home のイネーブル化とディセーブル化	61
連絡先情報の設定	62
例	64
宛先プロファイルの設定	64
新しい宛先プロファイルの作成	66
プロファイルの匿名モードの設定	67
アラート グループへの登録	68
定期通知	69
メッセージ重大度しきい値	69
スナップショット コマンド リストの設定	70
一般的な電子メール オプションの設定	71
メール サーバの設定	71
例：一般的な電子メール オプション	74
HTTP プロキシ サーバの指定	74
Call Home メッセージの IOS コマンドを実行するための AAA 認証の有効化	75
syslog スロットリングの設定	75
Call Home データ プライバシーの設定	76
宛先プロファイルの操作	77
宛先プロファイルのアクティブ化および非アクティブ化	77
宛先プロファイルの名前変更	79
定義済みの CiscoTAC-1 宛先プロファイルの使用	79
Call Home プロファイルの設定の確認	80
Call Home 通信の手動送信	80
Call Home テスト メッセージの手動送信	80
Call Home アラート グループ メッセージの手動送信	81
Call Home 分析およびレポート要求の送信	82
例	83

1つのコマンドまたはコマンドリスト用のコマンド出力メッセージの手動送信	83
例	85
Call Home の設定	85
Smart Call Home サービスをサポートするように Call Home を設定する方法	85
前提条件	85
CA トラストポイントの宣言および認証	86
例：シスコ サーバ セキュリティ 証明書の宣言と認証	88
Smart Call Home の登録の開始	88
次の作業	89
Call Home 設定情報の表示	89
Call Home のコンフィギュレーション例	90
例：Call Home 情報の要約	90
例：設定済みの Call Home 情報の詳細	91
例：使用可能な Call Home アラート グループ	92
例：電子メール サーバのステータス情報	92
例：すべての宛先プロファイルの情報	92
例：ユーザ定義の宛先プロファイルの情報	93
例：Call Home の統計情報	93
デフォルト設定	93
アラート グループの起動イベントとコマンド	94
メッセージの内容	96
XML 形式での syslog アラート通知の例	102
その他の参考資料	103
Call Home に関する機能情報	105
Cisco License Call Home の設定	107
機能情報の確認	107
Cisco License Call Home の前提条件	108
Cisco License Call Home の制約事項	108
Cisco License Call Home の情報	108
Cisco License Call Home インターフェイス	108
Cisco License Call Home の設定方法	110

Cisco License Call Home を使用したライセンスのインストールまたはソフトウェアのアップグレード	110
Cisco License Call Home を使用したライセンスの再ホスト	111
Cisco License Call Home を使用した再送信されたライセンスの要求	112
Cisco License Call Home の設定例	113
例：Cisco License Call Home を使用したライセンスのインストールまたはソフトウェアのアップグレード	113
例：Cisco License Call Home を使用したライセンスの再ホスト	113
例：Cisco License Call Home を使用した再送信されたライセンスの要求	114
その他の参考資料	115
Cisco License Call Home の機能情報	115
<b>Cisco Smart Licensing クライアント</b>	<b>117</b>
機能情報の確認	117
Cisco Smart Licensing クライアントの前提条件	118
Cisco Smart Licensing クライアントの制約事項	118
Cisco Smart Licensing クライアントの情報	118
Cisco Smart Licensing：概要	118
CISL から Smart Licensing への移行	118
Cisco One スイート	119
Cisco Smart Licensing クライアントをアクティベートする方法	119
スマート ライセンスのイネーブル化	119
スマートライセンスの無効化	120
デバイス登録	122
Cisco Smart Licensing クライアントのトラブルシューティング	123
Cisco Smart Licensing クライアントの設定例	123
例：すべてのライセンスに関するサマリー情報の表示	123
例：Smart Licensing の有効化	124
Cisco Smart Licensing クライアントの追加情報	124
Cisco Smart Licensing クライアントに関する機能情報	125





## 第 1 章

# 最初にお読みください

### Cisco IOS XE 16 に関する重要な情報

Cisco IOS XE リリース 3.7.0E (Catalyst スイッチング用) および Cisco IOS XE リリース 3.17S (アクセスおよびエッジルーティング用) の2つのリリースは、コンバインドリリースの1つのバージョン - Cisco IOS XE 16 - に統合されました。この1つのリリースでスイッチングおよびルーティングポートフォリオのアクセスおよびエッジ製品を幅広くカバーしています。



(注)

技術構成ガイドの機能情報の表に、機能の導入時期を記載しています。他のプラットフォームがその機能をサポートした時期については、記載があるものも、ないものもあります。特定の機能が、使用しているプラットフォームでサポートされているかどうかを判断するには、製品のランディング ページに掲載された技術構成ガイドを参照してください。技術構成ガイドが製品のランディング ページに表示されると、その機能が該当のプラットフォームでサポートされているかどうかを示されます。





## 第 2 章

# 『Cisco IOS Software Activation Conceptual Overview』

Cisco IOS ソフトウェア アクティベーション機能は、シスコ ソフトウェア ライセンスを取得および確認して、Cisco ソフトウェアのフィーチャ セットをアクティブにするための、プロセスおよびコンポーネントの統合コレクションです。この機能を使用すると、ライセンス供与される機能を有効化して、次の方法でライセンスを登録できます。

- Cisco Product License Registration ポータルを使用。
- デバイスで Cisco EXEC コマンドを入力。
- Cisco License Manager を使用して、ネットワーク全体にわたる配置を対象にライセンスを一括して登録、取得、およびインストール。

このマニュアルでは、Cisco ソフトウェアのライセンシングプロセスの概要を示し、それらのプロセスでの Cisco IOS ソフトウェア アクティベーション機能の役割を説明します。

- [機能情報の確認, 3 ページ](#)
- [Cisco ソフトウェア ライセンシング プロセスに関する情報, 4 ページ](#)
- [その他の参考資料, 14 ページ](#)
- [Cisco IOS ソフトウェア アクティベーションの機能情報, 15 ページ](#)
- [用語集, 16 ページ](#)

## 機能情報の確認

ご使用のソフトウェア リリースでは、このモジュールで説明されるすべての機能がサポートされているとは限りません。最新の機能情報および警告については、[Bug Search Tool](#) およびご使用のプラットフォームおよびソフトウェア リリースのリリース ノートを参照してください。このモジュールで説明される機能に関する情報、および各機能がサポートされるリリースの一覧については、機能情報の表を参照してください。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

# Cisco ソフトウェア ライセンシング プロセスに関する情報

## Cisco ソフトウェア ライセンシングの概念

### Cisco Product License Registration Portal

Cisco Product License Registration ポータル (<http://www.cisco.com/go/license>) では、次のライセンス操作を実行できます。

- 製品認証キー (PAK) を登録してライセンスを取得します。
- 返品許可 (RMA) 交換用ライセンスに登録します。
- ライセンスの管理 (ライセンスを検索し、リホストチケットをアップロードしてください)。
- ライセンスの移行

ポータルにアクセスするには、Cisco.com アカウントが必要です。

### 製品認証キー

Cisco Product License Registration ポータルを使用するには、PAK が必要になる場合があります。PAK は、特定のプラットフォーム向けのフィチャセットの使用権を注文して購入すると提供されます。PAK は受領書の代わりになるもので、ライセンスの取得およびアップグレードにおける重要なコンポーネントです。

バルク PAK を購入して、デバイスのライセンスを複数取得することもできます。

### UDI

Cisco ソフトウェアでは、保存されている固有デバイス識別子 (UDI) とそのデバイスの UDI とを比較してライセンスの検証チェックを実行します。UDI とは、すべての Cisco ハードウェア デバイスに割り当てられる一意で変更不可能な識別子です。

UDI の主要なコンポーネントは、製品 ID (PID) とシリアル番号 (SN) の 2 つです。UDI はほとんどのシスコのハードウェア デバイスに、デバイスの背面にあるラベルに印刷されており、**show license udi** コマンドを使用して表示させることができます。



(注) ライセンスを登録するときには、正しい UDI を使用する必要があります。

## Cisco ソフトウェア ライセンスの検証

Cisco ソフトウェア ライセンシングは、検証キーのシステムを使用して、新しいフィーチャ セットを配置するための簡単なメカニズムを提供します。これにより、ソフトウェアをアップグレードおよび保守するための高度な機能がシスコのお客様に提供されます。

シスコ デバイスの一部のフィーチャ セットでは、有効にするためにライセンス キーが必要である場合があります。ライセンス キーはシスコ ライセンシング ポータルを使用して取得します。ポータルでは、特定のシスコ ソフトウェア フィーチャ セットのライセンス キーが発行され、ライセンスは UDI デバイスにロックされます。（これはノード固定ライセンスと呼ばれます。）

## Cisco License Manager

Cisco License Manager は、シスコのお客様に無料で提供されるクライアント ベースまたはサーバーベースのアプリケーションで、ネットワーク上のシスコ デバイスを自動的に検出し、ライセンス キーの収集タスクを簡素化します。

詳細については、「*User Guide for Cisco License Manager*」[http://www.cisco.com/en/US/products/ps7138/products\\_user\\_guide\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps7138/products_user_guide_list.html)）を参照してください。

## ソフトウェア エンド ユーザ ライセンス 契約書

ライセンシング プロセスの一部として、エンド ユーザ ライセンス 契約に記載されている条件に同意する必要があります。初めて新しいデバイスを使う際に契約は黙示的に承認されます。ただし、評価および拡張一時ライセンスのためのフィーチャ セットをアクティブにする前に明示的に契約に同意する必要があります。

エンド ユーザ ライセンス 契約書の条項は次の URL から確認できます。[http://www.cisco.com/en/US/docs/general/warranty/English/EU1KEN\\_.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/general/warranty/English/EU1KEN_.html)

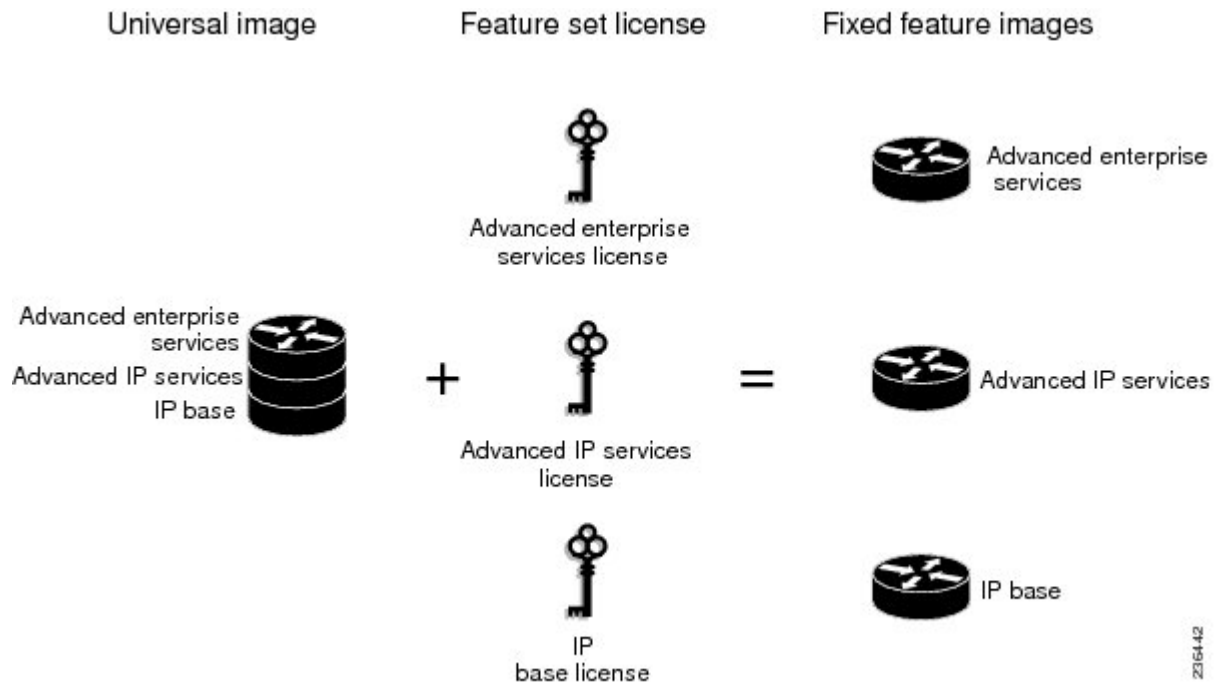
# イメージと機能のライセンス モデル

## Cisco IOS ユニバーサル イメージ ベースのライセンス

Cisco IOS ユニバーサル イメージには、1 つのイメージにすべての固定された機能イメージが含まれています。デバイスにインストールされているライセンスに基づいて必要な機能にアクセスで

きます。高度な機能セットのライセンスは低レベルの機能セットの内容を継承します。次の図は、ユニバーサル イメージができる機能セットと固定した機能イメージの例を示します。

図 1：ユニバーサル イメージのコンポーネントの例



プラットフォームには、すべての固定機能イメージのスーパーセットである単一のユニバーサル イメージがあります。固定機能イメージは、イメージにシステム機能の一部だけが含まれるパッケージの古い形式です。プラットフォームでサポートされている固定機能イメージは事前に定義されており、プラットフォームによって異なります。特定の固定機能イメージの機能性はライセンスの可用性に基づいて有効になります。

ソフトウェア パッケージはパッケージの総数を統合し、すべてのハードウェア製品で一貫したパッケージ名を使用することで、イメージの選択プロセスを簡素化します。

購入するイメージレベルのライセンスに対応するすべてのサブシステムを起動させるために、イメージベースのライセンスが使用されます。イメージ ライセンスはブート時にのみ適用されません。

シスコデバイスのアップグレードに使用できる機能セットは、次の URL からアクセスできる Cisco IOS ソフトウェア パッケージの Web ページに掲載されています。<http://www.cisco.com/en/US/products/sw/iosswrel/ps5460/index.html>

## 機能ベースのライセンス

イメージベース ライセンスが使用され、適切なサブシステムが有効化されると、個々の機能を有効にするために個々の機能ライセンスが使用されます。

ライセンス キーは、個々の機能を有効または無効にします。機能は有効になる前に自身のライセンスを確認し、以下に基づいて動作を調整します。

- 無期限ライセンスの有効化
- 期限付き評価ライセンスの期限切れ
- サブスクリプション ライセンスの有効性

## ライセンスタイプ

### 永久ライセンス

永久ライセンスは永続的です（つまり、使用期間が関連付けられていません）。恒久ライセンスをインストールすると、ソフトウェア イメージの機能にアクセスするために必要なすべての権限が提供されます。ソフトウェアのインストール中、すべての恒久ライセンスはシスコのライセンシング インフラストラクチャによってノードが固定され、検証されます。恒久ライセンスをインストールすれば、その後のリリースでもライセンスをアップグレードする必要はなくなります。

シスコの製造部門では、購入された機能セットに対応するパーマネントライセンスを、注文されたデバイスにプリインストールします。ソフトウェアのアクティベーションプロセスを使用して新しいデバイスのライセンスを有効にする必要はありません。

### 一時ライセンス

一時的なライセンスの使用は、特定の期間（たとえば60日間）に限定されます。一時ライセンスをアクティブにする前に、エンド ユーザ ライセンス契約に同意する必要があります。

一時ライセンスには3種類あります。シスコのイメージに組み込まれたもの、Cisco Product License Registration ポータルから取得する評価ライセンス、およびシスコ テクニカル アシスタンス センター（TAC）から取得する拡張ライセンスです。

組み込みライセンスも評価目的に使用できますが、組み込みライセンスは非常時のみの使用を推奨しています。評価ライセンスはセルフサービスの Cisco Product Licensing Registration ポータルから取得します。

次の各項では、一時ライセンスのタイプを詳しく定義します。

### 緊急用の組み込みライセンス

デバイスが故障した場合にネットワークのダウンタイムを回避する際に、代替りのデバイスに故障したデバイスと同じライセンスがない場合、ソフトウェア イメージの組み込みライセンス（評価ライセンス）を使用します。これを使用するとライセンス キーを必要とせずに必要な機能を実際に設定できます。ただし、この場合でも、エンドユーザライセンス契約に同意する必要があります。また、このタイプのライセンスには 60 日の使用期限があることをご了承ください。



(注) RMA 交換用無期限ライセンスは、Cisco Product License Registration ポータルで取得できます。

## 評価ライセンス

評価ライセンスも一時的なものであり、新しいハードウェアでフィーチャー セットを評価するために使用します。

シスコ ライセンシング ポータル ([Licensing Portal for Demo Licenses](#)) から評価ライセンスを取得します。



(注) 評価ライセンスの期限が切れる前に、Cisco Product License Registration ポータルにアクセスしてライセンスのステータスをアップグレードする必要があります。

## 拡張ライセンス

評価ライセンスの期限が切れた場合、TAC に連絡して拡張ライセンスを取得できます。拡張ライセンスは、評価ライセンスと同様にノード固定で、使用方法に応じて有効期間が特定の期間（60 日など）に制限されます。



(注) 拡張ライセンスの使用許可を取得する必要があります。

## 非カウントまたはカウント ライセンス

機能ベースのライセンスはカウントライセンスか非カウントライセンスのいずれかです。非カウントライセンスにはカウントはありません。カウントライセンスには一定の回数が割り当てられています。システムで使用する有効な機能のインスタンスを示す回数がライセンスに関連付けられているということです。

## 成長に応じて拡張可能なモデル

成長に応じて拡張可能なモデルでは、ライセンス キーを使用して、ハードウェアとソフトウェアの容量をアップグレードします。新しいハードウェアを追加するために RMA を完了する必要はありません。アップグレードを購入して、電子的に配信させて、ライセンス キーを使って容量を増やします。シスコワイヤレスコントローラーは、ワイヤレスサービスのためのアクセスポイントを 12、25、50、100、または 250 箇所と動的に拡張する例の 1 つです。



## サブスクリプション ライセンス

サブスクリプション ライセンスは、一定期間ライセンス対象の機能にソフトウェアの強化を提供します。

これらのノード固定ライセンス タイプはサブスクリプション ライセンスでサポートされています。

- 評価サブスクリプション ライセンス
- 拡張サブスクリプション ライセンス
- 有料サブスクリプション ライセンス

## ソフトウェア アクティベーション プロセス

ソフトウェアアクティベーションでは、ライセンスキーを使用して、デバイスのさまざまなフィチャセットを有効にします。



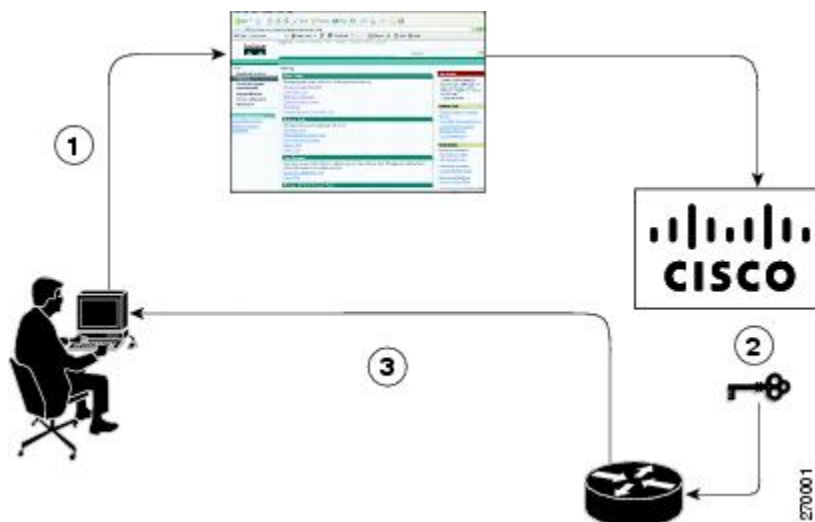
(注)

ソフトウェアに機能またはメンテナンス アップグレードをいつでも適用できます。メンテナンス アップグレードでは、ソフトウェア アクティベーション プロセスを使用する必要はありません。

## 製造時にプレインストールされるライセンス

次の図は、製造時にプレインストールされるライセンスのワークフローの概要を示します。

図 2：製造時にプレインストールされるライセンスのワークフロー



製造時にプレインストールされるライセンスのワークフローを次に示します。

- 1 シスコの販売注文ツールを使用してシスコのデバイスを注文します。
- 2 ITシステム製造部門は発注情報を取得し、デバイスを製造します。また、製造部門はライセンスサーバにアクセスして製造中のデバイスのライセンスキーを取得し、デバイスにコードをインストールします。デバイスが出荷されます。
- 3 デバイスを取り付けて設定し、デバイスの運用を開始します。ソフトウェアを使用前にアクティブ化または登録する必要はありません。新しいデバイスは、受信して実行する準備ができました。

## Cisco License Manager を使用したソフトウェアアクティベーションの自動化

Cisco License Manager は、さまざまなデバイスの Cisco Product Licensing Registration ポータルと透過的に連携します。Cisco License Manager アプリケーションを導入すると、ソフトウェアライセンスをアップグレードおよび登録する手順の多くを自動化できます。たとえば、PAK を入力して、ライセンスをインストールするデバイスを選択できます。

ネットワーク全体にわたる配置の場合、Cisco License Manager は、セキュリティで保護された方法で Cisco.com のバックエンドライセンス取得システムと通信し、取得したライセンスをネットワーク全体の管理対象デバイスに配置することで、ライセンスに関連するすべてのワークフローを自動化できます。また、導入されたライセンスのインベントリを保持したり、ライセンスレポートを生成したりすることもできます。

次の図は、Cisco License Manager による自動アップグレードでライセンスをアップグレードするワークフローを示します。



自動化されたライセンス移動によるライセンスアップグレード用のワークフローは次のとおりです。

- 1 Cisco License Manager は移動元デバイス、移動先デバイスおよび移動する在庫保管単位 (SKU) を特定します。

- 2 Cisco License Manager は自動的に移動元デバイスのデバイス認定証を特定します。
- 3 Cisco License Manager は、自動的に Cisco.com と通信して、リホストのプロセスを開始するために使用される許可チケットを取得します。リホストチケットを取得するために送信元デバイスへ許可チケットが適用されます。
- 4 Cisco License Manager は、移動先デバイスの UDI を通じて自動的にリホスト チケットを送信し、Cisco Product Licensing Registration ポータルからライセンス キーを自動的に取得します。
- 5 Cisco License Manager が移動先デバイスにライセンス キーを自動的にインストールします。

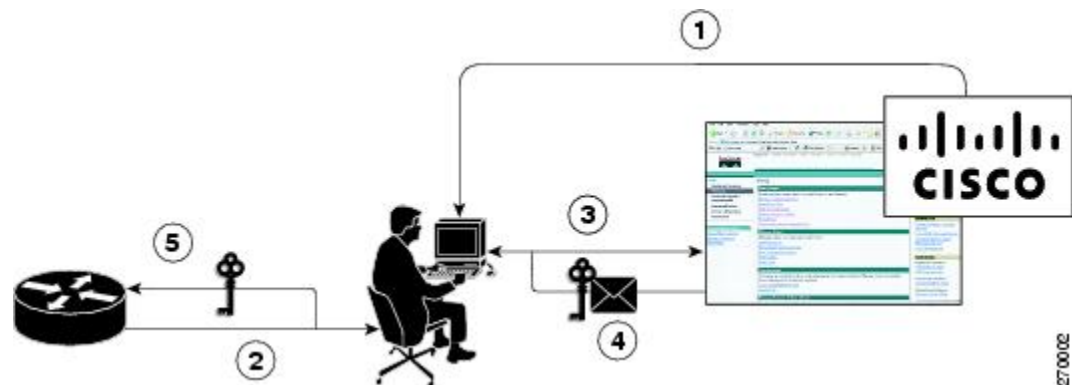
詳細については、[http://www.cisco.com/en/US/products/ps7138/products\\_user\\_guide\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps7138/products_user_guide_list.html) の *User Guide for Cisco License Manager* を参照してください。

## EXEC コマンドを使用したライセンス ソフトウェア アクティベーション

ライセンス キーを電子メールで電子的に、または郵送で受信した後、シスコ EXEC コマンドを使用してライセンスをインストールします。

次の図は、手動によるライセンス履行のアップグレード手順のワーク フローを示します。

図 4：手動によるライセンス履行のためのライセンス アップグレードのワークフロー



手動によるライセンス履行のライセンス アップグレードプロセスのワーク フローは次のとおりです。

- 1 希望するライセンスの種類に必要な PAK を購入します。一部 PAK を必要としないライセンスには契約が必要な場合があります。
- 2 デバイスから UDI を取得します。
- 3 Cisco Product License Registration ポータルに UDI と PAK を入力します。契約ライセンスの場合は非 PAK ベース ライセンスのリンクに従い、デバイスの UDI を送信します。
- 4 ポータルは PAK に関連付けられる SKU を取得します。SKU を選択して、ライセンスのインストール先であるデバイスの固有で変更不可能な識別子 UDI を入力します。ライセンス キーが電子メールで送信されるので、キーを使ってライセンスをインストールします。

- 5 CLI を使ってライセンス ポータルからデバイスに戻されたライセンス ファイルをインストールします。

## デバイス間でのライセンスの転送

シスコでは、デバイス間でのライセンスの移動シナリオとして次の 2 つをサポートしています。

- 1 最初のシナリオでは、移動元デバイスと移動先デバイスの両方がアクティブになっていて正常に動作しています。このシナリオでは、移動元デバイスのライセンスを取り消して、移動先デバイスに対して新しい永久ライセンスを発行します。
- 2 2 番目のシナリオは、いずれかのデバイスが使用できない障害シナリオです。このシナリオでは、故障したデバイスのライセンスは Cisco Product License Registration ポータルにある RMA ライセンス転送プロセスを使って RMA または交換されたデバイスに転送されます。

次の項では、このような場合について説明します。

### 2 つの稼働中のデバイス間でのライセンス移動

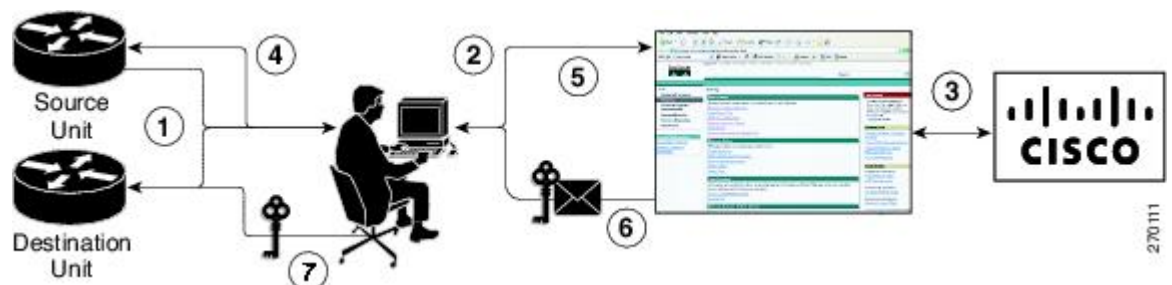
シスコでは、すべて自動化された、お客様主導の、質問されることがないライセンス移動をサポートしています。2 つの動作デバイス間でライセンスを転送することは再ホストと呼ばれるプロセスを使用して実行します。再ホストプロセスでは、移動元デバイスのライセンスを取り消して、新しいデバイスにライセンスをインストールすることで、ある UDI から別の UDI にライセンスを移動します。

次のいずれかの方法を使用して、ライセンス移動（再ホスト）を実行します。

- Cisco Product License Registration ポータル
- Cisco IOS License Call Home コマンド
- Cisco License Manager アプリケーション

下の図に、ライセンスの再ホスト（移動）のプロセスを示します。

図 5: ライセンスの移動のワークフロー



次に、Cisco Product License Registration ポータルを使用したライセンスの移動プロセスの概要を示します。

- 1 CLI コマンドを使用して、移動元デバイスと移動先デバイスから UDI とデバイス認定証を取得します。
- 2 Cisco.com の製品ライセンス登録ページにアクセスし、ライセンス移動ポータル ツールに移動元デバイスのデバイス認定証と UDI を入力します。
- 3 移動元デバイスから移動できるライセンスがポータルに表示されます。
- 4 移動するライセンスを選択します。権限チケットが発行されます。この権限チケットを使用すると、CLI コマンドで再ホスト プロセスを開始することができます。
- 5 **license revoke** コマンドを使って送信元デバイスに権限チケットを適用します。取り消しの証拠となる再ホスト チケットが移動元デバイスから発行されます。デバイスには、60 日の猶予期間付きのライセンスもインストールされます。これにより、移動先デバイスへのライセンスの移動に必要な時間が確保されます。
- 6 Cisco.com のライセンス移動ポータルツールに、再ホストチケットと移動先デバイスの UDI を入力します。
- 7 ライセンス キーを電子メールで受け取ります。
- 8 移動先デバイスにライセンス キーをインストールします。

**license call-home resend** コマンドの実行後送信元デバイスが Cisco Product License Registration ポータルに連絡し、送信元デバイスからライセンス キーを取り消した後で移動先デバイスのためのライセンス キーを取得します。送信元デバイスに保存されているライセンス キーが移動先デバイスにインストールされて転送が完了します。

Cisco License Manager を使用して、自動処理のための GUI ウィザードから送信元デバイスと移動先デバイスを選択できます。

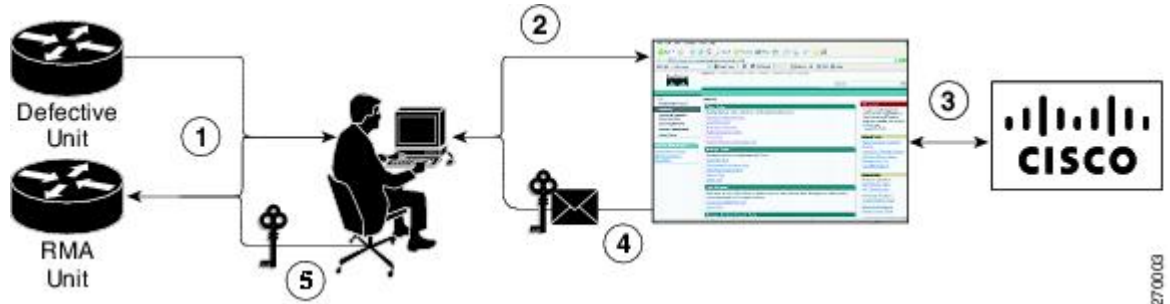
### 問題のあるデバイスと作動デバイスの間の RMA ライセンスの移行

問題のあるデバイスから新しいデバイスにソフトウェアライセンスを転送する前に、Cisco Product License Registration ポータルに両方のデバイスから UDI 情報を入力する必要があります。ポータルで RMA 交換ライセンス (<http://www.cisco.com/go/license>) が発行されます。

ライセンスの取得に関するサポートが必要な場合には、次の URL にある Technical Assistance Center (TAC) にご連絡ください。 <http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html>

次の図は、RMA 交換ライセンスのライセンス移行のワークフローを示します。

図 6：RMA 交換ライセンスのライセンス移行のワークフロー



RMA 交換ライセンスのプロセスの手順を次に示します。

- 1 欠陥のあるデバイスと RMA デバイスの UDI を取得します。
- 2 Cisco.com の RMA ライセンス ポータル ツールに UDI を入力します。
- 3 ライセンス ポータルで欠陥のあるデバイスに関連付けられているライセンスが特定されます。
- 4 ライセンス ポータルが交換ライセンスを発行します。
- 5 新しいデバイスに新しいライセンスをインストールします。

## ライセンスの再送信要求

元のライセンスが紛失あるいは間違った場所にある場合、特定の UDI 用のライセンスがすべて再送信されるように EXEC コマンドを入力します。受信したライセンス行はコマンドによって指定した場所に保存されます。

Cisco License Manager では、容易に操作できる GUI でこの機能を実行することができます。



(注) ライセンス再送信を要求するにはインターネット接続が必要です。

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Master Commands List, All Releases』</a>
ソフトウェア アクティベーション コマンド	「 <i>Software Activation Command Reference</i> 」

関連項目	マニュアル タイトル
ソフトウェア アクティベーション設定	『Configuring the Cisco IOS Software Activation Feature』 モジュール。

## MIB

MIB	MIB のリンク
CISCO-LICENSE-MGMT-MIB	選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェア リリース、およびフィーチャ セットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

# Cisco IOS ソフトウェア アクティベーションの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェア イメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 1: Cisco IOS ソフトウェア アクティベーションの機能情報

機能名	リリース	機能情報
『Cisco IOS Software Activation』	12.4(15)XZ 12.4(20)T 15.0(1)M	<p>Cisco IOS ソフトウェア アクティベーション機能は基本ライセンス プロセスをサポートします。</p> <p>この機能はプラットフォームに依存していません。</p> <p>下記の機能モジュールでは、Cisco ソフトウェア アクティベーションについての情報を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『Configuring the Cisco IOS Software Activation Feature』モジュール。</li> </ul>

## 用語集

**CiscoLicenseManager** : ライセンスを追跡および管理するためのグラフィカルユーザインターフェイス (GUI) を提供するソフトウェア ツール。

**ライセンス ファイル** : シスコ ライセンシング ツールで生成されるファイル。製品にライセンスをインストールするために使用されます。ライセンス ファイルには、1 つ以上のライセンス行が格納されます。

**ライセンス キー** : シスコ ソフトウェア フィーチャ セットの使用权を有効にする一意の値。

**ライセンス行** : 特定の形式で配置された文字列。1 つの機能のライセンスを保持します。1 つの行には、必要なすべてのフィールドと属性が含まれています。これにより、有効で、改ざんできない、完成したライセンスになります。単一の行は個別に存在できます。

**ライセンス マネージャ** : お客様のライセンスの追跡および管理に使用されるアプリケーション。

**ライセンスサーバ** : ハードウェアの製造所にあるソフトウェアツール。製品ライセンスを生成します。

**ライセンスストレージ** : ライセンス行のコレクションを格納するファイル。ライセンスファイルは、ライセンスを取得したデバイスにあります。このファイルは永続ストレージ内にあります。

**ノード固定** : 一意のライセンスの、一意のハードウェア プラットフォームへの明示的なバインディング。ノード固定ライセンスは、システム内の UDI の 1 つに固定されます。非ノード固定ライセンスは、どの UDI にも固定されません。



**PAK**：製品認証キー。PAKは、特定のプラットフォーム向けのフィーチャセットの使用権を注文して購入すると提供されます。PAKは受領書の代わりになるもので、ライセンスの取得プロセスの一部として使用されます。

**権限チケット ファイル**：手動リホスト プロセス中にリホスト チケットを取得するために使用されるシスコのライセンシングにより生成されるファイル。権限チケット ファイルには、リホストするライセンスの追加および削除操作が1つ以上含まれています。

**永続ライセンス**：使用権が恒久的に継続するライセンス。これらのライセンスは、必要な限り恒久的に使用できます。

**永続ストレージ**：ライセンスが付与されたデバイスのライフタイムにわたって存続し、イメージが変更された場合でも削除されないファイル。このファイルは、書き込みが一度しかできないストレージ領域に格納されます。永続ファイルでは、デバイスのライセンス履歴と、ライセンスの削除、期限切れ、再ホストなどに関する特定の情報が保持されます。

**再ホスト**：あるプラットフォームから別のプラットフォームに有効なライセンスを移動するプロセス。これは、元のプラットフォームでライセンスが無効になることを意味します。

**リムーバブル ストレージ**：コンパクト フラッシュまたは USB など、データの保存およびアクセスに使用するポータブル デバイス。

**RMA**：返品許可。お客様が欠陥のある製品を返品するプロセスです。

**シグニチャ サーバ**：製品のライセンスを生成するサーバ。シスコの製造所にあります。権限ファイル ジェネレータと呼ばれることもあります。

**SKU**：在庫保管単位。インベントリの追跡および監視に使用される、一意の個別部品番号。シスコ ソフトウェア ライセンシング SKU は、1つ以上のソフトウェア機能にマップされます。

**スタック**：スイッチ スタック。StackWise ポートを通じて接続された、最大 9 個の Catalyst 3750 スwitchのセットです。

**登録ベースのライセンス**：ユーザによる定期的な更新を必要とする時間ベースのライセンス。ユーザが定期的に更新しないと、契約期間の経過後にライセンスの有効期限が切れます。

**SWIFT**：Software Infrastructure and Fulfillment Technology。HTTPS を使用してインターネット経由でアクセスするシスコのライセンシング インフラストラクチャ。Cisco License Manager は、さまざまなデバイスに代わってシスコ ライセンシング インフラストラクチャと通信します。シスコ ソフトウェアのコマンドを使用して、シスコライセンシングインフラストラクチャと通信できます。

**UDI**：一意のデバイス ID。UDI は、シスコ全体で使用される製品識別スキーマです。UDI には、製品 ID、バージョン ID、およびシリアル番号が含まれます。UDI は導入時に変更されません。UDI という用語がライセンシングのコンテキストで使用される場合、通常は製品 ID とシリアル番号だけを指します。

**汎用イメージ**：シスコのすべての機能レベルを含む単一のソフトウェア イメージ。これらのレベルは、適切なライセンスをインストールすることで有効化できます。





## 第 3 章

# Cisco IOS ソフトウェア アクティベーション 機能の設定

このドキュメントでは、Cisco IOS アクティベーション機能、ライセンス キー、および Cisco EXEC コマンドを使用してソフトウェアをアクティブ化するための作業とコマンドについて説明します。シスコ デバイスからソフトウェアをアクティブにすると、その他のアプリケーションソフトウェアを使用せずに、ソフトウェアを認可できます。

- [機能情報の確認, 19 ページ](#)
- [Cisco IOS ソフトウェア アクティベーションの制限, 20 ページ](#)
- [Cisco IOS ソフトウェア アクティベーションに関する情報, 20 ページ](#)
- [Cisco IOS デバイスのソフトウェアをアクティベートする方法, 20 ページ](#)
- [ソフトウェア ライセンシングの設定例, 31 ページ](#)
- [その他の参考資料, 36 ページ](#)
- [Cisco IOS ソフトウェア アクティベーションの機能情報, 37 ページ](#)

## 機能情報の確認

ご使用のソフトウェア リリースでは、このモジュールで説明されるすべての機能がサポートされているとは限りません。最新の機能情報および警告については、[Bug Search Tool](#) およびご使用のプラットフォームおよびソフトウェア リリースのリリース ノートを参照してください。このモジュールで説明される機能に関する情報、および各機能がサポートされるリリースの一覧については、機能情報の表を参照してください。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェア イメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

## Cisco IOS ソフトウェア アクティベーションの制限

シスコのすべてのハードウェア プラットフォームで Cisco IOS ソフトウェア アクティベーション機能を使用できるわけではありません。どのプラットフォームとイメージが Cisco IOS ソフトウェア アクティベーション機能をサポートしているかを判断するために「Cisco IOS ソフトウェア アクティベーションの機能情報」の項と <http://www.cisco.com/go/cfn> を使用します。

Cisco IOS ソフトウェア アクティベーション機能をサポートするスタックブルスイッチでは、1つのスイッチがプライマリに、それ以外がセカンダリになります。プライマリ スイッチは自身のおよびセカンダリ スイッチの管理と管理操作を実行します。

## Cisco IOS ソフトウェア アクティベーションに関する情報

### ライセンス有効化の MIB サポート

Cisco IOS ソフトウェア アクティベーション機能は SNMP ベースのライセンス管理と管理タスクを許可するよう、CISCO-LICENSE-MGMT-MIB を導入します。この MIB の説明は、次の URL のツールを使用することで確認できます。 <http://tools.cisco.com/ITDIT/MIBS/servlet/index>

CISCO-LICENSE-MGMT-MIB を選択するには MIB Locator と MIB の選択ボックスを使います。

固有デバイス識別子 (UDI) もまた、管理情報ベース (MIB) システムのエンティティ名と製品の説明のデータ要素に関連付けられます。エンティティ名の MIB 名称は entPhysicalName、製品の説明は entPhysicalDescr です。

## Cisco IOS デバイスのソフトウェアをアクティベートする方法

### ソフトウェア アクティベーション コマンドを使用したライセンスのインストールとアップグレード

はじめる前に

『Cisco IOS Software Activation Conceptual Overview』モジュールのライセンスアクティベーションプロセスの概念を読み、内容を理解してください。

**license install** コマンドを使用して、ライセンスをインストールまたはアップグレードするには <http://www.cisco.com/go/license> の Cisco Product License Registration ポータルから前もってライセンス ファイルを受信する必要があります（または、**license save** コマンドを使用して、ライセンスをバックアップしておきます）。

Microsoft の Entourage を使用し、シスコから電子メールの添付ファイルでライセンス ファイルを受信すると、ライセンス ファイルには、UTF-8 マーキングが含まれています。このようなライセンス ファイルの余分なバイトによりライセンスのインストール時にライセンス ファイルが使用できなくなります。この問題を回避するには、テキスト エディタを使用して余分な文字を削除してからライセンス ファイルをインストールします。UTF-8 エンコードについての詳細は、次の URL を参照してください。 <http://www.w3.org/International/questions/qa-utf8-bom>



- (注) インストール プロセスでは、重複するライセンスはインストールされません。このメッセージは、重複するライセンスが検出されたときに表示されます。

```
Installing...Feature:xxx-xxx-xxx...Skipped:Duplicate
```



- (注) ライセンスに関する不一致が見つかり、スタンバイ デバイスは 2 回リブートします。

## 手順の概要

1. PAK を入手します。
2. **enable**
3. **show license udi**
4. Cisco Product License Registration ポータル <http://www.cisco.com/go/license> に PAK と UDI を入力して、PAK をライセンスに変換します。
5. **license install***stored-location-url*
6. **configure terminal**
7. **license boot level {metroaggrservices}**
8. **write memory**
9. **reload**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	PAK を入手します。	PAK は、特定のプラットフォーム用のフィーチャセットの使用権を注文および購入するときに付与されます。  • PAK は受領書の代わりになるもので、ライセンスの取得プロセスの一部として使用されます。
ステップ 2	<b>enable</b>  例：  Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<b>show license udi</b>  例 : Device# show license udi	システムで検証できるすべての UDI 値が表示されます。  <ul style="list-style-type: none"> <li>ライセンスを取得するプロセスの一環として、デバイスの UDI が必要です。</li> </ul>
ステップ 4	Cisco Product License Registration ポータル <a href="http://www.cisco.com/go/license">http://www.cisco.com/go/license</a> に PAK と UDI を入力して、PAK をライセンスに変換します。	適切な情報を入力すると、ライセンスのインストールに使用するライセンス情報を含む電子メールを受信します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>Cisco Product License Registration ポータルから受信したライセンス ファイルをデバイスの適切なファイル システムにコピーします。</li> </ul> または  <ul style="list-style-type: none"> <li>Web ページの [Install] ボタンをクリックします。</li> </ul>
ステップ 5	<b>license install</b> <i>stored-location-url</i>  例 : Device# license install tftp://infra-sun/<user>/license/5400/38a.lic	ライセンスをインストールします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>プロンプトが出されたら、エンドユーザ ライセンス契約書に同意します。</li> </ul>
ステップ 6	<b>configure terminal</b>  例 : Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 7	<b>license boot level {metroaggrservices}</b>  例 : Device(config)# license boot level metroaggrservices	次回のリロード時にデバイスで metroaggrservices ライセンスを有効化します。
ステップ 8	<b>write memory</b>  例 : Device# write memory	NVRAM に実行コンフィギュレーションを保存します。
ステップ 9	<b>reload</b>  例 : Device# reload	(任意) デバイスを再起動して、新しいフィーチャセットをイネーブルにします。  (注) リロードは、ASR 903 ルータ上で評価ライセンスから同じライセンス レベルの恒久ライセンスに移動される場合は不要です。

	コマンドまたはアクション	目的
--	--------------	----

## ソフトウェア アクティベーション コマンドを使用したライセンス管理

### ライセンス ファイルへのコメントの追加

#### 手順の概要

1. **enable**
2. **license comment add***feature-name comment* [**switchswitch-num**]
3. **show license file** [**switchswitch-num**]

#### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>  例 :  Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>license comment add</b> <i>feature-name comment</i> [ <b>switchswitch-num</b> ]  例 :  Device# license comment add gsmamrnb-codec-pack "Use this permanent license"	特定のライセンスに関する情報を追加したり、削除したりします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• （Cisco Catalyst 3750-E スイッチ プラットフォームでのみ）スイッチ番号が指定されている場合、このコマンドは指定されたスイッチで実行されます。</li> <li>• ライセンスがライセンス ストレージにあり、複数のライセンスの行が保存されている場合、ライセンス行を選択するプロンプトが表示されます。ライセンスを選択するには、<b>Select Index to Add Comment</b> プロンプトで番号を入力します。</li> </ul>
ステップ 3	<b>show license file</b> [ <b>switchswitch-num</b> ]  例 :  Device# show license file	シスコ ソフトウェア ライセンス ファイルに追加されたコメントが表示されます。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• デバイスがスイッチの場合、このコマンドでは、指定したスイッチからの統計情報を取得します。</li> </ul>

## 指定されたストレージ エリアへのすべてのライセンスの保存

### 手順の概要

1. **enable**
2. **license savefile-sys://lic-location [switchswitch-num]**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>  例 : <pre>Device&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>license savefile-sys://lic-location [switchswitch-num]</b>  例 : <pre>Device# license save flash:all_licenses.lic</pre>	デバイスのすべてのライセンスのコピーを保存し、指定した保存場所のコマンドに必要な形式で保存します。保存したライセンスは、 <b>license install</b> コマンドを使用して復元できます。  <ul style="list-style-type: none"> <li><b>lic-location</b> : ライセンスの保存場所は、ファイルシステムを指すディレクトリまたは URL です。デバイスでサポートされている保存場所を確認するには、<b>?</b> コマンドを使用します。</li> <li>（任意） <b>switchswitch-num</b> : スイッチ スタック内の特定のスイッチにこの要求を送信します。</li> </ul>

## デバイスに関連付けられたライセンスクレデンシャル情報の指定ストレージエリアへの保存

### はじめる前に

リホストまたはプロセスの再送信を開始する前に、デバイスのクレデンシャルが必要です。シスコ ソフトウェア ライセンスでは、シスコのバックエンド ライセンス システムがデバイス用として生成するライセンス ファイルが、安全で不正な変更を防ぐよう設定されていることが必須です。セキュリティ機能は暗号化されたライセンス クレデンシャルでライセンスを認証するためのものです。1 つのデバイスから別のデバイスにライセンスを転送すること（再ホスト）が必要な場合は権限チケットが必要です。権限チケットを生成するには、シスコのバックエンド ライセンス システムにデバイスのクレデンシャル情報が必要になります。



## 手順の概要

1. **enable**
2. **license save credential***file-sys://lic-location* [**switchswitch-num**]

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>  例 : <pre>Device&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>license save credential</b> <i>file-sys://lic-location</i> [ <b>switchswitch-num</b> ]  例 : <pre>Device# license save credential flash:cred.lic</pre>	指定された URL にデバイスに関連付けられたクレデンシャル情報を保存します。  <ul style="list-style-type: none"> <li><i>lic-location</i> : ライセンスの保存場所は、ファイル システムを指すディレクトリまたは URL です。デバイスでサポートされている保存場所を確認するには、<b>?</b> コマンドを使用します。</li> <li>(任意) <b>switchswitch-num</b> : スイッチ スタック内の特定のスイッチにこの要求を送信します。</li> </ul>

## デバイス上のすべてのライセンスの表示

## 手順の概要

1. **enable**
2. **show license all**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>  例 : <pre>Device&gt; enable</pre>	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	<b>show license all</b>  例 : Device# show license all	デバイス上のすべてのライセンスに関する情報を表示します。

## ライセンス対象の機能の詳細情報の表示

### 手順の概要

1. **enable**
2. [show license detail] *[feature-name]*

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>  例 : Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	[show license detail] <i>[feature-name]</i>  例 : Device# show license detail	すべてのライセンス対象の機能または指定されたライセンス対象の機能に関する詳細情報を表示します。

## 利用可能なライセンス対象の機能セットの画像表示

### 手順の概要

1. **enable**
2. **show license feature**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>  例 : Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>show license feature</b>  例 : Device# show license feature	利用可能なライセンス対象の機能一覧を画像で表示します。

## ソフトウェア アクティベーション コマンドを使用したライセンス削除

### 恒久ライセンス ファイルからのライセンス エントリの削除



(注)

- **license clear** コマンドは、すべてのライセンスをクリアしますが、組み込みライセンスなどクリアできないライセンスもあります。
- 削除できるのは、**license install** コマンドを使用して追加されたライセンスだけです。評価ライセンスは削除されません。
- ライセンスが使われていない場合 **license clear** コマンドがこの機能に関連するすべてのライセンスを表示し、選択が促されます。デバイスで利用できるライセンスが 1 つか複数かによって異なるプロンプトが表示されます。選択したライセンスは、デバイスから削除されます。
- ライセンスが使用されている場合は、**license clear** コマンドは失敗する可能性があります。ただし、ライセンスを使用するアプリケーション ポリシーによって、クリアできるライセンスもあります。
- スイッチを指定すると、**license clear** コマンドがそのスイッチ上に発行されます。混在スタックプラットフォームを使用すると、プライマリ スイッチにはセカンダリ スイッチのライセンス運用のサポートに必要な最低限の機能ライセンスをインストールしておく必要があります。このコマンドがプライマリ スイッチから発行されると、スイッチ上のライセンスをクリアするにはスイッチ番号が必要となります。

## 手順の概要

1. **enable**
2. **license clear***feature-name* [**switchswitch-num**]
3. **show license detail**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>  例 :  Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>license clear</b> <i>feature-name</i> [ <b>switchswitch-num</b> ]  例 :  Device# license clear gsmamrnb-codec-pack	ライセンスの行が有効で、明示的にインストールされたことを確認したら、ライセンス ストレージからライセンス エントリが削除されます。  • オプションの <b>switchswitch-num</b> キーワードと引数はスイッチ スタックの特定のスイッチにこの要求を送信します。  • 削除するライセンスのインデックス番号を選択する必要があります。Select Index to Clear プロンプトにインデックス番号を入力します。
ステップ 3	<b>show license detail</b>  例 :  Device# show license detail	ライセンスが削除されたことを確認します。

## ライセンスのリホスト（取り消しおよび移行）

## はじめる前に

『Cisco IOS Software Activation Conceptual Overview』 モジュールのデバイス間のライセンスの転送の概念を読み、内容を理解してください。

シスコ ソフトウェア ライセンスでは、シスコのバックエンド ライセンス システムがデバイス用として生成するライセンス ファイルが、安全で不正な変更を防ぐよう設定されていることが必須です。セキュリティ機能は暗号化されたライセンス クレデンシャルでライセンスを認証するためのものです。リホストには権限チケットが必要です。シスコのバックエンドシステムのライセンスは、権限チケットを生成するため、デバイスのクレデンシャル情報を必要とします。指定され

たファイル システムにデバイス クレデンシャル情報を保存するには **license save credential** コマンドを使用します。

## 手順の概要

1. **enable**
2. **license revokepermission-file-url output-rehost-ticket-url**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>  例 :  Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>license revokepermission-file-url output-rehost-ticket-url</b>  例 :  Device# license revoke tftp://infra-sun/ramanp/pt.lic flash:rt.lic	シスコのバックエンド ライセンス システムが提供する権限チケットを使用してライセンスを取り消して転送します。デバイスから、元の永久ライセンスを削除し、新しいデバイスにライセンスを提供します。  • エンドユーザ ライセンス契約書には権限チケットのすべての猶予期間付きライセンスが表示されます。  • 契約書を読んで同意してください。ライセンス契約に同意しないとリホストの動作は停止します。

# ソフトウェアアクティベーションコマンドを使用したトラブルシューティング ライセンスの運用

## 手順の概要

1. **enable**
2. **show license file [switchswitch-num]**
3. **show license statistics**
4. **show license status [switchswitch-num]**
5. **debug license {all | core | errors | events}**
6. **no debug license {all | core | errors | events}**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>  例 : Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>show license file [switchswitch-num]</b>  例 : Device# show license file	シスコソフトウェアライセンスファイルに保存されているライセンスエントリと詳細を表示します。デバイスがスイッチの場合、このコマンドでは、指定したスイッチからの統計情報を取得します。
ステップ 3	<b>show license statistics</b>  例 : Device# show license statistics	統計情報を表示します。表示はエラー数に関する統計情報が含まれており、ライセンス関連の問題のトラブルシューティングに便利です。
ステップ 4	<b>show license status [switchswitch-num]</b>  例 : Device# show license status	システムのライセンスの状態を表示します。デバイスがスイッチであれば、このコマンドでは、指定したスイッチからのステータスを取得します。
ステップ 5	<b>debug license {all   core   errors   events}</b>  例 : Device# debug license errors	デバイスの制御されたソフトウェアライセンスのデバッグアクティビティを有効にします。
ステップ 6	<b>no debug license {all   core   errors   events}</b>  例 : Device# no debug license errors	デバイスのライセンスデバッグアクティビティを無効にします。

# ソフトウェア ライセンシングの設定例

## 例：ライセンスのインストールとアップグレード

次に、**license install** コマンドを使ってデバイス上の TFTP に保存されたライセンスを設置する方法の例を示します。表示は読みやすいように省略されています。

```
Device# license install tftp://infra-sun/<user>/license/5400/38a.lic
Installing licenses from "tftp://infra-sun/<user>/license/5400/38a.lic"
Loading <user>/license/5400/38a.lic from 172.19.211.47 (via GigabitEthernet0/0): !
[OK - 1192 bytes]
Extension licenses are being installed in the device with UDI "AS54XM-AC-RPS:JAE0948QXKD"
for the following features:
  Feature Name: gsmamrnb-codec-pack
PLEASE READ THE FOLLOWING TERMS CAREFULLY. . .
ACCEPT? [yes/no]: yes
Issue 'license feature gsmamrnb-codec-pack' command to enable the license
Installing...Feature:gsmamrnb-codec-pack...Successful:Supported
```

## 例：ライセンス ファイルへのコメントの追加

次の例は、特定のライセンスに関する情報を追加または削除する **license comment** コマンドの使用方法について説明します。このコマンドは、指定された機能に関連するライセンスがライセンス ストレージにあることを確認します。スイッチ番号を指定すると、このコマンドは指定されたスイッチで実行されます。

例に示すように、ライセンスが存在し、複数のライセンス行が保存されている場合ライセンス行を選択するプロンプトが表示されます。この操作により、ライセンスの差別化を図ることができます。Select Index to Add Comment のプロンプトに番号を入力します。

```
Device# license comment add gsmamrnb-codec-pack "Use this permanent license"
Feature: gsmamrnb-codec-pack
  1  License Type: Evaluation
    License State: Inactive
      Evaluation total period: 20 hours 0  minute
      Evaluation period left: 20 hours 0  minute
    License Addition: Additive
    Comment:
    Store Index: 0
    Store Name: Primary License Storage
  2  License Type: Permanent
    License State: Active, Not in Use
    License Addition: Exclusive
    Comment:
    Store Index: 1
    Store Name: Primary License Storage
Select Index to Add Comment [1-2]: 2
% Success: Adding comment "Use this permanent license" succeeded
Device# show license file
License Store: Primary License Storage
  Store Index: 0
    License: 11 gsmamrnb-codec-pack 1.0 LONG TRIAL DISABLED 20 DISABLED STANDALONE
    ADD INFINITE KEYS INFINITE KEYS NEVER NEVER NiL SLM CODE CL
    ND_LCK NiL *1YCHJRBMWKZAED2400 NiL NiL NiL 5 MINS <UDI><PID>AS54X
    M-AC-RPS</PID><SN>JAE0948QXKD</SN></UDI> ,Jx8qaVf:iXWaH9PsXjkVnmz
    7gWh:cxdf9nUkzY6o8fRuQbu,7wTUz237Cz6g9VjfrCk,0a2Pdo,Ow6LWxcCRFL:x
```

例：指定したストレージエリアへのすべてのライセンスの保存

```
cTxwnffn9i,4,aUWv8rL50opDUdAsFnxLsvoFRkcAfm$<WLC>AQEBIQAB//9NA+1m
Uwfs/1D0dmdF9kyX8wDrua1TZhnnAy6MxslDThoIcRaahKxJJdj4O1lw3wscqvPiA
mWSaEmUT56rstk6gvmj+EQKRfD9A0ime1czrdKxfILT0LaXT416nwmfp92Tya6vIQ
4Fn1BdqJ1sMzXeSq8PmVcTU9A4o9hil9vKur8N9F885D9GVF0bJHciT5M=</WLC>
Comment: Use this permanent license.
Hash: ElWjIQo4qsl9g8cpnpooGP/0DeY=
Device#
```

## 例：指定したストレージエリアへのすべてのライセンスの保存

次に、**license save** コマンドを使用して、フラッシュ ファイルシステムにすべてのライセンスのコピーを保存する例を示します。

```
Device# license save flash:all_licenses.lic
license lines saved ..... to flash:all_licenses.lic
```

## 例：ライセンスの削除

次に、**license clear** コマンドを使ってライセンス行が有効で明示的に設定されていることが検証されてからライセンス ストレージからライセンスのエントリを削除する方法の例を示します。

削除するライセンスのインデックス番号を選択する必要があります。例に示すよう **Select Index to Clear** プロンプトに番号を入力します。

```
Device# license clear standard
Feature: standard
  1 License Type: Evaluation
    License State: Inactive
      Evaluation total period: 20 hours 0 minute
      Evaluation period left: 20 hours 0 minute
    License Addition: Additive
    Comment:
    Store Index: 0
    Store Name: Primary License Storage
  2 License Type: Permanent
    License State: Active, Not in Use
    License Addition: Exclusive
    Comment:
    Store Index: 1
    Store Name: Primary License Storage
Select Index to Clear [1-2]: 1
Are you sure you want to clear? (yes/[no]): yes
Device# show license detail
Feature: premium          Period left: 1 hour 0 minute
Index: 1                  Feature: premium          Version: 1.0
      License Type: Evaluation
      License State: Active, Not in Use, EULA not accepted
        Evaluation total period: 1 hour 0 minute
        Evaluation period left: 1 hour 0 minute
      License Count: Non-Counted
      License Priority: None
      Store Index: 0
      Store Name: Evaluation License Storage
```

## 例：ライセンスのリホスト（取り消しおよび移行）

次に、**license revoke** コマンドを使って TFTP に保存されたライセンスを取り消してフラッシュメモリに保存されたライセンスに移行する方法の例を示します。移行されるライセンスの種類の利



用規約を読み、承認する必要がある場合があります。次の例は、読みやすいように省略されています。

```
Device# license revoke tftp://infra-sun/ramanp/pt.lic flash:rt.lic
Following Permanent license(s) will be revoked from this device
  Feature Name: gsmamrnb-codec-pack
Following Extension license(s) will be installed in this device
  Feature Name: gsmamrnb-codec-pack
PLEASE READ THE FOLLOWING TERMS CAREFULLY. . .
ACCEPT? [yes/no]: yes
Issue 'license feature gsmamrnb-codec-pack' command to enable the license
Rehost ticket saved ..... to flash:rt.lic
```

## 例：ライセンス情報で強化される一般的なコマンド

次のセクションで説明する一般的なコマンドは、ライセンス情報によって強化されます。

### reload

**reload** コマンドを使用すると、期限切れのライセンスが残りの期間および終了日時でソートされる期限切れになるライセンスと共に表示されます。

```
Device# reload
The following license(s) are expiring or have expired.
Features with expired licenses may not work after Reload.
Feature: uc,Status: expiring, Period Left: 7 wks 5 days
Proceed with reload? [confirm]
```

### show running-config

**show running-config** コマンドは、デバイスの Unique Device Identifier (UDI) を表示します。コンフィギュレーションファイルが別のデバイスからコピーされた場合は、リロード時に警告が表示されます。起動設定ファイルに UDI プラットフォームとは異なる UDI があれば UDI の不一致の警告がリロード中に表示されます。

```
Device# show running-config
Building configuration...
Current configuration : 4772 bytes
!
version 12.4
no service pad
service timestamps debug datetime msec
service timestamps log datetime msec
no service password-encryption
service internal
!
hostname csl-xfr-enhance-2951
!
...
...
license udi pid CISCO2951 sn FHH1211P037
license boot module c2951 technology-package securityk9 disable
license boot module c2951 technology-package uc
license boot module c2951 technology-package data
license call-home url https://tools-stage.cisco.com/SWIFT/Licensing
license agent listener http plaintext /lic-agent authenticate none
!
!
```

例：ライセンス情報で強化される一般的なコマンド

```
archive
 log config
  hidekeys
!
.
.
.
```

## show tech-support

**show tech-support** コマンドは **show license udi**、**show license file**、**show license detail**、**show license status** および **show license statistics** コマンドの出力を表示します。

```
Device# show tech-support
----- show license udi -----
Device#   PID                SN                UDI
-----
*0         CISCO2951         FHH1211P037      CISCO2951:FHH1211P037
-----
----- show license feature -----
Feature name      Enforcement  Evaluation  Subscription  Enabled
ipbasek9          no           no           no             no
securityk9        yes          yes          no             no
uc                 yes          yes          no             yes
data               yes          yes          no             no
gatekeeper        yes          yes          no             no
LI                 yes          no           no             no
SSL_VPN            yes          yes          no             no
ios-ips-update     yes          yes          yes            no
SNASw              yes          yes          no             no
-----
----- show license file -----
License Store: Primary License Storage
License Store: Evaluation License Storage
Store Index: 0
License: 11 securityk9 1.0 LONG TRIAL DISABLED 1440 DISABLED STANDALONE AD
D INFINITE KEYS INFINITE KEYS NEVER NEVER NiL SLM CODE DEMO NiL N
iL Ni NiL NiL 5_MINS NiL GT5YVbrMadt0NY50UcKGfvLTjQ17P2o3g84hE8Tq
sOfu3Xph0N:2AmMdpMNxxKXSVG$<WLC>AQEBIQAB//+FugzZgqFJn/XhIxoyelg63
YJD++i6Qx6vVp0MVqrX2EinbufbTfGzc7/GHNZaDZgRqWInXo3s+nsLU7rOtdOxoI
xYZAo3LYmUJ+MFzsq1hKoJv1PyEvQ8H21MNUjVbhoN0gyIWsyiJaM8AQIkVBQFzhr
10GYolVzdzfJfEPQIx6tZ++/Vtc/q3SF/5Ko8XCXY=</WLC>

Comment:
Hash: CLWUVZgY84BMRT03JilYmIqWAQA=
-----
----- show license detail -----
Index: 1          Feature: SNASw                      Version: 1.0
License Type: Evaluation
License State: Active, Not in Use, EULA not accepted
Evaluation total period: 8 weeks 4 days
Evaluation period left: 8 weeks 4 days
Lock type: Non Node locked
Vendor info:
License Addition: Additive
License Generation version: 0x8100000
License Count: Non-Counted
License Priority: None
Store Index: 5
Store Name: Evaluation License Storage
-----
----- show license status -----
License Type Supported
permanent          Non-expiring node locked license
extension           Expiring node locked license
evaluation           Expiring non node locked license
paid subscription   Expiring node locked subscription license
                    with valid end date
extension subscription Expiring node locked subscription license
evaluation subscription Expiring node locked subscription license
...
...
----- show license statistics -----
Administrative statistics
```

```

Install success count: 0
Install failure count: 0
Install duplicate count: 0
Comment add count: 0
Comment delete count: 0
Clear count: 0
Save count: 0
Save cred count: 1
      Client statistics
Request success count: 1
Request failure count: 3
Release count: 0
Global Notify count: 4

```

## show version

**show version** コマンドでは、ライセンス UDI 情報が表示されます:

```

Device> show version
Cisco IOS Software, C2951 Software (C2951-UNIVERSALK9-M), Experimental Version
12.4(20090326:052343)
[rifu-xformers_3_25_130]
Copyright (c) 1986-2009 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 26-Mar-09 21:49 by rifu
ROM: System Bootstrap, Version 12.4(20090303:092436)
[BLD-xformers_dev.XFR_20090303-20090303_0101-53
107], DEVELOPMENT SOFTWARE
csl-xfr-enhance-2951 uptime is 3 days, 4 hours, 28 minutes
System returned to ROM by reload at 18:48:45 PST Mon Nov 26 1956
System image file is "flash0:c2951-universalk9-mz.SSA"
Last reload reason: Reload Command
...
Cisco C2951 (revision 1.0) with 1005568K/43008K bytes of memory.
Processor board ID FHH1211P037
3 Gigabit Ethernet interfaces
1 terminal line
1 cisco Special Services Engine(s)
DRAM configuration is 72 bits wide with parity enabled.
255K bytes of non-volatile configuration memory.
250880K bytes of ATA System CompactFlash 0 (Read/Write)
License Info:
License UDI:
-----
Device#      PID                      SN
-----
*0           CISCO2951                FHH1211P037
Technology Package License Information for Module:'c2951'
-----
Technology    Technology-package      Technology-package
              Current          Type                   Next reboot
-----
ipbase        ipbasek9                None                   ipbasek9
security      disable                  None                   disable
uc            uc                       Evaluation              uc
data          None                     None                    None
Configuration register is 0x0

```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco License Manager アプリケーション	『 <i>User Guide for Cisco License Manager</i> 』
ソフトウェアのアクティベーションの概念に関する概要	『Cisco IOS Software Activation Conceptual Overview』 モジュール
ソフトウェア アクティベーション コマンド	『 <i>Software Activation Command Reference</i> 』
Cisco IOS コマンド	<a href="#">『Master Commands List, All Releases』</a>
Integrated Services Routers ライセンス	『 <i>Software Activation on Cisco Integrated Services Routers</i> 』

### MIB

MIB	MIB のリンク
CISCO-LICENSE-MGMT-MIB	<p>選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェア リリース、およびフィーチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

# Cisco IOS ソフトウェア アクティベーションの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 2: Cisco IOS ソフトウェア アクティベーションの機能情報

機能名	リリース	機能情報
『Cisco IOS Software Activation』	12.4(15)XZ 12.4(20)T 15.0(1)M 15.4(1)S	<p>Cisco IOS ソフトウェア アクティベーション EXEC コマンドでは、基本的なライセンス プロセスをサポートします。</p> <p>この機能はプラットフォームに依存していません。</p> <p>これらのコマンドは、次の機能によって導入または変更されました: <b>debug license</b>、<b>license clear</b>、<b>license comment</b>、<b>license install</b>、<b>license revoke</b>、<b>license save</b>、<b>license save credential</b>、<b>show license all</b>、<b>show license detail</b>、<b>show license feature</b>、<b>show license file</b>、<b>show license statistics</b>、<b>show license status</b>、<b>show license udi</b></p> <p>Cisco IOS Release 15.4(1)S で、Cisco ASR 901S シリーズ ルータのサポートが追加されました。</p>
CISL-SNMP support (MIB)	12.4(20)T 15.0(1)M	<p>CISCO-LICENSE-MGMT-MIB の SNMP サポートを追加。</p> <p>これらのコマンドは、次の機能によって導入または変更されました。[snmp-server enable traps]、[snmp-server host]</p>





## 第 4 章

# Cisco 使用ライセンスの設定

このガイドでは、使用ライセンス（RTU）を使った Cisco® ASR 1000 シリーズ アグリゲーション サービス ルータの設定について、概要とガイドを示します。

- Cisco 使用ライセンスの機能情報, 39 ページ
- RTU の前提条件, 39 ページ
- Cisco RTU Licensing の情報, 40 ページ
- 評価ライセンスをアクティベートする例, 43 ページ
- show コマンドの出力例, 47 ページ
- Cisco One スイート, 50 ページ
- その他の参考資料, 51 ページ
- Call Home に関する機能情報, 53 ページ

## Cisco 使用ライセンスの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

## RTU の前提条件

- インストール プロセスを開始する前に、シスコのライセンス インフラストラクチャからデバイス証明書を取得する必要があります。

- Cisco ユーザのログイン アカウントが必要です。

## Cisco RTU Licensing の情報

### シスコ ライセンス メカニズムの概要

シスコのライセンスのメカニズムは、様々なテクノロジーパッケージレベルでデバイスを実行する柔軟性を提供します。この機能は、テクノロジーパッケージライセンスと呼ばれ、ユニバーサルテクノロジーパッケージベースのライセンスソリューションを利用します。すべてのレベルのソフトウェアパッケージを含むユニバーサルイメージがデバイスにロードされます。起動時に、デバイスは、ライセンスの最高レベルを決定し、対応するソフトウェア機能またはサブシステムをロードします。

Cisco ASR 1001 および Cisco ASR 1002-X ルータは、ロックされたノードがないテクノロジーパッケージに基づいたライセンスをサポートします。テクノロジーパッケージと機能ライセンスは組み込まれている評価ライセンスを使用してアクティブになります。評価ライセンスは60日間有効な期間限定のライセンスです。時間が経過して評価ライセンスが期限切れになると、ライセンスはRTUライセンスに自動的にアップグレードします。すべてのRTUライセンスがアクティブになると、ライセンスの有効期限がなくなり、永続的に有効になります。

評価ライセンスをイネーブルにするには、グローバルなエンドユーザライセンス契約（EULA）を承認する必要があります。

### RTU サポート対象ソフトウェア ライセンス

この項では、さまざまなRTU対象ソフトウェアライセンスについて説明します。



(注)

永久ライセンスは Cisco IOS XE リリース アップグレードの影響を受けません。

評価ライセンスは、ライセンス機能をアクティブにするために必要です。ルータがコンフィギュレーションモードを開始すると、ライセンスを確認するためにチェックが実行されます。機能の設定は、有効なライセンスが使用可能な場合に限り許可されます。永久ライセンスが存在しない場合、EULA 契約を承認すると Cisco IOS は RTU ライセンスをアクティブにし、対応する Cisco IOS 機能が使用可能になります。RTU ライセンスは、次のソフトウェア機能をサポートしています。

- シャーシ間の冗長性
- 合法的傍受
- ソフトウェア冗長性
- IPSec
- スループット

対応する機能を有効にするには、EULA を承認します。ソフトウェア イメージの旧バージョンからの永久ライセンスの移行はシームレスです。EULA の承認の詳細については、「例：グローバル EULA の承認」（10-6 ページ）を参照してください。



## Cisco ASR 1000 シリーズ ルータで使用可能な評価ライセンスと RTU ライセンス

評価ライセンスと RTU ライセンス	評価ライセンスと RTU ライセンス	ライセンス名	ライセンス詳細評価ラ イセンス
FLS-ASR1001-5G	FLS-ASR1001-5G	Cisco ASR1001 ルータ の 2.5G から 5G ライセ ンスへのアップグレー ド	Yes
FLSASR1-IOSRED	Cisco ASR1000 シリー ズ アグリゲーション サービス ルータ用ソフ トウェア冗長性ライセ ンス	Yes	Yes
FLSASR1-IPSEC IPSEC	Cisco ASR1000 シリー ズ アグリゲーション サービス ルータ用ライ センス	Yes	Yes
FLSASR1-FW FW	Cisco ASR1000 シリー ズ アグリゲーション サービス ルータ用ライ センス	Yes	Yes
FLSASR1-FPI	CiscoASR1000シリーズ アグリゲーションサー ビス ルータ用 Flex. Pack. Insp ライセンス	Yes	Yes
FLSASR1-FWNAT-R	ファイアウォールと NAT ステートフル シャーシ間冗長性ライ センス	Yes	Yes
FLSASR1-LI	Cisco ASR1000 シリー ズ アグリゲーション サービス ルータ用合法 的傍受ライセンス	Yes	Yes
FLSASR1-BB	Cisco ASR1000 シリー ズ アグリゲーション サービス ルータ用ブ ロードバンドライセン ス	Yes	Yes

評価ライセンスと RTU ライセンス	評価ライセンスと RTU ライセンス	ライセンス名	ライセンス詳細評価ラ イセンス
FLSASR1-BB-4K	Cisco ASR1000 シリー ズ アグリゲーション サービス ルータ用ブ ロードバンド 4K セッ ション	Yes	Yes
FLSASR1-BB-16K	Cisco ASR1000 シリー ズ アグリゲーション サービス ルータ用ブ ロードバンド 16K セッ ション	Yes	Yes
FLSASR1-BB-32K	Cisco ASR1000 シリー ズ アグリゲーション サービス ルータ用ブ ロードバンド 32K セッ ション	Yes	Yes
FLSASR1-CS-250P	Cisco ASR1000 シリー ズ アグリゲーション サービス ルータ用 CUBE (SP) 250 セッ ション ライセンス	Yes	Yes
FLSASR1-CS-2KP	Cisco ASR1000 シリー ズ アグリゲーション サービス ルータ用 CUBE (SP) 2K セッ ション ライセンス	Yes	Yes
FLSASR1-CS-4KP	Cisco ASR1000 シリー ズ アグリゲーション サービス ルータ用 CUBE (SP) 4K セッ ション ライセンス	Yes	Yes
FLSASR1-CS-16KP	Cisco ASR1000 シリー ズ アグリゲーション サービス ルータ用 CUBE (SP) 16K セッ ション ライセンス	Yes	Yes

評価ライセンスと RTU ライセンス	評価ライセンスと RTU ライセンス	ライセンス名	ライセンス詳細評価ラ イセンス
FLSASR1-CS-32KP	Cisco ASR1000 シリー ズ アグリゲーション サービス ルータ用 CUBE (SP) 32K セッ ション ライセンス	Yes	Yes
FLSASR1-CS-LAB	Cisco ASR1000 シリー ズ アグリゲーション サービス ルータ用 CUBE (SP) ラボ専用 ライセンス	Yes	Yes
FLSASR1-CS-TPEX	Video/B2BTP Ex の ASR1000 の CUBE (SP) ライセンス	Yes	Yes
SLASR1-AIS	Cisco ASR 1000 の高度 な IP サービス ライセ ンス	Yes	Yes
SLASR1-AES	Cisco ASR 1000 の高度 な企業サービス ライセ ンス	Yes	Yes
SLASR1-IPB	Cisco ASR 1000 の IP BASE ライセンス		
FLS-ASR1001-5G	ASR1001 の 2.5G から 5G ライセンスへのス ループットパフォーマ ンスのアップグレード	Yes	Yes

## 評価ライセンスをアクティベートする例



(注) 評価 RTU ライセンスは、60 日間の評価期間後に RTU ライセンスに自動的に変更されます。

評価ライセンスは、`license boot level {adventerprise | advipservices | ipbase}` コマンドを使用してアクティブ化されます。

## 手順の概要

1. enable
2. configure terminal
3. license boot level {adventerprise | advipservices | ipbase}
4. exit
5. copy running-config startup-config
6. reload

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable  例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal  例： Router#configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	license boot level {adventerprise   advipservices   ipbase}  例： Router(config)#license boot level adventerprise	評価ライセンスをイネーブルにします。  (注) ? コマンドを <b>technology-package</b> コマンドとともに使用し、ルータでサポートされているソフトウェア パッケージと機能を確認します。
ステップ 4	exit  例： Router(config)#exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	copy running-config startup-config  例： Router#copy running-config startup-config	設定を保存します。
ステップ 6	reload  例： Router#reload	ルータをリロードします。ソフトウェア パッケージをアクティベートするにはリロードが必要です。

次に、評価ライセンスをアクティベートする例を示します。

```
Router>enable
Router#configure terminal
Router(config)#license boot level adventerprise
```

```
% use 'write' command to make license boot config take effect on next boot
Router(config)#exit
Router#copy running-config startup-config
Router#reload
```

## スループットの設定

Cisco ASR 1001 ルータのスループットの設定の詳細については、『Cisco ASR 1001 Router Quick Start Guide』を参照してください。Cisco ASR 1002 ルータのスループットの設定の詳細については、『Cisco ASR 1001 Router Quick Start Guide』を参照してください。

## 例：グローバル EULA の承認

評価ライセンスをアクティブにする場合は、グローバル EULA を承認します。一旦承認すると、RTUを含むすべての配信予定のライセンスアクティベーションでグローバル EULA が有効になります。

必要に応じて次のアクションを実行します。

```
Router(config)#license accept end user agreement
PLEASE READ THE FOLLOWING TERMS CAREFULLY. INSTALLING THE LICENSE OR LICENSE KEY
PROVIDED FOR ANY CISCO PRODUCT FEATURE OR USING SUCH PRODUCT FEATURE CONSTITUTES
YOUR FULL ACCEPTANCE OF THE FOLLOWING TERMS. YOU MUST NOT PROCEED FURTHER IF YOU ARE NOT
WILLING TO BE BOUND BY ALL THE TERMS SET FORTH HEREIN.
```

Use of this product feature requires an additional license from Cisco, together with an additional payment. You may use this product feature on an evaluation basis, without payment to Cisco, for 60 days. Your use of the product, including during the 60 day evaluation period, is subject to the Cisco end user license agreement [http://www.cisco.com/en/US/docs/general/warranty/English/EU1KEN\\_.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/general/warranty/English/EU1KEN_.html) If you use the product feature beyond the 60 day evaluation period, you must submit the appropriate payment to Cisco for the license. After the 60 day evaluation period, your use of the product feature will be governed solely by the Cisco end user license agreement (link above), together with any supplements relating to such product feature. The above applies even if the evaluation license is not automatically terminated and you do not receive any notice of the expiration of the evaluation period. It is your responsibility to determine when the evaluation period is complete and you are required to make payment to Cisco for your use of the product feature beyond the evaluation period.

Your acceptance of this agreement for the software features on one product shall be deemed your acceptance with respect to all such software on all Cisco products you purchase which includes the same software. (The foregoing notwithstanding, you must purchase a license for each software feature you use past the 60 days evaluation period, so that if you enable a software feature on 1000 devices, you must purchase 1000 licenses for use past the 60 day evaluation period.)

Activation of the software command line interface will be evidence of your acceptance of this agreement.

```
ACCEPT? (yes/[no]): Yes
Router(config)#
*Jul 6 09:36:11.293: %LICENSE-6-EULA_ACCEPT_ALL: The Right to Use End User License Agreement
is accepted
```

## 例：ソフトウェア冗長性ライセンスの EULA の承認

次の例は、ソフトウェア冗長性機能の EULA の承認を示します。

```
Router(config)#redundancy
Router(config-red)#mode
Router(config-red)#mode sso
```

```
PLEASE READ THE FOLLOWING TERMS CAREFULLY. INSTALLING THE LICENSE OR LICENSE KEY
PROVIDED FOR ANY CISCO PRODUCT FEATURE OR USING SUCH PRODUCT FEATURE CONSTITUTES
YOUR FULL ACCEPTANCE OF THE FOLLOWING TERMS. YOU MUST NOT PROCEED FURTHER IF YOU ARE NOT
WILLING TO BE BOUND BY ALL THE TERMS SET FORTH HEREIN.
```

Use of this product feature requires an additional license from Cisco, together with an additional payment. You may use this product feature on an evaluation basis, without payment to Cisco, for 60 days. Your use of the product, including during the 60 day evaluation period, is subject to the Cisco end user license agreement <http://www.cisco.com/en/US/docs/general/warranty/English/EULKEN.html> If you use the product feature beyond the 60 day evaluation period, you must submit the appropriate payment to Cisco for the license. After the 60 day evaluation period, your use of the product feature will be governed solely by the Cisco end user license agreement (link above), together with any supplements relating to such product feature. The above applies even if the evaluation license is not automatically terminated and you do not receive any notice of the expiration of the evaluation period. It is your responsibility to determine when the evaluation period is complete and you are required to make payment to Cisco for your use of the product feature beyond the evaluation period.

Your acceptance of this agreement for the software features on one product shall be deemed your acceptance with respect to all such software on all Cisco products you purchase which includes the same software. (The foregoing notwithstanding, you must purchase a license for each software feature you use past the 60 days evaluation period, so that if you enable a software feature on 1000 devices, you must purchase 1000 licenses for use past the 60 day evaluation period.)

Activation of the software command line interface will be evidence of your acceptance of this agreement.

```
ACCEPT? (yes/[no]): yes
```

```
Router(config)#
```

## 例：シャーシ間冗長性ライセンスの EULA の承認

次の例は、アプリケーション冗長性機能の EULA の承認を示します。

```
Router(config-red)#application redundancy
```

```
PLEASE READ THE FOLLOWING TERMS CAREFULLY. INSTALLING THE LICENSE OR LICENSE KEY
PROVIDED FOR ANY CISCO PRODUCT FEATURE OR USING SUCH PRODUCT FEATURE CONSTITUTES
YOUR FULL ACCEPTANCE OF THE FOLLOWING TERMS. YOU MUST NOT PROCEED FURTHER IF YOU ARE NOT
WILLING TO BE BOUND BY ALL THE TERMS SET FORTH HEREIN.
```

Use of this product feature requires an additional license from Cisco, together with an additional payment. You may use this product feature on an evaluation basis, without payment to Cisco, for 60 days. Your use of the product, including during the 60 day evaluation period, is subject to the Cisco end user license agreement <http://www.cisco.com/en/US/docs/general/warranty/English/EULKEN.html> If you use the product feature beyond the 60 day evaluation period, you must submit the appropriate payment to Cisco for the license. After the 60 day evaluation period, your use of the product feature will be governed solely by the Cisco end user license agreement (link above), together with any supplements relating to such product feature. The above applies even if the evaluation license is not automatically terminated and you do not receive any notice of the expiration of the evaluation period. It is your responsibility to determine when the evaluation period is complete and you are required to make payment to Cisco for your use of the product feature beyond the evaluation period.

Your acceptance of this agreement for the software features on one product shall be deemed your acceptance with respect to all such software on all Cisco products you purchase which includes the same software. (The foregoing notwithstanding, you must purchase a license for each software feature you use past the 60 days evaluation period, so that if you enable a software feature on 1000 devices, you must purchase 1000 licenses for use past the 60 day evaluation period.)

Activation of the software command line interface will be evidence of your acceptance of this agreement.  
ACCEPT? (yes/[no]): yes

## 例：合法的傍受のライセンスの EULA の承認

次の例は、合法的傍受機能の EULA の承認を示します。合法的傍受機能をアクティブにするには、次の MIB が必要です。

- snmp-server view INTERCEPT\_VIEW ciscoIpTapMIB
- snmp-server view INTERCEPT\_VIEW cisco802TapMIB
- snmp-server view INTERCEPT\_VIEW ciscoTap2MIB

```
Router(config-red)#snmp-server view INTERCEPT_VIEW ciscoIpTapMIB included
```

PLEASE READ THE FOLLOWING TERMS CAREFULLY. INSTALLING THE LICENSE OR LICENSE KEY PROVIDED FOR ANY CISCO PRODUCT FEATURE OR USING SUCH PRODUCT FEATURE CONSTITUTES YOUR FULL ACCEPTANCE OF THE FOLLOWING TERMS. YOU MUST NOT PROCEED FURTHER IF YOU ARE NOT WILLING TO BE BOUND BY ALL THE TERMS SET FORTH HEREIN.

Use of this product feature requires an additional license from Cisco, together with an additional payment. You may use this product feature on an evaluation basis, without payment to Cisco, for 60 days. Your use of the product, including during the 60 day evaluation period, is subject to the Cisco end user license agreement [http://www.cisco.com/en/US/docs/general/warranty/English/EU1KEN\\_.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/general/warranty/English/EU1KEN_.html) If you use the product feature beyond the 60 day evaluation period, you must submit the appropriate payment to Cisco for the license. After the 60 day evaluation period, your use of the product feature will be governed solely by the Cisco end user license agreement (link above), together with any supplements relating to such product feature. The above applies even if the evaluation license is not automatically terminated and you do not receive any notice of the expiration of the evaluation period. It is your responsibility to determine when the evaluation period is complete and you are required to make payment to Cisco for your use of the product feature beyond the evaluation period.

Your acceptance of this agreement for the software features on one product shall be deemed your acceptance with respect to all such software on all Cisco products you purchase which includes the same software. (The foregoing notwithstanding, you must purchase a license for each software feature you use past the 60 days evaluation period, so that if you enable a software feature on 1000 devices, you must purchase 1000 licenses for use past the 60 day evaluation period.)

Activation of the software command line interface will be evidence of your acceptance of this agreement.  
ACCEPT? (yes/[no]): yes

## show コマンドの出力例

### show license EULA コマンドの出力例

```
Router#show license EULA
Feature name          EULA Accepted
```

## show license all コマンドの出力例

```

-----
adventerprise          yes
advipservices          no
ipbase                 n/a
avc                   n/a
broadband              n/a
broadband_4k           n/a
cube_250               n/a
cube_250_red           n/a
cube_ent_100           n/a
cube_ent_100_red       n/a
cube_lab               n/a
cube_video_b2btp       n/a
cube_video_b2btp_red   n/a
firewall               n/a
fpi                   n/a
fwnat_red              no
gtp_addon_aic          n/a
internal_service       n/a
ipsec                  no
lawful_intr            no
lisp                   n/a
nat64_stateful_2m      n/a
otv                    n/a
sgt_fw                 n/a
sw_redundancy          yes
throughput_10g         no
throughput_20g         no
throughput_36g         no
vpls                   n/a
-----

PLEASE READ THE FOLLOWING TERMS CAREFULLY. INSTALLING THE LICENSE OR
LICENSE KEY PROVIDED FOR ANY CISCO PRODUCT FEATURE OR USING SUCH
PRODUCT FEATURE CONSTITUTES YOUR FULL ACCEPTANCE OF THE FOLLOWING
TERMS. YOU MUST NOT PROCEED FURTHER IF YOU ARE NOT WILLING TO BE BOUND
BY ALL THE TERMS SET FORTH HEREIN.

Use of this product feature requires an additional license from Cisco,
together with an additional payment. You may use this product feature
on an evaluation basis, without payment to Cisco, for 60 days. Your use
of the product, including during the 60 day evaluation period, is
subject to the Cisco end user license agreement
http://www.cisco.com/en/US/docs/general/warranty/English/EU1KEN.html
If you use the product feature beyond the 60 day evaluation period, you
must submit the appropriate payment to Cisco for the license. After the
60 day evaluation period, your use of the product feature will be
governed solely by the Cisco end user license agreement (link above),
together with any supplements relating to such product feature. The
above applies even if the evaluation license is not automatically
terminated and you do not receive any notice of the expiration of the
evaluation period. It is your responsibility to determine when the
evaluation period is complete and you are required to make payment to
Cisco for your use of the product feature beyond the evaluation period.

Your acceptance of this agreement for the software features on one
product shall be deemed your acceptance with respect to all such
software on all Cisco products you purchase which includes the same
software. (The foregoing notwithstanding, you must purchase a license
for each software feature you use past the 60 days evaluation period,
so that if you enable a software feature on 1000 devices, you must
purchase 1000 licenses for use past the 60 day evaluation period.)

Activation of the software command line interface will be evidence of
your acceptance of this agreement.

```

## show license all コマンドの出力例

```

Router#show license all
License Store: Primary License Storage
License Store: Built-In License Storage

```



```

StoreIndex: 0   Feature: adventerprise                               Version: 1.0
  License Type: EvalRightToUse
  License State: Active, In Use
    Evaluation total period: 8 weeks 4 days
    Evaluation period left: 6 weeks 2 days
    Period used: 2 weeks 1 day
    Transition date: Aug 24 2012 05:14:39
  License Count: Non-Counted
  License Priority: Low
StoreIndex: 1   Feature: advipservices                             Version: 1.0
  License Type: EvalRightToUse
  License State: Active, Not in Use, EULA not accepted
    Evaluation total period: 8 weeks 4 days
    Evaluation period left: 8 weeks 4 days
    Period used: 0 minute 0 second
  License Count: Non-Counted
  License Priority: None
StoreIndex: 2   Feature: fwnat_red                                 Version: 1.0
  License Type: EvalRightToUse
  License State: Active, Not in Use, EULA not accepted
    Evaluation total period: 8 weeks 4 days
    Evaluation period left: 8 weeks 4 days
    Period used: 0 minute 0 second
  License Count: Non-Counted
  License Priority: None
StoreIndex: 3   Feature: ipsec                                     Version: 1.0
  License Type: EvalRightToUse
  License State: Active, Not in Use, EULA not accepted
    Evaluation total period: 8 weeks 4 days
    Evaluation period left: 8 weeks 4 days
    Period used: 0 minute 0 second
  License Count: Non-Counted
  License Priority: None
StoreIndex: 4   Feature: lawful intr                               Version: 1.0
  License Type: EvalRightToUse
  License State: Active, Not in Use, EULA not accepted
    Evaluation total period: 8 weeks 4 days
    Evaluation period left: 8 weeks 4 days
    Period used: 0 minute 0 second
  License Count: Non-Counted
  License Priority: None
StoreIndex: 5   Feature: sw redundancy                             Version: 1.0
  License Type: RightToUse
  License State: Active, In Use
  License Count: Non-Counted
  License Priority: Low
StoreIndex: 6   Feature: throughput_10g                           Version: 1.0
  License Type: EvalRightToUse
  License State: Active, Not in Use, EULA not accepted
    Evaluation total period: 8 weeks 4 days
    Evaluation period left: 8 weeks 4 days
    Period used: 0 minute 0 second
  License Count: Non-Counted
  License Priority: None
StoreIndex: 7   Feature: throughput_20g                           Version: 1.0
  License Type: EvalRightToUse
  License State: Active, Not in Use, EULA not accepted
    Evaluation total period: 8 weeks 4 days
    Evaluation period left: 8 weeks 4 days
    Period used: 0 minute 0 second
  License Count: Non-Counted
  License Priority: None
StoreIndex: 8   Feature: throughput_36g                           Version: 1.0
  License Type: EvalRightToUse
  License State: Active, Not in Use, EULA not accepted
    Evaluation total period: 8 weeks 4 days
    Evaluation period left: 8 weeks 4 days
    Period used: 0 minute 0 second
  License Count: Non-Counted
  License Priority: None

```

# Cisco One スイート

Cisco ONE スイートは、お客様がインフラストラクチャ ソフトウェアを購入するための新しい方法です。Cisco ONE はデータセンター、ワイドエリア ネットワーク、およびローカルアクセス ネットワークに共通のお客様のシナリオに集中化された、簡素な購買モデルを提供します。Cisco ONE スイートについての詳細は、[『Cisco ONE Suite』](#)を参照してください。

## Cisco ONE スイート ライセンスのアクティベーション方法

### 手順の概要

1. enable
2. configure terminal
3. license boot suite suite-name
4. exit
5. reload

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable  例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal  例： Router#configure terminal	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	license boot suite suite-name  例： Router(config)# license boot suite FoundationSuiteK9	スイート ライセンスを有効化します。  (注) このコマンドは、評価、無期限ライセンスの両方をアクティブにするために必要です。
ステップ 4	exit  例： Router(config)#exit	グローバルコンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 5	reload  例： Router# reload	ルータをリロードします。ソフトウェア スイートをアクティベートするにはリロードが必要です。

次に、スイート ライセンスをアクティベートする例を示します。

```
Router>enable
Router#configure terminal
Router(config)#license boot suite FoundationSuiteK9

PLEASE READ THE FOLLOWING TERMS CAREFULLY. INSTALLING THE LICENSE OR
LICENSE KEY PROVIDED FOR ANY CISCO PRODUCT FEATURE OR USING SUCH
PRODUCT FEATURE CONSTITUTES YOUR FULL ACCEPTANCE OF THE FOLLOWING
TERMS. YOU MUST NOT PROCEED FURTHER IF YOU ARE NOT WILLING TO BE BOUND
BY ALL THE TERMS SET FORTH HEREIN.

Use of this product feature requires an additional license from Cisco,
together with an additional payment. You may use this product feature
on an evaluation basis, without payment to Cisco, for 60 days. Your use
of the product, including during the 60 day evaluation period, is
subject to the Cisco end user license agreement
http://www.cisco.com/en/US/docs/general/warranty/English/EU1KEN_.html
If you use the product feature beyond the 60 day evaluation period, you
must submit the appropriate payment to Cisco for the license. After the
60 day evaluation period, your use of the product feature will be
governed solely by the Cisco end user license agreement (link above),
together with any supplements relating to such product feature. The
above applies even if the evaluation license is not automatically
terminated and you do not receive any notice of the expiration of the
evaluation period. It is your responsibility to determine when the
evaluation period is complete and you are required to make payment to
Cisco for your use of the product feature beyond the evaluation period.

Your acceptance of this agreement for the software features on one
product shall be deemed your acceptance with respect to all such
software on all Cisco products you purchase which includes the same
software. (The foregoing notwithstanding, you must purchase a license
for each software feature you use past the 60 days evaluation period,
so that if you enable a software feature on 1000 devices, you must
purchase 1000 licenses for use past the 60 day evaluation period.)

Activation of the software command line interface will be evidence of
your acceptance of this agreement.

ACCEPT? [yes/no]: yes
% use 'write' command to make license boot config take effect on next boot

Router(config)#
*Nov 6 01:48:34.023: %LICENSE-6-EULA ACCEPTED: EULA for feature FoundationSuiteK9 1.0 has
been accepted. UDI=C3900-SPE100/K9:F0C14440KXB; StoreIndex=3:Built-In License Storage
Router(config)#exit
Router#write
Router#reload
```

## その他の参考資料

この章では、Call Home 機能に関連する参考資料を説明します。

### 関連資料

関連項目	タイトル
Cisco IOS XE コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Commands List, All Releases』</a>

関連項目	タイトル
Smart Call Home サービスが選択したシスコ デバイスに Web アクセスする方法、また予防的診断を行い、リアルタイムアラートを提供することでネットワーク可用性を向上して業務の効率化を図る方法を説明します。	<a href="#">『Smart Call Home User Guide』</a>
すべての関連製品の情報にアクセスするための Cisco.com の Smart Call Home のサイト ページ。	<a href="#">『Cisco Smart Call Home site』</a>
Cisco IOS XE ソフトウェアの公開キー インフラストラクチャ (PKI) と認証局の設定	<a href="#">『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Secure Connectivity』</a>

## 標準

規格	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	—

## MIB

MIB	MIB のリンク
CISCO-CALLHOME-MIB	選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェア リリース、およびフィチャ セットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 <a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a>

## RFC

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	—

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## Call Home に関する機能情報

プラットフォームのサポートおよびソフトウェア イメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator を使用すると、特定のソフトウェア リリース、フィーチャ セット、またはプラットフォームをサポートする Cisco IOS XE のソフトウェア イメージを判別できます。Cisco Feature Navigator には、<http://www.cisco.com/go/cfn> からアクセスします。Cisco.com のアカウントは必要ありません。



(注)

下の機能情報の表には、特定の Cisco IOS XE ソフトウェア リリース群で特定の機能をサポートする Cisco IOS XE ソフトウェア リリースだけが示されています。特に明記されていない限り、Cisco IOS XE ソフトウェア リリース群の後続のリリースでもこの機能をサポートします。

表 3 : *Call Home* に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
Call Home	Cisco IOS XE Release 3.13S	<p>Call Home 機能は、クリティカルなシステム イベントを E メールおよび Web 上で通知します。ポケットベルサービス、通常の電子メール、または XML ベースの自動解析アプリケーションとの適切な互換性のために、さまざまなメッセージの形式が使用できます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。</p> <p>[show diagnostic] コマンド</p>



## 第 5 章

# Call Home の設定

Call Home 機能は、クリティカルなシステム イベントを E メールおよび Web 上で通知します。ポケットベルサービス、通常の電子メール、または XML ベースの自動解析アプリケーションとの適切な互換性のために、さまざまなメッセージの形式が使用できます。この機能の一般的な使用方法には、ネットワーク サポート技術者の直接ページング、ネットワーク オペレーション センターへの E メール通知、サポート Web サイトへの XML の送信、シスコのテクニカル サポート（TAC）での直接の事例生成のための Cisco Smart Call Home サービスの使用などがあります。

- [機能情報の確認, 55 ページ](#)
- [Call Home の前提条件, 56 ページ](#)
- [Call Home の概要, 56 ページ](#)
- [Call Home の設定方法, 58 ページ](#)
- [その他の参考資料, 103 ページ](#)
- [Call Home に関する機能情報, 105 ページ](#)

## 機能情報の確認

ご使用のソフトウェア リリースでは、このモジュールで説明されるすべての機能がサポートされているとは限りません。最新の機能情報および警告については、[Bug Search Tool](#) およびご使用のプラットフォームおよびソフトウェア リリースのリリース ノートを参照してください。このモジュールで説明される機能に関する情報、および各機能がサポートされるリリースの一覧については、機能情報の表を参照してください。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェア イメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

## Call Home の前提条件

Call Home の設定方法は、機能の使用目的によって異なります。Call Home を設定する前に次の要件に注意してください。

- レシーバが受信メッセージの発信元を判別できるように設定された、Call Home 連絡先用の電子メール、電話番号、および住所の情報を取得します。
- 電子メール メッセージ配信を使用している場合は、プライマリ Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) の名前または IPv4 アドレスを指定します。
- ルータから電子メールサーバ（1 つまたは複数）または宛先 HTTP サーバへの IP 接続を確認します。
- Cisco Smart Call Home を使用する場合は、完全な SCH サービスを提供するために、デバイスを対象とした有効なサービス契約が必要です。

## Call Home の概要

Call Home を使用すると、E メールベースおよび Web ベースで重大なシステム イベントの通知を行えます。ポケットベルサービス、通常の電子メール、またはXMLベースの自動解析アプリケーションとの適切な互換性のために、さまざまなメッセージの形式が使用できます。この機能の一般的な使用方法には、ネットワーク サポート技術者の直接ページング、ネットワーク オペレーションセンターへの E メール通知、サポート Web サイトへの XML の送信、シスコのテクニカルサポート（TAC）での直接の事例生成のための Cisco Smart Call Home サービスの使用などがあります。

Call Home 機能を使用すると、設定、環境条件、インベントリ、syslog およびクラッシュイベントについての情報を含むアラート メッセージを送信できます。

Call Home 機能では、*Call Home* 宛先プロファイルに従って複数の受信者にアラートを送信できます。宛先プロファイルには、メッセージ形式とコンテンツのカテゴリを設定できます。定義済みの宛先プロファイル（CiscoTAC-1）が提供されており、独自の宛先プロファイルを定義することもできます。CiscoTAC-1 プロファイルを使用して、Cisco TAC へのサービス要求の作成に使用できる Smart Call Home サービスのバック エンドサーバにアラートを送信します。Cisco TAC は、デバイスに提供される Smart Call Home サービスサポートおよびアラートの重大度に依存します。

柔軟なメッセージの配信オプションとフォーマットオプションにより、個別のサポート要件を簡単に統合できます。

## Call Home を使用するメリット

Call Home 機能には次のようなメリットがあります。

- 複数のメッセージ フォーマット オプション：



- ショート テキスト：ポケットベルまたは印刷形式のレポートに最適。
  - プレーン テキスト：人間が読むのに適した形式に完全整形されたメッセージ情報。
  - XML：Extensible Markup Language（XML）および Adaptive Markup Language（AML）文書型定義（DTD）を使用した読み取り可能なマッチング形式。XML 形式により、Cisco Smart Call Home サーバとの通信が可能。
- 複数のメッセージ宛先への同時配信が可能。
  - 複数のメッセージカテゴリ（設定、環境条件、インベントリ、syslog、スナップショット、クラッシュ イベント）
  - 重大度とパターンマッチによるメッセージのフィルタリング
  - 定期的なメッセージ送信のスケジューリング

## Smart Call Home サービスの取得

シスコと直接サービス契約を結んでいる場合は、Smart Call Home サービスに登録できます。Smart Call Home は、Smart Call Home メッセージを分析し、背景説明と推奨措置を提供します。クリティカルな問題については、Cisco TAC に Automatic Service Request が作成されます。

Smart Call Home には、次の機能があります。

- 継続的なデバイス ヘルス モニタリングとリアルタイム アラート。
- Smart Call Home メッセージの分析。必要に応じて、自動サービス要求（詳細な診断情報が含まれる）が作成され、該当する TAC チームにルーティングされるため、問題解決を高速化できます。
- セキュアなメッセージ転送が、ご使用のデバイスから直接、または HTTP プロキシサーバやダウンロード可能な転送ゲートウェイ（TG）を経由して行われます。TG 集約ポイントは、複数のデバイスをサポートする場合またはセキュリティ要件によって、デバイスをインターネットに直接接続できない場合に使用できます。
- すべての Smart Call Home デバイスの Smart Call Home メッセージと推奨事項、インベントリ情報、および設定情報に Web アクセスすることにより、関連するフィールド通知、セキュリティ勧告、およびサポート終了日情報にアクセスできます。

Smart Call Home で次の項目に登録する必要があります。

- ルータの SMARTnet 契約番号
- 電子メール アドレス
- Cisco.com のユーザ名

Smart Call Home の Cisco ASR 1000 シリーズ ルータの設定と登録の方法についての情報は [Smart Call Home Quick Start Configuration Guide](#) を参照してください。

## Anonymous Reporting

Smart Call Home は、多くのシスコ サービス契約に含まれるサービス機能で、顧客が問題をより迅速に解決できるように支援することを目的としています。また、クラッシュ メッセージから取得した情報は、シスコが現場の機器や発生している問題を理解しやすくします。Smart Call Home を使用しない場合でも、Anonymous Reporting をイネーブルにすると、シスコはデバイスから最小限のエラーおよびヘルス情報をセキュアに受信できます。Anonymous Reporting をイネーブルにした場合、顧客が誰であるかは匿名のままで、識別情報は送信されません。



(注)

Anonymous Reporting をイネーブルにすると、シスコまたはシスコに代わって業務を行うベンダーに指定データを転送することに同意することになります（米国以外の国を含む）。シスコでは、すべてのお客様のプライバシーを保護しています。シスコでの個人情報の取り扱いについては、[Cisco Online Privacy Statement](#) にあるシスコのプライバシー ステートメントを参照してください。

Call Home が匿名で設定されていると、クラッシュ、インベントリ、およびテスト メッセージだけがシスコに送信されます。識別情報は送信されません。

これらのメッセージで送信される情報の詳細については、「アラート グループの起動イベントとコマンド」セクションを参照してください。

# Call Home の設定方法

## Smart Call Home の設定（単一コマンド）

1 つのコマンドですべての Call Home の基本設定をイネーブルにするには、次の手順を実行します。

### 手順の概要

1. `configureterminal`
2. `call-home reporting {anonymous | contact-email-addr email-address} [http-proxy {ipv4-address | ipv6-address | name} port port number]`

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configureterminal</b>  例：  Device# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>call-home reporting {anonymous   contact-email-addr email-address} [http-proxy {ipv4-address   ipv6-address   name} port port number]</b>  例：  Device(config)# <b>call-home reporting contact-email-addr email@company.com</b>	<p>1 つのコマンドを使用してすべての Call Home の基本設定をイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>anonymous</b> : Call Home TAC プロファイルがクラッシュ、インベントリ、およびテストメッセージだけを送信し、匿名でメッセージを送信できるようにします。</li> <li>• <b>contact-email-addr</b> : Smart Call Home サービスのフル レポート機能をイネーブルにし、フル インベントリ メッセージを Call Home TAC プロファイルから Smart Call Home サーバに送信してフル登録プロセスを開始します。</li> <li>• <b>http-proxy {ipv4-address   ipv6-address   name}</b> : IPv4 または IPv6 アドレスまたはサーバ名。最大長は 64 文字です。</li> <li>• <b>port port number</b> : ポート番号。有効値の範囲は 1 ～ 65535 です。</li> </ul> <p>(注) HTTP プロキシ オプションでは、バッファリングするための独自のプロキシサーバおよびデバイスからのセキュア接続を利用できます。</p> <p>(注) <b>call-home reporting</b> コマンドを使用して匿名またはフル登録モードで Call Home を正常にイネーブルにした後、インベントリ メッセージが送信されます。Call Home が匿名モードでイネーブルになっている場合、匿名のインベントリ メッセージが送信されます。Call Home がフル登録モードでイネーブルになっている場合、フル登録モードのフルインベントリ メッセージが送信されます。これらのメッセージで送信される情報の詳細については、「アラートグループの起動イベントとコマンド」セクションを参照してください。</p>

## Smart Call Home の設定と有効化

### 手順の概要

1. `configureterminal`
2. `call-home`
3. `profileCiscoTAC-1`
4. `destinationtransport-methodhttp`
5. `active`
6. `exit`
7. `contact-email-addressemail-address`
8. `exit`
9. `service call-home`
10. `exit`
11. `copy running-config startup-config`

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b><code>configureterminal</code></b>  例 :  Device# <b><code>configure terminal</code></b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b><code>call-home</code></b>  例 :  Device(config)# <b><code>call-home</code></b>	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b><code>profileCiscoTAC-1</code></b>  例 :  Device(config-call-home)# <b><code>profile CiscoTAC-1</code></b>	CiscoTAC-1 宛先プロファイルの Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<b><code>destinationtransport-methodhttp</code></b>  例 :  Device(cfg-call-home-profile)# <b><code>destination transport-method http</code></b>	(HTTPS を使用している場合のみ必須) http のメッセージ転送方法を設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<b>active</b>  例 : Device(cfg-call-home-profile) # <b>active</b>	宛先プロファイルをイネーブルにします。
ステップ 6	<b>exit</b>  例 : Device(cfg-call-home-profile) # <b>exit</b>	Call Home 宛先プロファイルコンフィギュレーションモードを終了して、Call Home コンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 7	<b>contact-email-addr</b> email-address  例 : Device(cfg-call-home) # <b>contact-email-addr</b> <b>username@example.com</b>	顧客の E メールアドレスを割り当てます。E メールアドレスフォーマットにはスペースなしで最大 200 文字まで入力できます。
ステップ 8	<b>exit</b>  例 : Device(cfg-call-home) # <b>exit</b>	Call Home コンフィギュレーションモードを終了し、グローバル コンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 9	<b>service call-home</b>  例 : Device(config) # <b>service call-home</b>	Call Home 機能をイネーブルにします。
ステップ 10	<b>exit</b>  例 : Device(config) # <b>exit</b>	グローバルコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 11	<b>copy running-config startup-config</b>  例 : Device# <b>copy running-config startup-config</b>	この設定を NVRAM に保存します。

## Call Home のイネーブル化とディセーブル化

Call Home 機能をイネーブルまたはディセーブルにするには、次の手順に従います。

## 手順の概要

1. **configure terminal**
2. **service call-home**
3. **no service call-home**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  例 : Router# <b>configure terminal</b>	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<b>service call-home</b>  例 : Router(config)# <b>service call-home</b>	Call Home 機能をイネーブルにします。
ステップ 3	<b>no service call-home</b>  例 : Router(config)# <b>no service call-home</b>	Call Home 機能をディセーブルにします。

## 連絡先情報の設定

各ルータには必ず連絡用の電子メールアドレスが含まれている必要があります。任意で、電話番号、住所、契約 ID、カスタマー ID、サイト ID を割り当てることができます。

連絡先情報を割り当てするには、次の手順を実行します。

## 手順の概要

1. **configure terminal**
2. **call-home**
3. **contact-email-addr** *email-address*
4. **phone-number** *+phone-number*
5. **street-address** *street-address*
6. **customer-id** *text*
7. **site-id** *text*
8. **contract-id** *text*

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  例 : Router> <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>call-home</b>  例 : Router (config) # <b>call-home</b>	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>contact-email-addr email-address</b>  例 : Router (cfg-call-home) # <b>contact-email-addr</b> <b>username@example.com</b>	顧客の E メールアドレスを割り当てます。E メールアドレス フォーマットにはスペースなしで最大 200 文字まで入力できます。
ステップ 4	<b>phone-number +phone-number</b>  例 : Router (cfg-call-home) # <b>phone-number</b> <b>+1-222-333-4444</b>	(任意) 顧客の電話番号を割り当てます。  (注) 番号は必ずプラス (+) 記号で始まり、ダッシュ (-) と数字だけが含まれるようにしてください。最大 16 文字まで入力できます。スペースを含める場合、入力内容を二重引用符 (“”) で囲む必要があります。
ステップ 5	<b>street-address street-address</b>  例 : Router (cfg-call-home) # <b>street-address</b> <b>“1234 Any Street, Any city, Any state,</b> <b>12345”</b>	(任意) RMA 機器の配送先である顧客の住所を割り当てます。最大 200 文字まで入力できます。スペースを含める場合、入力内容を二重引用符 (“”) で囲む必要があります。
ステップ 6	<b>customer-id text</b>  例 : Router (cfg-call-home) # <b>customer-id</b> <b>Customer1234</b>	(任意) カスタマー ID を指定します。最大 64 文字まで入力できます。スペースを含める場合、入力内容を二重引用符 (“”) で囲む必要があります。
ステップ 7	<b>site-id text</b>  例 : Router (cfg-call-home) # <b>site-id</b> <b>Site1ManhattanNY</b>	(任意) カスタマーのサイト ID を指定します。最大 200 文字まで入力できます。スペースを含める場合、入力内容を二重引用符 (“”) で囲む必要があります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	<b>contract-id</b> <i>text</i>  例 :  Router(cfg-call-home) # <b>contract-id</b> <b>Company1234</b>	(任意) ルータに顧客の契約 ID を指定します。最大 64 文字まで入力できます。スペースを含める場合、入力内容を二重引用符 (“ ”) で囲む必要があります。

## 例

次に、連絡先情報の設定例を示します。

```

Device# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Device(config)# call-home
Device(cfg-call-home)# contact-email-addr username@example.com
Device(cfg-call-home)# phone-number +1-222-333-4444
Device(cfg-call-home)# street-address "1234 Any Street, Any city, Any state, 12345"
Device(cfg-call-home)# customer-id Customer1234
Device(cfg-call-home)# site-id Site1ManhattanNY
Device(cfg-call-home)# contract-id Company1234
Device(cfg-call-home)# exit

```

## 宛先プロファイルの設定

宛先プロファイルには、アラート通知に必要な配信情報が入っています。1 つまたは複数のタイプの複数の宛先プロファイルを設定できます。

新しい宛先プロファイルを作成して定義したり、宛先プロファイルをコピーして使用することもできます。新しい宛先プロファイルを定義する場合は、プロファイル名を割り当てる必要があります。新しい宛先プロファイルを定義する場合は、プロファイル名を割り当てる必要があります。

Cisco Smart Call Home サービスを使用する場合、宛先プロファイルは XML メッセージフォーマットでなければなりません。





- (注) Call Home 機能は、デフォルトで非アクティブな CiscoTAC-1 という名前の事前に定義されたプロファイルを提供します。CiscoTAC-1 プロファイルは、Smart Call Home サービスで使用することを目的としており、このサービスを Call Home 機能でイネーブルにするための特定の追加設定手順が必要です。このプロファイルに関する詳細については、[定義済みの CiscoTAC-1 宛先プロファイルの使用](#)を参照してください。



(注)

次の属性を宛先プロファイルに設定できます。

- プロファイル名：ユーザ定義の宛先プロファイルを一意に識別する文字列。プロファイル名は 31 文字までで大文字と小文字は区別されません。プロファイル名として **all** は使用できません。
- 転送方法：アラートを送信するための転送メカニズム（E メールまたは HTTP（HTTPSを含む））。
  - ユーザ定義の宛先プロファイルの場合、E メールがデフォルトで、どちらかまたは両方の転送メカニズムをイネーブルにできます。両方の方法をディセーブルにすると、E メールがイネーブルになります。
  - あらかじめ定義された Cisco TAC プロファイルの場合、いずれかの転送メカニズムをイネーブルにできますが、同時にはイネーブルにできません。
- 宛先アドレス：アラートを送信する転送方法に関連した実際のアドレス。  
Call Home のバージョン 3 では、Cisco TAC-1 プロファイルの宛先を変更できます。
- メッセージ形式：アラートの送信に使用するメッセージ形式。ユーザ定義宛先プロファイルの形式オプションは、ロングテキスト、ショートテキスト、または XML です。デフォルトは XML です。定義済みのシスコ TAC プロファイルの場合、XML しか使用できません。Cisco Smart Call Home サービスを使用する場合、宛先プロファイルは XML メッセージフォーマットでなければなりません。
- メッセージサイズ：宛先メッセージの最大サイズ。有効な範囲は、50 ～ 3,145,728 バイトで、デフォルトは 3,145,728 バイトです。
- レポート方法：プロファイルのどのデータをレポートするかを選択できます。Smart Call Home のデータや Smart Licensing データをプロファイルにレポートできます。Smart Licensing データのレポートは、1 度に 1 つのアクティブなプロファイルについてのみ許可されます。
- Anonymous Reporting：顧客 ID を匿名のままにするよう選択できます。これにより、識別情報が送信されません。
- 関心のあるアラート グループへの登録：各自の関心事項を示すアラート グループに登録することができます。

ここでは、次の作業について説明します。

## 新しい宛先プロファイルの作成

新しい宛先プロファイルを作成し、設定するには、次を実行します。

### 手順の概要

1. `configureterminal`
2. `call-home`
3. `profilename`
4. `destinationtransport-methodemail`
5. `destinationaddressemailemail-address`
6. `destinationpreferred-msg-format` {`long-text` | `short-text` | `xml`}
7. `destinationmessage-sizebytes`
8. `active`
9. `exit`
10. `end`

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b><code>configureterminal</code></b>  例 :  Device# <b><code>configure terminal</code></b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b><code>call-home</code></b>  例 :  Device (config) # <b><code>call-home</code></b>	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b><code>profilename</code></b>  例 :  Device (config-call-home) # <b><code>profile profile1</code></b>	指定された宛先プロファイル名の Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーション モードを開始します。指定された宛先プロファイルが存在しない場合、作成されます。
ステップ 4	<b><code>destinationtransport-methodemail</code></b>  例 :  Device (cfg-call-home-profile) # <b><code>destination transport-method email</code></b>	(任意) 電子メールのメッセージ転送方式を設定します。これはデフォルトです。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<b>destinationaddressemail</b> <i>email-address</i>  例 :  Device (cfg-call-home-profile) # <b>destination address email myaddress@example.com</b>	(必須) CallHome メッセージを送信する宛先電子メールアドレスを設定します。
ステップ 6	<b>destinationpreferred-msg-format</b> { <i>long-text</i>   <i>short-text</i>   <i>xml</i> }  例 :  Device (cfg-call-home-profile) # <b>destination preferred-msg-format xml</b>	(任意) 使用するメッセージ形式を設定します。デフォルトは XML です。
ステップ 7	<b>destinationmessage-size</b> <i>bytes</i>  例 :  Device (cfg-call-home-profile) # <b>destination message-size 3145728</b>	(任意) 宛先プロファイルの最大宛先メッセージサイズ (50 ~ 3145728 バイト) を設定します。デフォルト値は 3145728 バイトです。
ステップ 8	<b>active</b>  例 :  Device (cfg-call-home-profile) # <b>active</b>	(任意) 宛先プロファイルをイネーブルにします。デフォルトでは、ユーザ定義プロファイルは作成時にイネーブルになります。
ステップ 9	<b>exit</b>  例 :  Device (cfg-call-home-profile) # <b>exit</b>	Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーションモードを終了して、Call Home コンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 10	<b>end</b>  例 :  Device (cfg-call-home) # <b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。

## プロファイルの匿名モードの設定

既存のプロファイルをコピーして新しい宛先プロファイルを作成するには、次の手順に従います。

## 手順の概要

1. **configureterminal**
2. **call-home**
3. **copyprofilesource-profiletarget-profile**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configureterminal</b>  例 :  Device# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>call-home</b>  例 :  Device (config) # <b>call-home</b>	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>copyprofilesource-profiletarget-profile</b>  例 :  Device (cfg-call-home) # <b>copy profile profile1 profile2</b>	既存の宛先プロファイルと同じ設定で新しい宛先プロファイルを作成します。それぞれの説明は次のとおりです。

## アラート グループへの登録

アラート グループは、すべてのルータでサポートされている Call Home アラートをあらかじめ定義したサブセットです。Call Home アラートはタイプごとに別のアラート グループにグループ化されます。次のアラート グループが使用可能です。

- 設定 (Configuration)
- 環境
- インベントリ
- Syslog
- Crash

各アラートグループの起動イベントは「[アラートグループの起動イベントとコマンド](#)」に示しています。アラート グループ メッセージの内容は「[メッセージの内容](#)」に示しています。

宛先プロファイルごとに受信するアラート グループを 1 つまたは複数選択できます。



- (注) Call Home アラートは、その Call Home アラートが含まれているアラート グループに登録されている宛先プロファイルにしか送信されません。さらに、アラート グループをイネーブルにする必要があります。

## 定期通知

Configuration または Inventory アラート グループに宛先プロファイルを登録すると、指定した期間に定期的にまたは非同期にアラート グループメッセージを受信するよう選択できます。送信期間は、次のいずれかにできます。

- **Daily** : 24 時間の時間:分形式 hh:mm (例 : 14:30) で送信する時刻を指定します。
- **Weekly** : day hh:mm という形式で曜日と時刻を指定します。ここで、day は曜日をスペルアウトします (例 : monday) 。
- **Monthly** : date hh:mm という形式で 1 ~ 31 の日と時刻を指定します。

## メッセージ重大度しきい値

宛先プロファイルを、Environment、または Syslog アラート グループに登録すると、メッセージの重大度に基づいてアラート グループ メッセージを送信するしきい値を設定できます。宛先プロファイルに指定されたしきい値よりも低い重大度のメッセージは、宛先に送信されません。



- (注) syslogs レベルが IOS CLI を介して変更された場合、新しい値が IOS 以外のプロセスにもプロパゲートされ、これらのプロセスは IOS にとって優先度の低い syslog メッセージを送信しなくなり、IOS のための CPU サイクルを「確保」します。

次に、[catastrophic] (レベル 9、緊急レベルが最高) から [Debugging] (レベル 0、緊急レベルが最低) の重大度を設定するために使用されるキーワードを一覧表示します。重大度しきい値が設定されていない場合、デフォルトは debugging (レベル 0) です。ただし、トリガーされるメッセージの数を理由に、デフォルトは推奨されません。



- (注) Call Home の重大度は、システム メッセージ ロギングの重大度とは異なります。

表 4 : 重大度と syslog レベルのマッピング

レベル	キーワード	Syslog レベル	説明
9	<b>catastrophic</b>	該当なし	ネットワーク全体に壊滅的な障害が発生しています。

レベル	キーワード	Syslog レベル	説明
8	<b>disaster</b>	該当なし	ネットワークに重大な影響が及びます。
7	<b>fatal</b>	緊急 (0)	システムが使用不可能な状態。
6	<b>critical</b>	アラート (1)	クリティカルな状態、ただちに注意が必要。
5	<b>major</b>	重要 (2)	重大な状態。
4	<b>minor</b>	エラー (3)	軽微な状態。
3	<b>warning</b>	警告 (4)	警告状態。
2	<b>notification</b>	通知 (5)	基本的な通知および情報メッセージです。他と関係しない、重要性の低い障害です。
1	<b>normal</b>	情報 (6)	標準状態に戻ることを示す標準イベントです。
0	<b>debugging</b>	デバッグ (7)	デバッグメッセージ。

## スナップショット コマンド リストの設定

スナップショット コマンド リストを設定するには、次の手順を実行します。

### 手順の概要

1. **configureterminal**
2. **call-home**
3. **[no | default] alert-group-config snapshot**
4. **[no | default] add-command *command string***
5. **end**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configureterminal</b>  例 : Device# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>call-home</b>  例 : Device (config) # <b>call-home</b>	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>[no   default] alert-group-config snapshot</b>  例 : Device (cfg-call-home) # <b>alert-group-config snapshot</b>	スナップショット コンフィギュレーション モードを開始します。  <b>no</b> または <b>default</b> コマンドは、すべてのスナップショット コマンドを削除します。
ステップ 4	<b>[no   default] add-command command string</b>  例 : Device (cfg-call-home-snapshot) # <b>add-command "show version"</b>	Snapshot アラート グループにコマンドを追加します。 <b>no</b> または <b>default</b> コマンドは、対応するコマンドを削除します。  • <i>command string</i> : IOS コマンド。最大長は 128 文字です。
ステップ 5	<b>end</b>  例 : Device (cfg-call-home-snapshot) # <b>exit</b>	終了し、設定を保存します。

## 一般的な電子メール オプションの設定

## メール サーバの設定

E メール メッセージ転送を使用するには、少なくとも 1 つの Simple Mail Transfer Protocol (SMTP; シンプルメール転送プロトコル) E メールサーバアドレスを設定する必要があります。最大で合計 5 つのメールサーバ定義に対し、最大 4 つのバックアップ電子メールサーバを指定できます。

メールサーバを設定する場合は、次のガイドラインを考慮してください。

- バックアップ E メールサーバは、異なるプライオリティ番号を使用して、**mail-server** コマンドを繰り返すと定義できます。

- **mail-serverprioritynumber** パラメータは 1～100 に設定できます。プライオリティが最も高い（プライオリティ番号が最も低い）サーバを最初に試します。

一般的な電子メール オプションを設定するには、次の手順に従います。

## 手順の概要

1. **configureterminal**
2. **call-home**
3. **mail-server{ipv4-address | name} prioritynumber**
4. **senderfromemail-address**
5. **senderreply-toemail-address**
6. **source-interfaceinterface-name**
7. **source-ip-addressipv4/ipv6 address**
8. **vrfvrf-name**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configureterminal</b>  例 : Device# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>call-home</b>  例 : Device(config)# <b>call-home</b>	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>mail-server{ipv4-address   name} prioritynumber</b>  例 : Device(cfg-call-home)# <b>mail-server stmp.example.com priority 1</b>	電子メール サーバ アドレスを割り当て、設定済みの電子メール サーバ内の相対的なプライオリティを割り当てます。 次のいずれかの方法で指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 電子メール サーバの IP アドレスまたは</li> <li>• 電子メール サーバの完全修飾ドメイン名 (FQDN) (64 文字まで)</li> </ul> 1 (最高のプライオリティ) から 100 (最低のプライオリティ) のプライオリティ番号を割り当てます。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<b>senderfromemail-address</b>  例 :  Device(cfg-call-home) # <b>sender from username@example.com</b>	(任意) Call Home E メール メッセージの [from] フィールドに表示される E メール アドレスを割り当てます。アドレスが指定されていない場合は、連絡用の E メール アドレスが使用されます。
ステップ 5	<b>senderreply-toemail-address</b>  例 :  Device(cfg-call-home) # <b>sender reply-to username@example.com</b>	(任意) Call Home E メール メッセージの [reply-to] フィールドに表示される E メール アドレスを割り当てます。
ステップ 6	<b>source-interfaceinterface-name</b>  例 :  Device(cfg-call-home) # <b>source-interface loopback1</b>	Call-Home メッセージを送信するための発信元インターフェイス名を割り当てます。  <i>interface-name</i> : 発信元インターフェイス名。最大長は 64 文字です。  (注) HTTP メッセージの場合、発信元インターフェイス名を設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで <b>ip http client source-interfaceinterface-name</b> コマンドを使用します。これにより、デバイスのすべての HTTP クライアントが同じ発信元インターフェイスを使用できるようになります。
ステップ 7	<b>source-ip-addressipv4/ipv6 address</b>  例 :  Device(cfg-call-home) # <b>ip-address 209.165.200.226</b>	Call-Home メッセージを送信するための発信元 IP アドレスを割り当てます。  • <i>ipv4/ipv6 address</i> : 発信元 IP (ipv4 または ipv6) アドレス。最大長は 64 文字です。
ステップ 8	<b>vrfvrf-name</b>  例 :  Device(cfg-call-home) # <b>vrf vpn1</b>	(任意) Call Home E メール メッセージを送信する VRF インスタンスを指定します。VRF を指定しないと、グローバルルーティング テーブルが使用されます。  (注) HTTP メッセージでは、発信元インターフェイスが VRF に関連付けられている場合、グローバル コンフィギュレーション モードで <b>ip http client source-interfaceinterface-name</b> コマンドを使用して、デバイスのすべての HTTP クライアントで使われる VRF インスタンスを指定します。

例：一般的な電子メール オプション

次の例では、一般的な電子メール オプションを示しています。

```
Device# configure terminal

Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.

Device(config)# call-home

Device(cfg-call-home)# mail-server smtp.example.com priority 1

Device(cfg-call-home)# mail-server 192.168.0.1 priority 2

Device(cfg-call-home)# exit
```

## HTTP プロキシ サーバの指定

宛先に Call Home HTTP (S) メッセージを送信するために HTTP プロキシサーバを指定するには、次の手順を実行します。

### 手順の概要

1. **configureterminal**
2. **call-home**
3. **http-proxy {ipv4-address | ipv6-addressname} name**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configureterminal</b>  例 : Device# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>call-home</b>  例 : Device(config)# <b>call-home</b>	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>http-proxy {ipv4-address   ipv6-addressname} name</b>  例 : Device(config)# <b>http-proxy 1.1.1.1 port 1</b>	HTTP 要求のプロキシ サーバを指定します。

## Call Home メッセージの IOS コマンドを実行するための AAA 認証の有効化

AAA 認証をイネーブルにして Call Home メッセージの出力の収集をイネーブルにする IOS コマンドを実行するには、次の作業を実行します。

### 手順の概要

1. **configureterminal**
2. **call-home**
3. **aaa-authorization**
4. **aaa-authorization [username username]**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configureterminal</b>  例 :  Device# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>call-home</b>  例 :  Device (config) # <b>call-home</b>	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>aaa-authorization</b>  例 :  Device (cfg-call-home) # <b>aaa-authorization</b>	AAA 認証をイネーブルにします。  (注) デフォルトでは、AAA 認証は Call Home でディセーブルです。
ステップ 4	<b>aaa-authorization [username username]</b>  例 :  Device (cfg-call-home) # <b>aaa-authorization username username</b>	許可のためのユーザ名を指定します。  • <b>usernameuser</b> : デフォルトのユーザ名は callhome です。最大長は 64 文字です。

## syslog スロットリングの設定

Call Home syslog メッセージのスロットリングをイネーブルまたはディセーブルにし、Call Home syslog メッセージが繰り返し送信されないようにするには、次の手順を実行します。

## 手順の概要

1. **configureterminal**
2. **call-home**
3. **[no] syslog-throttling**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configureterminal</b>  例 : Device# <b>configure terminal</b>	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<b>call-home</b>  例 : Device (config) # <b>call-home</b>	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>[no] syslog-throttling</b>  例 : Device (cfg-call-home) # <b>syslog-throttling</b>	Call Home syslog メッセージのスロットリングをイネーブルまたはディセーブルにし、Call Home syslog メッセージが繰り返し送信されないようにします。デフォルトでは、syslog メッセージ スロットリングはイネーブルです。

## Call Home データ プライバシーの設定

**data-privacy** コマンドは、顧客のプライバシーを保護するために、IP アドレスなどのデータのスクラビング処理を行います。**data-privacy** コマンドをイネーブルにすると、大量のデータのスクラビング処理を行ったときに CPU 使用率に影響を及ぼすことがあります。現在、**show** と **show running-config** の設定メッセージを除いて、コマンドの出力結果はスクラビング処理されていません。

## 手順の概要

1. **configureterminal**
2. **call-home**
3. **data-privacy {level {normal | high} | hostname}**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  例 : Device# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>call-home</b>  例 : Device (config) # <b>call-home</b>	Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>data-privacy {level {normal   high}   hostname}</b>  例 : Device (cfg-call-home) # <b>data-privacy level high</b>	<p>ユーザのプライバシーを保護するために、実行コンフィギュレーション ファイルのデータをスクラビング処理します。デフォルトの data-privacy レベルは normal です。</p> <p>(注) data-privacy コマンドをイネーブルにすると、大量のデータのスクラビング処理を行ったときに CPU 使用率に影響を及ぼすことがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>normal</b> : すべての標準レベル コマンドをスクラビング処理します。</li> <li>• <b>high</b> : 標準レベル コマンドに加えて、IP ドメイン名と IP アドレスのコマンドのスクラビング処理を行います。</li> <li>• <b>hostname</b> : 高レベル コマンドに加えて hostname コマンドのスクラビング処理を行います。</li> </ul> <p>(注) 一部のプラットフォームでは、設定メッセージのホスト名をスクラビング処理すると、Smart Call Home 処理が失敗することがあります。</p>

## 宛先プロファイルの操作

この項では、宛先プロファイルで実行できるいくつかのタスクについて説明します。

## 宛先プロファイルのアクティブ化および非アクティブ化

定義済み CiscoTAC-1 プロファイルを除き、すべての Call Home 宛先プロファイルが作成時に自動的にアクティブになります。プロファイルをすぐに使用しない場合は、そのプロファイルを非アクティブ化できます。CiscoTAC-1 プロファイルは、デフォルトで非アクティブとなっており、使用するにはアクティブにする必要があります。

宛先プロファイルをアクティブまたは非アクティブにするには、次の手順を実行します。

## 手順の概要

1. **configure terminal**
2. **call-home**
3. **profile name**
4. **active**
5. **no active**
6. **end**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  例 : Router# <b>configure terminal</b>	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<b>call-home</b>  例 : Router(config)# <b>call-home</b>	Call Home コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	<b>profile name</b>  例 : Router(config-call-home)# <b>profile test</b>	指定された宛先プロファイルの Call Home 宛先プロファイル コンフィギュレーションモードを開始します。指定された宛先プロファイルが存在しない場合、作成されます。
ステップ 4	<b>active</b>  例 : Router(cfg-call-home-profile)# <b>active</b>	宛先プロファイルをイネーブルにします。デフォルトでは、新しいプロファイルは作成時にイネーブルになります。
ステップ 5	<b>no active</b>  例 : Router(cfg-call-home-profile)# <b>no active</b>	宛先プロファイルをディセーブルにします。
ステップ 6	<b>end</b>  例 : Router(cfg-call-home)# <b>end</b>	Call Home 宛先プロファイルコンフィギュレーションモードを終了して、特権 EXEC モードに戻ります。

## 宛先プロファイルの名前変更

既存のプロファイルの名前を変更するには、次の手順を実行します。

### 手順の概要

1. **configure terminal**
2. **call-home**
3. **rename profile** *source-profile target-profile*

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  例 : Router# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>call-home</b>  例 : Router(config)# <b>call-home</b>	Call Home コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	<b>rename profile</b> <i>source-profile target-profile</i>  例 : Router(cfg-call-home)# <b>rename profile2 testprofile</b>	既存のソースファイルの名前を変更します。それぞれの説明は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [source-profile] : 既存のプロファイルの名前を指定します。</li> <li>• [target-profile] : 既存のプロファイルの新しい名前を指定します。</li> </ul>

## 定義済みの CiscoTAC-1 宛先プロファイルの使用

CiscoTAC-1 プロファイルは、Cisco Smart Call Home サービスで使用するために、Call Home 機能で自動的に設定されています。このプロファイルには、宛先電子メールアドレスや HTTPS URL などの特定の情報、および Smart Call Home サービスと通信するためのデフォルトのアラートグループが含まれています。宛先電子メールアドレス、HTTPS URL、メッセージ形式など、一部の属性は変更できません。

電子メールまたは HTTP 転送を使用して、Smart Call Home サービスのバックエンドサーバと通信できます。デフォルトでは、CiscoTAC-1 プロファイルは非アクティブであり、デフォルトの転送方法として電子メールが使用されます。電子メール転送を使用するには、このプロファイルをイネーブルにするだけです。ただし、(HTTPS を介して) Cisco Smart Call Home サービス セキュアサーバでこのプロファイルを使用する場合は、プロファイルをイネーブルにするだけでなく、次の例に示すように、転送方法を HTTP に変更することも必要です。

```
Router# configure terminal
Router(config)# call-home
Router(config-call-home)# profile CiscoTAC-1
Router(cfg-call-home-profile)# destination transport-method http
Router(cfg-call-home-profile)# active
```

Smart Call Home サービスを設定するための追加要件に関する詳細については、[Smart Call Home サービスをサポートするように Call Home を設定する方法](#)を参照してください。

## Call Home プロファイルの設定の確認

Call Home のプロファイル設定を確認するには、**showcall-homeprofile** コマンドを使用します。詳細および例について、[Call Home 設定情報の表示](#)を参照してください。

# Call Home 通信の手動送信

数種類の Call Home 通信を手動で送信できます。Call Home 通信を送信するには、この項の作業を実行します。ここでは、次の内容について説明します。

## Call Home テスト メッセージの手動送信

**call-home test** コマンドを使用して、ユーザ定義の Call Home テスト メッセージを送信できます。

### 手順の概要

#### 1. **call-home test** ["test-message"] *profile name*

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>call-home test</b> ["test-message"] <i>profile name</i>  例 :  Router# <b>call-home test profile profile1</b>	指定された宛先プロファイルにテストメッセージを送信します。ユーザ定義のテストメッセージのテキストは任意指定ですが、スペースが含まれる場合には、引用符 (") で囲む必要があります。ユーザ定義のメッセージが設定されていない場合、デフォルトメッセージが送信されます。



## Call Home アラート グループ メッセージの手動送信

**call-homesend** コマンドを使用して、特定のアラート グループ メッセージを手動で送信できます。  
Call Home アラート グループメッセージを手動で送信する場合は、次の注意事項に従ってください。

- コンフィギュレーション、または Inventory アラート グループは手動で送信できます。
- 手動でアラート グループメッセージを起動し、宛先プロファイル名を指定すると、メッセージは、プロファイルのアクティブステータス、登録ステータス、または重大度の設定に関係なく、宛先プロファイルに送信されます。
- Configuration または Inventory アラート グループ メッセージを手動で起動し、宛先プロファイル名を指定しないと、normal または指定されたアラートグループへの定期的な登録に指定されたアクティブなプロファイルすべてにメッセージが送信されます。
- Diagnostic アラート グループ メッセージを手動で起動し、宛先プロファイル名を指定しないと、メッセージは、指定されたスロットよりも診断結果よりも重大度登録が低いすべての登録された宛先プロファイルに送信されます。

Call Home アラート グループ メッセージを手動でトリガーするには、次の手順に従います。

### 手順の概要

1. **call-homesendalert-groupconfiguration[profilename]**
2. **call-homesendalert-groupinventory[profilename]**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>call-homesendalert-groupconfiguration[profilename]</b>  例 :  Device# <b>call-home send alert-group configuration profile CiscoTAC-1</b>	宛先プロファイルの 1 つ（指定されている場合）または登録されているすべての宛先プロファイルに Configuration アラート グループ メッセージを送信します。
ステップ 2	<b>call-homesendalert-groupinventory[profilename]</b>  例 :  Device# <b>call-home send alert-group inventory</b>	宛先プロファイルの 1 つ（指定されている場合）または登録されているすべての宛先プロファイルに Inventory アラート グループ メッセージを送信します。

## Call Home 分析およびレポート要求の送信

**call-homerequest** コマンドを使用して、システム固有の便利な分析およびレポート情報を送信するため、システムに関する情報を Cisco Systems に送信できます。セキュリティの警告、既知のバグ、ベストプラクティス、コマンドリファレンスなど、さまざまなレポートを要求できます。

Call Home 分析およびレポート要求を手動で送信する場合、次の注意事項に従ってください。

- **profilename** を指定すると、要求はプロファイルに送信されます。プロファイルが指定されていない場合、要求は Cisco TAC プロファイルに送信されます。Call Home 要求の受信者プロファイルをイネーブルにする必要はありません。要求メッセージを Cisco TAC に転送し、Smart Call Home サービスから返信を受信できるように、Transport Gateway が設定された電子メールアドレスをプロファイルに指定します。
- **ccoiduser-id** は、Smart Call Home ユーザの登録 ID です。**user-id** を指定すると、応答は登録ユーザの E メールアドレスに送信されます。**user-id** を指定しなければ、応答はデバイスの連絡先電子メールアドレスに送信されます。
- 要求するレポートのタイプを指定するキーワードに基づいて、次の情報が返されます。
  - **config-sanity** : 現在の実行コンフィギュレーションに関連するベストプラクティス情報。
  - **bugs-list** : 実行バージョンおよび現在適用されている機能に関する既知のバグ。
  - **command-reference** : 実行コンフィギュレーションのすべてのコマンドに対する参照リンク。
  - **product-advisory** : ネットワーク内の装置に影響を与える可能性がある Product Security Incident Response Team (PSIRT) 警告、サポート終了 (EOL) または販売終了 (EOS) 警告、Field Notice (FN) のいずれか。

Cisco Output Interpreter ツールから分析およびレポート情報の要求を送信するには、次の手順に従います。

### 手順の概要

1. **call-homerequestoutput-analysis**“*show-command*”
2. **call-homerequest** {**config-sanity**| **bugs-list** | **command-reference** | **product-advisory**}

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>call-homerequestoutput-analysis</b> “ <i>show-command</i> ”  例 :  <b>[profile name] [ccoid user-id]</b>	分析用として指定した <b>show</b> コマンドの出力を送信します。 <b>show</b> コマンドは、引用符 (") で囲む必要があります。

	コマンドまたはアクション	目的
	例 : Device# <b>call-home request output-analysis "show diag" profile TG</b>	
ステップ 2	<b>call-homerequest {config-sanity  bugs-list   command-reference   product-advisory}</b>  例 : [profile name] [ccoid user-id]  例 : Device# <b>call-home request config-sanity profile TG</b>	分析のため、 <b>showrunning-configall</b> および <b>showversion</b> コマンドなど所定のコマンドセットの出力を送信します。また、 <b>callhomerequestproduct-advisory</b> サブコマンドには、すべてのインベントリ アラート グループ コマンドが含まれます。 <b>call-homerequest</b> コマンドのあとに指定するキーワードは、必要なレポートのタイプを示します。

## 例

次に、ユーザ指定の **show** コマンドの分析要求の例を示します。

```
Router# call-home request output-analysis "show diag" profile TG
```

## 1つのコマンドまたはコマンド リスト用のコマンド出力メッセージの手動送信

**call-homesend** コマンドを使用すると、CLI を実行し、コマンド出力をシスコまたは指定の電子メールアドレスに送信できます。

コマンド出力を送信する場合は、次の注意事項に従ってください。

- IOS コマンドまたは IOS コマンド リストとして、すべてのモジュール用のコマンドを含めて、任意の実行コマンドを指定できます。コマンドは、引用符 (“”) で囲む必要があります。
- 「email」 キーワードを使って電子メール オプションを選択し、電子メールアドレスを指定すると、コマンド出力はそのアドレスに送信されます。電子メール オプションも HTTP オプションも指定しない場合、出力は指定のサービス要求番号と共にロングテキスト形式で Cisco TAC (attach@cisco.com) に送信されます。
- 「email」 キーワードも 「http」 キーワードも指定しない場合、ロングテキスト形式と XML メッセージ形式の両方でサービス要求番号が必要とされ、電子メールの件名行にサービス要求番号が示されます。
- HTTP オプションを指定している場合、CiscoTac-1 プロファイルの宛先 HTTP または HTTPS URL が宛先として使用されます。Smart Call Home から電子メール アドレスにメッセージを転送するよう、宛先の電子メールアドレスを指定できます。ユーザは、宛先の電子メール

アドレスまたは SR 番号のいずれかを指定する必要があります（両方を指定することもできます）。

コマンドを実行し、コマンド出力を送信するには、次の手順を実行します。

## 手順の概要

1. **call-homesend** {cli command| cli list} [email email msg-format {long-text | xml} | http {destination-email-addressemail}][tac-service-request SR#

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p><b>call-homesend</b> {cli command  cli list} [email email msg-format {long-text   xml}   http {destination-email-addressemail}][tac-service-request SR#</p> <p>例 :</p> <pre>Router# call-home send "show version;show running-config show inventory" emailsupport@example.com msg-format xml</pre>	<p>CLI または CLI リストを実行し、電子メールまたは HTTP 経由で出力を送信します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>{cli command  cli list}</b> : 1 つの IOS コマンドまたは（「,」で区切った）IOS コマンドリストを指定します。すべてのモジュールに対するコマンドを含む、あらゆる run コマンドを指定できます。これらのコマンドは引用符（"”）で囲む必要があります。</li> <li>• <b>email email msg-format {long-text   xml}</b> : この email オプションが選択されている場合、指定の電子メールアドレスに向けてロングテキスト形式または XML 形式でコマンド出力が送信され、サービス要求番号がその件名に含まれます。電子メールアドレス、サービス要求番号、またはその両方を指定する必要があります。電子メールアドレスが指定されない場合は、サービス リクエスト番号が必要です（デフォルトでは、ロングテキスト形式の場合は attach@cisco.com、XML 形式の場合は callhome@cisco.com）。</li> <li>• <b>http {destination-email-addressemail}</b> : この http オプションが選択されている場合、コマンド出力は XML 形式で Smart Call Home バックエンドサーバ（TAC プロファイルで指定された URL）に送信されます。バックエンドサーバから電子メールアドレスにメッセージを転送できるようにするには、<b>destination-email-addressemail</b> を指定できます。電子メールアドレス、サービス要求番号、またはその両方を指定する必要があります。</li> <li>• <b>tac-service-request SR#</b> : サービス要求番号を指定します。電子メールアドレスが指定されない場合は、サービス リクエスト番号が必要です。</li> </ul>

コマンドまたはアクション	目的
--------------	----

## 例

次に、CLI コマンドの出力をユーザ指定の E メールアドレスに送信する例を示します。

```
Device# call-homesend"showdiag"emailsupport@example.com
```

次に、SR 番号が指定され、ロングテキスト形式で attach@cisco.com に送信されるコマンド出力の例を示します。

```
Device# call-homesend"showversion"; "showruntac-service-request 123456
```

次に、XML メッセージ形式で callhome@cisco.com に送信されるコマンド出力の例を示します。

```
Device# call-homesend"showdiag"emailcallhome@example.com msg-format xml
```

## Call Home の設定

Call Home 機能は、クリティカルなシステム イベントを E メールおよび Web 上で通知します。ポケットベル サービス、通常の電子メール、または XML ベースの自動解析アプリケーションとの適切な互換性のために、さまざまなメッセージの形式が使用できます。この機能の一般的な使用方法には、ネットワーク サポート技術者の直接ページング、ネットワーク オペレーション センターへの E メール通知、サポート Web サイトへの XML の送信、シスコのテクニカル サポート (TAC) での直接の事例生成のための Cisco Smart Call Home サービスの使用などがあります。

### Smart Call Home サービスをサポートするように Call Home を設定する方法

ここでは、シスコ デバイスで Call Home 機能を設定し、HTTPS を使用して Smart Call Home サービスと安全に通信するために必要なその他の支援設定を行うために必要な最小限の手順の概要を説明します。

#### 前提条件

Smart Call Home サービスを設定して使用する前に、次の前提条件を満たしていることを確認してください:

- 設定するデバイスが有効なサービス契約の対象となっていることを確認します。
- Cisco HTTPS サーバと IP 接続できることを確認します。
- 最新のシスコ サーバセキュリティ証明書を取得します。Cisco IOS XE Release 2.6.0 では、以下が Cisco Systems のサーバセキュリティ証明書の最新のテキストを表示します。

```
MIIDAJCCAMsCEH3Z/gfPqB63EHln+6eJNMYwDQYJKoZIhvcNAQEFBQAwgCExCzAJBgNVBAYTA1VTMRcwFQYDVQQKEw5WZXJpU2lnbiwgSW5jLjE8MDoGA1UECzMzQ2xh
```

```
c3MgMyBQdWJsaWMgUHVWYyZSBDZXJ0aWZpY2F0aW9uIEF1dGhvcml0eSAtIEcy
MTowOAYDVQQLZeoYykgMTk5OCBwZXJpU2lnbiwgSW5jLiAtIEZvciBhdXRob3Jp
emVkiHVzZSBvbm5MR8wHQYDVQQLZXZlbnBiUcnVzdCB0ZXN3b3JrMB4X
DTk4MDUxODAwMDAwMFOXTDI4MDgwMTIzNTk1OVowgcExCzAJBgNVBAYTA1VTMRcw
FQYDVQQKEw5WZXJpU2lnbiwgSW5jLiAtIEZvciBhdXRob3JpemVkiHVzZSBvbm5
UHJpWYyZSBDZXJ0aWZpY2F0aW9uIEF1dGhvcml0eSAtIEcyMTowOAYDVQQLZeoY
ykgMTk5OCBwZXJpU2lnbiwgSW5jLiAtIEZvciBhdXRob3JpemVkiHVzZSBvbm5
MR8wHQYDVQQLZXZlbnBiUcnVzdCB0ZXN3b3JrMIGfMA0GCSqGSIb3DQEB
AQUAA4GNADCBiQKBgQDMXtERXVxp0KvTuWpMmR9ZmDCOFoUgRm1HP9SFIIThbbP4
p00M8RcPO/mn+SXwc+EY/J8Y8+iR/LGWzOOZEAEaMGauWQcRXfH2G711Sk8UOg0
13gfqLptQ5GVj0VXXn7F+8qkBOvqlzdUMG+7AUcyM83cV5tkawH4mx0ciU9cZwID
AQABMA0GCSqGSIb3DQEBBQUAA4GBAFFNzb5cy5gZnBWYAT14Lk0PZ3BwmcYQWpSk
U01UbSuvDV1Ai2TT1+7eVmGSX6bEHRBhNtMsJzZoKQm5EWR0zLVznxxIqbxhAe7i
F6YM40AIOW7n60RzKprxaZLvcRTDOaxxp5EJb+RxBr06WVcmeQD2+A2iMzAo1KpY
oJ2daZH9
```

## CA トラストポイントの宣言および認証

Smart Call Home サービス用に Cisco HTTPS サーバとの通信を確立するには、シスコのサーバセキュリティ証明書を宣言し、認証する必要があります。

### 手順の概要

1. **configure terminal**
2. **crypto pki trustpoint *name***
3. **enrollment terminal**
4. **exit**
5. **crypto pki authenticate *name***
6. プロンプトで、セキュリティ証明書のテキストを貼り付けます。
7. **quit**
8. **yes**
9. **end**
10. **copy running-config startup-config**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  例 :  Router# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>crypto pki trustpoint <i>name</i></b>  例 :  Router(config)# <b>crypto pki trustpoint cisco</b>	ルータの CA トラストポイントを宣言し、CA トラストポイント コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<b>enrollment terminal</b>  例 : Router(ca-trustpoint)# <b>enrollment terminal</b>	証明書登録に、手動でのカットアンドペースト方式を指定します。
ステップ 4	<b>exit</b>  例 : Router(ca-trustpoint)# <b>exit</b>	CA トラストポイント コンフィギュレーションモードを終了し、グローバル コンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 5	<b>crypto pki authenticate name</b>  例 : Router(config)# <b>crypto pki authenticate cisco</b>	名前付き CA を認証します。  (注) CA の名前は、 <b>crypto pki trustpoint</b> コマンドで指定された <i>name</i> と一致する必要があります。
ステップ 6	プロンプトで、セキュリティ証明書のテキストを貼り付けます。  例 : Enter the base 64 encoded CA certificate.  例 : End with a blank line or the word "quit" on a line by itself  例 : <Paste certificate text here>	セキュリティ証明書のテキストを指定します。
ステップ 7	<b>quit</b>  例 : <b>quit</b>	セキュリティ証明書のテキストの終わりを指定します。
ステップ 8	<b>yes</b>  例 : % Do you accept this certificate? [yes/no]: <b>yes</b>	セキュリティ証明書の入力の受け入れを確認します。
ステップ 9	<b>end</b>  例 : Router# <b>end</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 10	<p>copy running-config startup-config</p> <p>例 :</p> <p>Router# <b>copy running-config startup-config</b></p>	この設定を NVRAM に保存します。

例 : シスコ サーバ セキュリティ 証明書の宣言と認証

次に、シスコのサーバセキュリティ証明書の宣言と認証に使用される設定の例を示します。

```
Router# configure terminal
Router(config)# crypto pki trustpoint cisco
Router(ca-trustpoint)# enrollment terminal
Router(ca-trustpoint)# exit
Router(config)# crypto pki authenticate cisco
Enter the base 64 encoded CA certificate.
End with a blank line or the word "quit" on a line by itself
MIIDAJCCAmCEH3Z/gfPqB63EHLn+6eJNMYwDQYJKoZIhvcNAQEFBQAwgcExCzAJ
BgNVBAYTAlVTMRcwFQYDVQQKEw5WZXJpU2lnbiwgSW5jLjE8MDoGA1UECzMzQ2xh
c3MgMyBQdWJsaWMgUHJpbWVyeSBDZXJ0aWZpY2F0aW9uIEF1dGhvcml0eSAtIEcy
MTowOAYDVQQLEzEoYykgMTk5OCBwZXJpU2lnbiwgSW5jLiAtIEZvciBhdXRob3Jp
emVkiHVzZSBvbm5MR8wHQYDVQQLExZWZlZjU2lnbiBUCnVzdCB0ZXR3b3JrMB4X
DTk4MDUxODAwMDAwMFOxDTI4MDgwMTIzNTk1OVowgcExCzAJBgNVBAYTAlVTMRcw
FQYDVQQKEw5WZXJpU2lnbiwgSW5jLjE8MDoGA1UECzMzQ2xhc3MgMyBQdWJsaWMg
UHJpbWVyeSBDZXJ0aWZpY2F0aW9uIEF1dGhvcml0eSAtIEcyMTowOAYDVQQLEzEo
YykgMTk5OCBwZXJpU2lnbiwgSW5jLiAtIEZvciBhdXRob3JpemVkiHVzZSBvbm5
MR8wHQYDVQQLExZWZlZjU2lnbiBUCnVzdCB0ZXR3b3JrMIGfMA0GCSqGSIb3DQEB
AQUAA4GNADCBiQKBgQDMXtERXVxp0KvTuWpMmR9ZmDCOFoUgRm1HP9SFIIThbbP4
p00M8RcPO/mn+SXXwc+EY/J8Y8+iR/LGWzOOZEAEaMGauWQcRXfH2G71lSk8UOg0
13gfgLptQ5GVj0VXXn7F+8qkBOvqlzdUMG+7AUcyM83cV5tkaWH4mx0ciU9cZwID
AQABMA0GCSqGSIb3DQEBBQUAA4GBAFFNzb5cy5gZnBWYATl4Lk0PZ3BwmcYQWpSk
U01UbSuvDV1Ai2TT1+7eVmGSX6bEHRBhNtMsJzzoKQm5EWR0zLVznxxIqbxhAe7i
F6YM40AIOW7n60RzKprxaZLvcRTDOaxxp5EJb+RxBrO6WVcmeQD2+A2iMzAo1KpY
oJ2daZH9
quit
Certificate has the following attributes:
    Fingerprint MD5: A2339B4C 747873D4 6CE7C1F3 8DCB5CE9
    Fingerprint SHA1: 85371CA6 E550143D CE280347 1BDE3A09 E8F8770F
% Do you accept this certificate? [yes/no]: yes
Trustpoint CA certificate accepted.
% Certificate successfully imported
Router(config)# end
Router# copy running-config startup-config
```

## Smart Call Home の登録の開始

Smart Call Home の登録プロセスを開始するには、CiscoTAC-1 プロファイルに [Inventory] アラートグループ メッセージを手動で送信します。

### 手順の概要

#### 1. call-homesendalert-groupinventoryprofileCiscoTAC-1



## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>call-homesendalert-groupinventoryprofileCiscoTAC-1</b>  例 :  Device# <b>call-home send alert-group inventory profile CiscoTAC-1</b>	[Inventory] アラート グループ メッセージを CiscoTAC-1 宛先プロファイルに手動で送信します。

## 次の作業

電子メールを Cisco Systems から受信し、指示に従って Smart Call Home Web アプリケーションのデバイス登録を完了します。

- 次の URL から、Smart Call Home Web アプリケーションを起動します。

<https://tools.cisco.com/sch/>

- 法的な契約書を受け入れます。
- 登録が保留中であった Call Home デバイスのデバイス登録を確認します。

Smart Call Home Web アプリケーションの使用の詳細については、『*Smart Call Home User Guide*』を参照してください。このユーザガイドには、デバイスから直接、または転送ゲートウェイ (TG) 集約ポイントを介して Smart Call Home メッセージを送信するための設定例も含まれています。複数のデバイスをサポートする必要がある場合や、セキュリティ要件によってデバイスがインターネットに直接接続されないことが必須である場合は、TG 集約ポイントを使用できます。

## Call Home 設定情報の表示

**showcall-home** コマンドをさまざまな形式で使用して、Call Home の設定情報を表示できます。

設定済みの Call Home 情報を表示するには、次のコマンドの 1 つまたは複数を使用します。

## 手順の概要

1. **showcall-home**
2. **showcall-homedetail**
3. **showcall-homealert-group**
4. **showcall-homemail-serverstatus**
5. **showcall-homeprofile{all | name}**
6. **showcall-homestatistics**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>showcall-home</b>  例 : Device# <b>show call-home</b>	Call Home 設定の概要を表示します。
ステップ 2	<b>showcall-homedetail</b>  例 : Device# <b>show call-home detail</b>	Call Home 設定の詳細を表示します。
ステップ 3	<b>showcall-homealert-group</b>  例 : Device# <b>show call-home alert-group</b>	使用可能なアラートグループとそれらのステータスを表示します。
ステップ 4	<b>showcall-homemail-serverstatus</b>  例 : Device# <b>show call-home mail-server status</b>	設定済みのEメールサーバの稼働状態を確認して表示します。
ステップ 5	<b>showcall-homeprofile{all   name}</b>  例 : Device# <b>show call-home profile all</b>	指定された宛先プロファイルの設定を表示します。 <b>all</b> キーワードを使用してすべての宛先プロファイルの設定を表示します。
ステップ 6	<b>showcall-homestatistics</b>  例 : Device# <b>show call-home statistics</b>	Call Home イベントの統計情報を表示します。

## Call Home のコンフィギュレーション例

次に、**showcall-home** コマンドの異なるオプションを使用した場合の出力例を示します。

例 : *Call Home* 情報の要約

```
Device# show call-home
Current call home settings:
  call home feature : disable
  call home message's from address: username@example.com
  call home message's reply-to address: username@example.com
  vrf for call-home messages: Mgmt-intf
  contact person's email address: username@example.com
```

```

contact person's phone number: +14085551234
street address: 1234 Any Street Any city Any state 12345
customer ID: customer@example.com
contract ID: 123456789
site ID: example.com
Mail-server[1]: Address: smtp.example.com Priority: 1
Mail-server[2]: Address: 192.168.0.1 Priority: 2
Rate-limit: 20 message(s) per minute
Available alert groups:
Keyword      State  Description
-----
configuration Enable configuration info
diagnostic   Enable diagnostic info
environment  Enable environmental info
inventory    Enable inventory info
syslog       Enable syslog info
Profiles:
Profile Name: campus-noc
Profile Name: CiscoTAC-1

```

例：設定済みの *Call Home* 情報の詳細

```

Device# show call-home detail
Current call home settings:
call home feature: enable
call home message's from address: router@example.com
call home message's reply-to address: support@example.com
vrf for call-home messages: Not yet set up
contact person's email address: technical@example.com
contact person's phone number: +1-408-555-1234
street address: 1234 Picaboo Street, Any city, Any state, 12345
customer ID: ExampleCorp
contract ID: X123456789
site ID: SantaClara
source ip address: Not yet set up
source interface: GigabitEthernet1
Mail-server[1]: Address: 192.168.2.1 Priority: 1
Mail-server[2]: Address: 223.255.254.254 Priority: 2
http proxy: 192.168.1.1:80
aaa-authorization: disable
aaa-authorization username: callhome (default)
data-privacy: normal
syslog throttling: enable
Rate-limit: 20 message(s) per minute
Snapshot command[0]: show version
Snapshot command[1]: show clock
Available alert groups:
Keyword State Description
-----
configuration Enable configuration info
crash Enable crash and traceback info
inventory Enable inventory info
snapshot Enable snapshot info
syslog Enable syslog info
Profiles:
Profile Name: campus-noc
Profile status: ACTIVE
Preferred Message Format: xml
Message Size Limit: 3145728 Bytes
Transport Method: email
Email address(es): noc@example.com
HTTP address(es): Not yet set up
Alert-group Severity
-----
configuration normal
crash normal
inventory normal
Syslog-Pattern Severity
-----
.*CALL_LOOP.* debug
Profile Name: CiscoTAC-1
Profile status: INACTIVE

```

```

Profile mode: Full Reporting
Preferred Message Format: xml
Message Size Limit: 3145728 Bytes
Transport Method: email
Email address(es): callhome@cisco.com
HTTP address(es): https://tools.cisco.com/its/service/oddce/services/DDCEService
Periodic configuration info message is scheduled every 14 day of the month at 11:12
Periodic inventory info message is scheduled every 14 day of the month at 10:57
Alert-group Severity
-----
crash normal
Syslog-Pattern Severity
-----
.*CALL_LOOP.* debug

```

例：使用可能な **Call Home** アラート グループ

```

Device# show call-home alert-group
Available alert groups:
Keyword State Description
-----
configuration Enable configuration info
crash Enable crash and traceback info
inventory Enable inventory info
snapshot Enable snapshot info
syslog Enable syslog info

```

例：電子メール サーバのステータス情報

```

Device# show call-home mail-server status
Please wait. Checking for mail server status ...
Mail-server[1]: Address: 192.168.2.1 Priority: 1 [Not Available]
Mail-server[2]: Address: 223.255.254.254 Priority: 2 [Available]

```

例：すべての宛先プロファイルの情報

```

Device# show call-home profile all
Profile Name: campus-noc
Profile status: ACTIVE
Preferred Message Format: xml
Message Size Limit: 3145728 Bytes
Transport Method: email
Email address(es): noc@example.com
HTTP address(es): Not yet set up
Alert-group Severity
-----
configuration normal
crash normal
inventory normal
Syslog-Pattern Severity
-----
.*CALL_LOOP.* debug
Profile Name: CiscoTAC-1
Profile status: INACTIVE
Profile mode: Full Reporting
Preferred Message Format: xml
Message Size Limit: 3145728 Bytes
Transport Method: email
Email address(es): callhome@cisco.com
HTTP address(es): https://tools.cisco.com/its/service/oddce/services/DDCEService
Periodic configuration info message is scheduled every 14 day of the month at 11:12
Periodic inventory info message is scheduled every 14 day of the month at 10:57
Alert-group Severity
-----
crash normal
Syslog-Pattern Severity
-----
.*CALL_LOOP.* debug

```

例：ユーザ定義の宛先プロファイルの情報

```
Device# show call-home profile campus-noc
Profile Name: campus-noc
Profile status: ACTIVE
Preferred Message Format: xml
Message Size Limit: 3145728 Bytes
Transport Method: email
Email address(es): noc@example.com
HTTP address(es): Not yet set up
Alert-group          Severity
-----
configuration        normal
crash                 normal
inventory             normal
Syslog-Pattern        Severity
-----
.*CALL_LOOP.*        debug
```

例：Call Home の統計情報

```
Device# show call-home statistics
Message Types      Total      Email      HTTP
-----
Total Success      3          3          0
  Config            3          3          0
  Diagnostic         0          0          0
  Environment        0          0          0
  Inventory          2          2          0
  SysLog             0          0          0
  Test              0          0          0
  Request            0          0          0
  Send-CLI           0          0          0
Total In-Queue      0          0          0
  Config            0          0          0
  Diagnostic         0          0          0
  Environment        0          0          0
  Inventory          0          0          0
  SysLog             0          0          0
  Test              0          0          0
  Request            0          0          0
  Send-CLI           0          0          0
Total Failed        0          0          0
  Config            0          0          0
  Diagnostic         0          0          0
  Environment        0          0          0
  Inventory          0          0          0
  SysLog             0          0          0
  Test              0          0          0
  Request            0          0          0
  Send-CLI           0          0          0
Total Ratelimit     0          0          0
  -dropped          0          0          0
  Config            0          0          0
  Diagnostic         0          0          0
  Environment        0          0          0
  Inventory          0          0          0
  SysLog             0          0          0
  Test              0          0          0
  Request            0          0          0
  Send-CLI           0          0          0
Last call-home message sent time: 2010-01-11 18:32:32 GMT+00:00
```

## デフォルト設定

Call Home のデフォルト設定の一覧です。

パラメータ (Parameters)	デフォルト
Call Home 機能のステータス	ディセーブル
ユーザ定義プロファイルのステータス	Active
定義済みのシスコ TAC プロファイルのステータス	Inactive
転送方法	電子メール
メッセージのフォーマット タイプ	XML
ロングテキスト、ショートテキスト、または XML 形式で送信されるメッセージの宛先メッセージのサイズ	3,145,728
アラート グループのステータス	イネーブル
Call Home メッセージの重大度しきい値	0 (デバッグ)
1 分間に送信するメッセージのレート制限	20
AAA Authorization	ディセーブル
Call Home の syslog メッセージ スロットリング	イネーブル
データ プライバシー レベル	標準

## アラート グループの起動イベントとコマンド

Call Home 起動イベントはアラート グループにグループ化され、各アラート グループにはイベントの発生時に実行するよう CLI コマンドが割り当てられます。CLI コマンド出力は転送されるメッセージに含まれます。[表 5 : Call Home アラート グループ、イベント、および動作, \(95 ページ\)](#) は、各アラート グループに含まれる起動イベントを示します。これには、各イベントの重大度と実行されるアラート グループの CLI コマンドも含まれます。

表 5: *Call Home* アラートグループ、イベント、および動作

アラートグループ	Call Home 起動イベント	Syslog イベント	重大度	説明と実行される CLI コマンド
Crash	SYSTEM_CRASH	—	—	システムクラッシュに関連するイベント。 実行するコマンド： <b>show versionshow loggingshow regionshow stack</b>
—	TRACEBACK	—	—	ソフトウェアのトレースバック イベントを検出します。 実行するコマンド： <b>show versionshow loggingshow regionshow stack</b>
設定 (Configuration)	—	—	—	ユーザが作成した設定要求 (TAC に送信)。 実行される CLI コマンド <b>showplatform showinventory showrunning-configall showstartup-config showversion</b>
Environmental	—	—	—	電源、ファン、温度アラームのような環境感知要素に関連するイベント (TAC に送信)。 実行される CLI コマンド <b>showplatform showenvironment showinventory showlogging</b>

アラート グループ	Call Home 起動イベント	Syslog イベント	重大度	説明と実行される CLI コマンド
インベントリ	—	—	—	<p>Inventory ステータスは、ユニットがコールドブートされた場合や、FRUが挿入または取り外された場合に指定される。これは、重大ではないイベントと見なされ、情報はステータスと資格設定に使用される（TACに送信）。</p> <p>実行される CLI コマンド</p> <pre>show diag all eeprom detail   include MACshow license allshow platformshow platform hardware qfp active infrastructure chipset 0 capabilitiesshow platform software vnic-if interface-mappingshow version</pre>
Syslog	—	—	—	<p>syslog にログ記録されるイベント</p> <p>実行される CLI コマンド</p> <pre>show logging</pre>

## メッセージの内容

次の表に、アラート グループ メッセージの内容の形式を示します。

- **Short Text メッセージ テーブル**のフォーマットはショート テキスト メッセージのコンテンツのフィールドについて説明します。
- すべての**フル テキスト**および**XML Message テーブル**用の共通のフィールドはすべてのフル テキストおよび XML メッセージに共通するコンテンツのフィールドについて説明します。



特定のアラート グループ メッセージに固有のフィールドは、共通フィールドの間に挿入されます。挿入ポイントは表に示しています。

- 対処的または予防的イベントメッセージに挿入されるフィールドの表に、対処的メッセージ（TAC ケースを必要とするシステム障害）と予防的メッセージ（システム パフォーマンスの低下を引き起こす可能性のある問題）に挿入される内容フィールドを示します。
- インベントリのイベントメッセージテーブルに挿入されたフィールドはインベントリ メッセージの挿入されたコンテンツのフィールドについて説明します。

このセクションには、サンプル メッセージを記載した次のサブセクションも含まれています。

表 6: ショートテキストメッセージの形式

データ項目	説明
デバイス ID	設定されたデバイス名
日時スタンプ	起動イベントのタイム スタンプ
エラー判別メッセージ	起動イベントの簡単な説明（英語）
アラームの緊急度	システムメッセージに適用されるようなエラーレベル

表 7: ロングテキストメッセージと XML メッセージすべてに共通のフィールド

データ項目（プレーンテキストおよび XML）	説明（プレーンテキストおよび XML）	MML タグ（XML だけ）	
Time stamp	ISO 時刻通知でのイベントの日付/タイムスタンプ <i>YYYY-MM-DDHH:MM:SSGMT+HH:MM.</i>	CallHome/EventTime	
メッセージ名	メッセージの名前。特定のイベント名は「アラートグループの起動イベントとコマンド」セクションに記載されています。	ショートテキストメッセージの場合のみ	
メッセージタイプ	「Call Home」を指定。	CallHome/Event/Type	
Message subtype	特定のメッセージタイプ：full、delta、test	CallHome/Event/SubType	
メッセージグループ	「reactive」を指定。デフォルトは「reactive」であるため、任意。	なし。Long-text メッセージ専用	

データ項目（プレーンテキストおよびXML）	説明（プレーンテキストおよびXML）	MML タグ（XML だけ）
重大度	メッセージの重大度。	Body/Block/Severity
送信元 ID	ワークフローエンジンから経路指定する製品タイプ。一般に製品ファミリ名です。	Long-text メッセージ専用
デバイス ID	<p>メッセージを生成するエンドデバイスの Unique Device Identifier (UDI) 。メッセージがファブリックスイッチに固有でない場合、このフィールドは空白。形式は <i>type@Sid@serial</i> です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>type</i> は、バックプレーン IDPROM からの製品の型番。</li> <li>• <i>@</i> は区切り文字です。</li> <li>• <i>Sid</i> は C で、シリアル ID をシャーンシリアル番号として特定します。</li> <li>• <i>serial</i> は、Sid フィールドによって識別される番号です。</li> </ul> <p>例 : ASR1006@C@FOX105101DH</p>	CallHome/CustomerData/ ContractData/DeviceId
Customer ID	サポートサービスによって契約情報やその他の ID に使用されるオプションのユーザ設定可能なフィールド。	CallHome/CustomerData/ ContractData/CustomerId
契約 ID	サポートサービスによって契約情報やその他の ID に使用されるオプションのユーザ設定可能なフィールド。	CallHome/CustomerData/ ContractData/ContractId
サイト ID	Cisco Systems が提供するサイト ID または代替サポートサービスにとって意味があるその他のデータに使用されるオプションのユーザ設定可能フィールド	CallHome/CustomerData/ ContractData/SiteId

データ項目（プレーン テキストおよび XML）	説明（プレーン テキストおよび XML）	MML タグ（XML だけ）
Server ID	<p>メッセージがファブリック スイッチから生成されている場合、これはスイッチの固有のデバイス ID（UDI）。</p> <p>形式は <code>type@Sid@serial</code> です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>type</code> は、バックプレーン IDPROM からの製品の型番。</li> <li>• <code>@</code> は区切り文字です。</li> <li>• <code>Sid</code> は C で、シリアル ID をシャーマシシリアル番号として特定します。</li> <li>• <code>serial</code> は、Sid フィールドによって識別される番号です。</li> </ul> <p>例：ASR1006@C@FOX105101DH</p>	ロングテキストメッセージの場合のみ
メッセージの説明	エラーを説明する短い文章。	CallHome/MessageDescription
デバイス名	イベントが発生するノード。これは、デバイスのホスト名です。	CallHome/CustomerData/SystemInfo/NameName
担当者名	イベント発生中のノードに関する問題の問い合わせ先の担当者名。	CallHome/CustomerData/SystemInfo/Contact
連絡先 E メール	このユニットの連絡先である人物の電子メールアドレス。	CallHome/CustomerData/SystemInfo/ContactEmail
Contact phone number	このユニットの連絡先である人物の電話番号。	CallHome/CustomerData/SystemInfo/ContactPhoneNumber
住所	このユニットに関連した RMA 部品の送付先住所を格納しているオプションのフィールド。	CallHome/CustomerData/SystemInfo/StreetAddress
モデル名	ルータのモデル名。これは製品ファミリ名の一部である固有モデルです。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/Model
Serial number	ユニットのシャーシのシリアル番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/SerialNumber
シャーシの部品番号	シャーシの最上アセンブリ番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/AdditionalInformation/AD@name="PartNumber"

データ項目（プレーンテキストおよびXML）	説明（プレーンテキストおよびXML）	MML タグ（XML だけ）
System object ID	システムを一意に識別するシステムオブジェクト ID。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/AdditionalInformation/AD@name="sysObjectID"
システム記述	管理対象デバイスのシステム説明。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/AdditionalInformation/AD@name="sysDescr"
特定のアラート グループ メッセージの固有のフィールドは、ここに挿入されます。	このアラート グループに対して複数の CLI コマンドが実行されると、次のフィールドが繰り返される場合があります。	
	コマンド出力名	発行される CLI コマンドの正確な名前。 /aml/Attachments/AttachmentName
	添付タイプ	アタッチメントのタイプ。通常は "inline"。 /aml/Attachments/AttachmentType
	MIME タイプ	通常は、"text"、"plain"、または符号化タイプのいずれか。 /aml/Attachments/Attachment/Data@encoding
	コマンド出力テキスト	自動的に実行されるコマンドの出力。 /aml/Attachments/Attachment/Data

表 8: 対処的または予防的イベント メッセージに挿入されるフィールド

データ項目（プレーンテキストおよびXML）	説明（プレーンテキストおよびXML）	MML タグ（XML だけ）
シャーシのハードウェア バージョン	シャーシのハードウェアバージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/HardwareVersion
スーパーバイザモジュールソフトウェア バージョン	最上レベルのソフトウェア バージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/AdditionalInformation/AD@name="SoftwareVersion"
影響のある FRU の名前	イベントメッセージを生成する、影響のある FRU の名前。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/Cisco_Card/Model

データ項目（プレーンテキストおよびXML）	説明（プレーンテキストおよびXML）	MML タグ（XML だけ）
影響のある FRU のシリアル番号	影響のある FRU のシリアル番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/SerialNumber
影響のある FRU の製品番号	影響のある FRU の製品番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/PartNumber
FRU スロット	イベントメッセージを生成している FRU のスロット番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/LocationWithinContainer
FRU ハードウェア バージョン	影響のある FRU のハードウェア バージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/HardwareVersion
FRU ソフトウェア バージョン	影響のある FRU 上で動作しているソフトウェア バージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/SoftwareIdentity/ VersionString

表 9: コンポーネント イベントメッセージの挿入フィールド

データ項目（プレーンテキストおよびXML）	説明（プレーンテキストおよびXML）	MML タグ（XML だけ）
シャーシのハードウェア バージョン	シャーシのハードウェア バージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ HardwareVersion
スーパーバイザモジュールソフトウェア バージョン	最上レベルのソフトウェア バージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ AdditionalInformation/AD@name= "SoftwareVersion"
FRU name	イベントメッセージを生成する、影響のある FRU の名前。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/Model
FRU s/n	FRU のシリアル番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/SerialNumber
FRU 製品番号	FRU の製品番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/PartNumber
FRU スロット	FRU のスロット番号。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/LocationWithinContainer
FRU ハードウェア バージョン	FRU のハードウェア バージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ CiscoCard/HardwareVersion

データ項目（プレーンテキストおよびXML）	説明（プレーンテキストおよびXML）	MML タグ（XML だけ）
FRU ソフトウェア バージョン	FRU 上で動作しているソフトウェア バージョン。	CallHome/Device/Cisco_Chassis/ Cisco_Card/SoftwareIdentity/ VersionString

## XML 形式での syslog アラート通知の例

次に、XML 形式での syslog アラート通知の例を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<soap-env:Envelope xmlns:soap-env="http://www.w3.org/2003/05/soap-envelope">
  <soap-env:Header>
    <aml-session:Session xmlns:aml-session="http://www.cisco.com/2004/01/aml-session"
      soap-env:mustUnderstand="true"
      soap-env:role="http://www.w3.org/2003/05/soap-envelope/role/next">
      <aml-session:To>http://tools.cisco.com/neddce/services/DDCEService</aml-session:To>
      <aml-session:Path>
        <aml-session:Via>http://www.cisco.com/appliance/uri</aml-session:Via>
      </aml-session:Path>
      <aml-session:From>http://www.cisco.com/appliance/uri</aml-session:From>
      <aml-session:MessageId>M8:9S1NMSF22DW:51AEAC68</aml-session:MessageId>
    </aml-session:Session>
  </soap-env:Header>
  <soap-env:Body>
    <aml-block:Block xmlns:aml-block="http://www.cisco.com/2004/01/aml-block">
      <aml-block:Header>
        <aml-block:Type>http://www.cisco.com/2005/05/callhome/syslog</aml-block:Type>
        <aml-block:CreationDate>2013-06-05 03:11:36 GMT+00:00</aml-block:CreationDate>
        <aml-block:Builder>
          <aml-block:Name>CSR1000v</aml-block:Name>
          <aml-block:Version>2.0</aml-block:Version>
        </aml-block:Builder>
        <aml-block:BlockGroup>
          <aml-block:GroupId>G9:9S1NMSF22DW:51AEAC68</aml-block:GroupId>
          <aml-block:Number>0</aml-block:Number>
          <aml-block:IsLast>true</aml-block:IsLast>
          <aml-block:IsPrimary>true</aml-block:IsPrimary>
          <aml-block:WaitForPrimary>false</aml-block:WaitForPrimary>
        </aml-block:BlockGroup>
        <aml-block:Severity>2</aml-block:Severity>
      </aml-block:Header>
      <aml-block:Content>
        <ch:CallHome xmlns:ch="http://www.cisco.com/2005/05/callhome" version="1.0">
          <ch:EventTime>2013-06-05 03:11:36 GMT+00:00</ch:EventTime> <ch:MessageDescription>*Jun 5
            03:11:36.041: %CLEAR-5-COUNTERS: Clear counter on all interfaces by
            console</ch:MessageDescription> <ch:Event> <ch:Type>syslog</ch:Type>
            <ch:SubType></ch:SubType> <ch:Brand>Cisco Systems</ch:Brand> <ch:Series>CSR1000v Cloud
            Services Router</ch:Series> </ch:Event> <ch:CustomerData> <ch:UserData>
            <ch:Email>weijuhua@cisco.com</ch:Email>
            </ch:UserData>
            <ch:ContractData>
              <ch:CustomerId></ch:CustomerId>
              <ch:SiteId></ch:SiteId>
              <ch:ContractId></ch:ContractId>
              <ch:DeviceId>CSR1000V@C@9S1NMSF22DW</ch:DeviceId>
            </ch:ContractData>
            <ch:SystemInfo>
              <ch:Name>qiang-vm</ch:Name>
              <ch:Contact></ch:Contact>
              <ch:ContactEmail>weijuhua@cisco.com</ch:ContactEmail>
              <ch:ContactPhoneNumber></ch:ContactPhoneNumber>
              <ch:StreetAddress></ch:StreetAddress>
            </ch:SystemInfo>
          </ch:CallHome>
        </aml-block:Content>
      </aml-block:Block>
    </soap-env:Body>
  </soap-env:Envelope>
```

```

<ch:CCOID></ch:CCOID>
<ch:IdToken></ch:IdToken>
</ch:CustomerData>
<ch:Device>
<rme:Chassis xmlns:rme="http://www.cisco.com/rme/4.0">
<rme:Model>CSR1000V</rme:Model>
<rme:HardwareVersion></rme:HardwareVersion>
<rme:SerialNumber>9S1NMSF22DW</rme:SerialNumber>
<rme:AdditionalInformation>
<rme:AD name="PartNumber" value="" />
<rme:AD name="SoftwareVersion" value="15.4(20130604:093915)" /> <rme:AD
name="SystemObjectId" value="1.3.6.1.4.1.9.1.1537" /> <rme:AD name="SystemDescription"
value="Cisco IOS Software, CSR1000V Software (X86_64_LINUX_IOSD-ADVENTERPRISEK9-M),
Experimental Version 15.4(20130604:093915) [mcp_dev-qiazhou-ultra_ut 100] Copyright (c)
1986-2013 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Tue 04-Jun-13 02:39 by jsmith" /> <rme:AD name="ServiceNumber" value="" />
<rme:AD name="ForwardAddress" value="" /> </rme:AdditionalInformation> </rme:Chassis>
</ch:Device> </ch:CallHome> </aml-block:Content> <aml-block:Attachments>
<aml-block:Attachment type="inline"> <aml-block:Name>show logging</aml-block:Name>
<aml-block:Data encoding="plain"> show logging Syslog logging: enabled (0
messages dropped, 1 messages rate-limited, 0 flushes, 0 overruns, xml disabled, filtering
disabled)
No Active Message Discriminator.
No Inactive Message Discriminator.
Console logging: level debugging, 391 messages logged, xml disabled,
filtering disabled
Monitor logging: level debugging, 0 messages logged, xml disabled,
filtering disabled
Buffer logging: level debugging, 391 messages logged, xml disabled,
filtering disabled
Exception Logging: size (4096 bytes)
Count and timestamp logging messages: disabled
Persistent logging: disabled
No active filter modules.
Trap logging: level informational, 56 message lines logged
Logging Source-Interface: VRF Name:
Log Buffer (4096 bytes):
*Jun 5 03:11:18.295: %SYS-5-CONFIG I: Configured from console by console
qiang-vm#</aml-block:Data> </aml-block:Attachment> </aml-block:Attachments>
</aml-block:Block> </soap-env:Body> </soap-env:Envelope>

```

## その他の参考資料

この章では、Call Home 機能に関連する参考資料を説明します。

### 関連資料

関連項目	タイトル
Cisco IOS XE コマンド	<a href="#">『Cisco IOS Master Commands List, All Releases』</a>
Smart Call Home サービスが選択したシスコ デバイスに Web アクセスする方法、また予防的診断を行い、リアルタイムアラートを提供することでネットワーク可用性を向上して業務の効率化を図る方法を説明します。	<a href="#">『Smart Call Home User Guide』</a>

関連項目	タイトル
すべての関連製品の情報にアクセスするための Cisco.com の Smart Call Home のサイト ページ。	『Cisco Smart Call Home site』
Cisco IOS XE ソフトウェアの公開キー インフラストラクチャ (PKI) と認証局の設定	『Cisco IOS XE Security Configuration Guide: Secure Connectivity』

## 標準

規格	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	—

## MIB

MIB	MIB のリンク
CISCO-CALLHOME-MIB	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS XE ソフトウェア リリース、およびフィーチャ セットの MIB の場所を検索しダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## RFC

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	—



## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## Call Home に関する機能情報

プラットフォームのサポートおよびソフトウェア イメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator を使用すると、特定のソフトウェア リリース、フィーチャ セット、またはプラットフォームをサポートする Cisco IOS XE のソフトウェア イメージを判別できます。Cisco Feature Navigator には、<http://www.cisco.com/go/cfn> からアクセスします。Cisco.com のアカウントは必要ありません。



(注)

下の機能情報の表には、特定の Cisco IOS XE ソフトウェア リリース群で特定の機能をサポートする Cisco IOS XE ソフトウェア リリースだけが示されています。特に明記されていない限り、Cisco IOS XE ソフトウェア リリース群の後続のリリースでもこの機能をサポートします。

表 10 : *Call Home* に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
Call Home	Cisco IOS XE Release 3.13S	<p>Call Home 機能は、クリティカルなシステム イベントを E メールおよび Web 上で通知します。ポケットベルサービス、通常の電子メール、または XML ベースの自動解析アプリケーションとの適切な互換性のために、さまざまなメッセージの形式が使用できます。</p> <p>次のコマンドが導入または変更されました。</p> <p>[show diagnostic] コマンド</p>



## 第 6 章

# Cisco License Call Home の設定

Cisco License Call Home 機能は、シスコのライセンス インフラストラクチャと通信する強力なコマンドセットを提供することで、接続とデータ転送を行い、ソフトウェア ライセンスをインストールして維持するのに役立つインタラクティブ プロンプトを提供します。このモジュールでは、Cisco License Call Home 機能、ライセンス キー、および Cisco EXEC コマンドを使用してソフトウェアをアクティブ化するための作業とコマンドについて説明します。シスコ デバイスからソフトウェアをアクティブにすると、その他のアプリケーションソフトウェアを使用せずに、ソフトウェアを認可できます。

- [機能情報の確認, 107 ページ](#)
- [Cisco License Call Home の前提条件, 108 ページ](#)
- [Cisco License Call Home の制約事項, 108 ページ](#)
- [Cisco License Call Home の情報, 108 ページ](#)
- [Cisco License Call Home の設定方法, 110 ページ](#)
- [Cisco License Call Home の設定例, 113 ページ](#)
- [その他の参考資料, 115 ページ](#)
- [Cisco License Call Home の機能情報, 115 ページ](#)

## 機能情報の確認

ご使用のソフトウェア リリースでは、このモジュールで説明されるすべての機能がサポートされているとは限りません。最新の機能情報および警告については、[Bug Search Tool](#) およびご使用のプラットフォームおよびソフトウェア リリースのリリース ノートを参照してください。このモジュールで説明される機能に関する情報、および各機能がサポートされるリリースの一覧については、機能情報の表を参照してください。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

## Cisco License Call Home の前提条件

- 開始する前に、シスコのライセンスインフラストラクチャからデバイス証明書を取得する必要があります。
- CCO ユーザのログイン アカウントが必要です。

## Cisco License Call Home の制約事項

- デバイスはインターネットに接続でき、HTTPS を使用して Cisco のライセンスインフラストラクチャに接続できる必要があります。セキュア HTTP 接続をセットアップするには、『*Cisco IOS Network Management Configuration Guide*』にある「HTTP 1.1 Web Server and Client」の章を参照してください。
- Cisco License Call Home 機能をサポートするのは、特定のプラットフォームのみです。これらのデバイスは、Cisco IOS crypto K9 イメージを実行している必要があります。プラットフォーム サポートについては、「Cisco License Call Home の機能情報」の項を参照してください。

## Cisco License Call Home の情報

### Cisco License Call Home インターフェイス

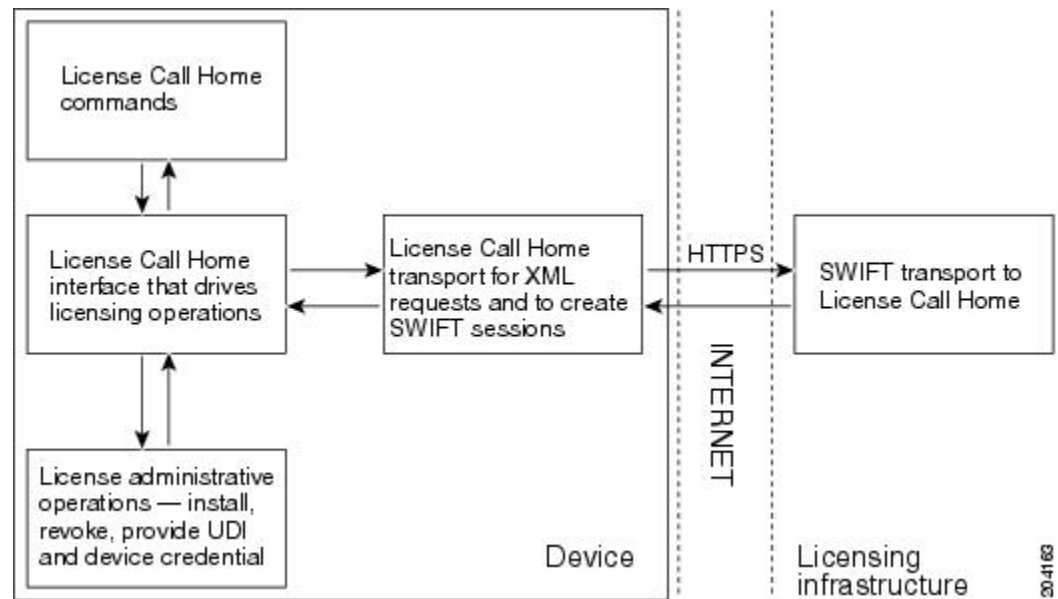
Cisco License Call Home 機能を使用して、シスコ デバイスはライセンスの生成、取得、およびサポートを行うシスコのライセンス インフラストラクチャと通信できるようになります。Cisco License Call Home 機能は、保護されたインターネット接続を使用してライセンス情報を取得します。この機能では強力なコマンドセットを使用することで、接続の確立、データ転送、およびソフトウェアライセンスをインストールして維持するのに役立つインタラクティブプロンプトの提供を行います。Product Authorization Key (PAK) を購入すると、Cisco License Call Home コマンドを使用して簡単に次の作業を行うことができます。

- ライセンスをインストールまたはアップグレードする。
- ライセンスを転送する。
- ライセンスの再送信を要求する。

下の図は、Cisco License Call Home 機能がどのようにシスコ ライセンス バックエンドシステムにインターフェイスするかを示しています。下の図に示されているアーキテクチャにより、License

Call Home EXEC コマンドを使用してシスコ ライセンス インフラストラクチャと通信し、ライセンス管理操作を行います。

図 7: Cisco License Call Home インターフェイス



Cisco License Call Home 機能は、クライアント/サーバモデルのように機能し、各トランザクションはシスコのライセンスインフラストラクチャへの個別の接続として実行されます。Cisco License Call Home 機能は、プロンプトを表示して必要な情報を取得してから、シスコのライセンス バックエンドに接続してシスコのライセンス インフラストラクチャと対話します。Cisco License Call Home EXEC コマンドは要求を開始し、シスコのライセンス インフラストラクチャは応答を提供します。Cisco License Call Home アーキテクチャ内に作成されたプロセスによって、インターネットを介してシスコのライセンス インフラストラクチャに接続し、セッションを作成するために必要な URL を提供する情報の転送が管理されます。

# Cisco License Call Home の設定方法

## Cisco License Call Home を使用したライセンスのインストールまたはソフトウェアのアップグレード

### 手順の概要

1. PAK を入手します。
2. **enable**
3. **show license call-home pakpak-id**
4. **license call-home install pakpak-id**
5. **show license feature**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	PAK を入手します。	PAK は、特定のプラットフォーム用のフィーチャセットの使用権を注文および購入するときに付与されます。PAK は受領書の代わりになるもので、ライセンスの取得プロセスの一部として使用されます。
ステップ 2	<b>enable</b>  例： Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 3	<b>show license call-home pakpak-id</b>  例： Device# show license call-home pak 3XPXR9E7D30	提供された PAK で利用可能な Stock Keeping Unit (SKU) リストと機能を表示します。
ステップ 4	<b>license call-home install pakpak-id</b>  例： Device# license call-home install pak 3XPXR9E7D30	Cisco License Call Home 機能を使用してライセンスをインストールします。  • コマンド出力のプロンプトに応答します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<b>show license feature</b>  例 :  Device# show license feature	ライセンス付き機能のリストを表示します。

## Cisco License Call Home を使用したライセンスの再ホスト

### 手順の概要

1. **enable**
2. **license call-home revoke udi***target-udi output-of-rehosted-license-url*
3. **show license detail**
4. **license install***stored-location-url*

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>  例 :  Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>license call-home revoke udi</b> <i>target-udi output-of-rehosted-license-url</i>  例 :  Device# license call-home revoke udi AS54XM-AC-RPS:JAE0948QT6R flash:licensetargetudi.xml	ソースおよびターゲット UDI を使用してライセンスを取り消し、転送します。ターゲットの固有デバイス識別子（UDI）を使用してシスコのライセンスインフラストラクチャに再ホストチケットを送信し、それをライセンス ファイルに変換して、指定した URL に保存します。  • プロンプトが出されたら、再ホスト用の複数の SKU から選択して、必要に応じて情報を入力します。
ステップ 3	<b>show license detail</b>  例 :  Device# show license detail	ライセンスが転送されたことを確認します。
ステップ 4	<b>license install</b> <i>stored-location-url</i>	（任意）取り消したライセンスをインストールします。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>ライセンスの設定とアップグレードの詳細については、『Configuring the Cisco IOS Software Activation Feature』モジュールを参照してください。</li> </ul>

## Cisco License Call Home を使用した再送信されたライセンスの要求

### 手順の概要

1. **enable**
2. **license call-home resenddest-lic-location**
3. **license installstored-location-url**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>  例 : Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li> </ul>
ステップ 2	<b>license call-home resenddest-lic-location</b>  例 : Device# license call-home resend flash:licenseresend.lic	このデバイスが所有するすべてのライセンスを取得し、指定した場所にそれらを保存します。
ステップ 3	<b>license installstored-location-url</b>	（任意）取り消したライセンスをインストールします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>ライセンスの設定とアップグレードの詳細については、『Configuring the Cisco IOS Software Activation Feature』モジュールを参照してください。</li> </ul>



## Cisco License Call Home の設定例

### 例：Cisco License Call Home を使用したライセンスのインストールまたはソフトウェアのアップグレード

次に、Cisco License Call Home 機能を使用して、**license license call-home install pak** コマンドでライセンスをインストールする方法を示します。このコマンドによって、必須情報の入力を求めるプロンプトも表示されます。**show license feature** コマンドは、インストールの確認に使用されます。

```
Device# license call-home install pak 3XPXR9E7D30
CCO User name: User1
CCO password : *****
Pak Number      : 3XPXR9E7D30
Pak Fulfillment type: SINGLE
  1. SKU Name      : Gatekeeper
     SKU Type      : Product
     Description    : Gatekeeper
     Ordered Qty    : 1
     Available Qty  : 1
     Feature List   :
       Feature name: gatekeeper Count: Uncounted
     Platform Supported : N/A
                          5400
                          5350
                          2800
                          3800
Do you want to install the above listed SKU(s)? [yes/no]: yes
Please enter the user's detail:
First Name : First-name
Last Name  : Last-name
Title     : Software Engineer
Company Name : Cisco Systems
Address1   : 510 McCarthy Blvd.
Address2   [Optional]:
City       : Milpitas
State      : CA
Province   [Optional]:
Zipcode    : 95134
Country    : USA
Phone      : 408 526-4000
Fax        [Optional]:
Email      : User1@cisco.com
Installing...Feature:gatekeeper...Successful
Device# show license feature
Feature name      Enforcement  Evaluation  Subscription  Enabled
gsmamrnb-codec-pack  yes          yes         no            no
Device#
```

### 例：Cisco License Call Home を使用したライセンスの再ホスト

次に、ソースおよびターゲットの UDI を使用して **license call-home revoke udi** コマンドでライセンスの取り消しおよび転送を行う方法を示します。このコマンドによって、必須情報の入力

めるプロンプトも表示されます。**show license detail** コマンドは、ライセンスが転送されたことを確認するために使用されます。

```
Device# license call-home revoke udi AS54XM-AC-RPS:JAE0948QT6R flash:licensetargetudi.xml
CCO User name: User1
CCO password : *****
Retrieving the sku from swift .....
  1. SKU Name      : Gatekeeper
     SKU Type      : Product
     Description    :
     Ordered Qty    : 1
     Available Qty  : 1
     Feature List   :
         Feature name:      gatekeeper Count: Uncounted
     Platform Supported : N/A
                           5400
                           5350
                           2800
                           3800
  3. SKU Name      : Gatekeeper
     SKU Type      : Product
     Description    :
     Ordered Qty    : 1
     Available Qty  : 1
     Feature List   :
         Feature name:      gatekeeper Count: Uncounted
     Platform Supported : N/A
                           5400
                           5350
                           2800
                           3800
  4. SKU Name      : GSMAMRNB
     SKU Type      : Product
     Description    : Transfer this feature set
     Ordered Qty    : 1
     Available Qty  : 1
     Feature List   :
         Feature name: gsmamrnb-codec-pac Count: Uncounted
     Platform Supported : 5400
                           5350
  5. All of the above
Please select the sku number you want to revoke : 4
Retrieving the permission ticket from swift .....
Installing permission ticket and retrieving rehost ticket.....Done

Device# show license detail
Index: 1 Feature: gsmamrnb-codec-pack Version: 1.0
License Type: Evaluation
License State: Active, Not in Use, EULA accepted
  Evaluation total period: 8 weeks 4 days
  Evaluation period left: 8 weeks 4 days
Lock type: Non Node locked
Vendor info
License Addition: Additive
License Generation version 135266304
License Priority: Low
Store Index: 0
Store Name: Evaluation License Storage
```

## 例 : Cisco License Call Home を使用した再送信されたライセンスの要求

次に、**license call-home resend** コマンドを使用して、このデバイスが所有するすべてのライセンスを取得し、指定した場所にそれらを保存する方法を示します。

```
Device# license call-home resend flash:licensereresend.lic
```

```
CCO User name: User1
CCO password : *****
Email Address: User1@cisco.com
Getting Licenses from SWIFT .....
Saving it to flash:licensesend.lic.....Done
```

## その他の参考資料

### 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco License Manager アプリケーション	『 <i>User Guide for Cisco License Manager</i> 』
ソフトウェアのアクティベーションの概念に関する概要	『Cisco IOS Software Activation Conceptual Overview』 モジュール
ソフトウェア アクティベーション コマンド	『 <i>Software Activation Command Reference</i> 』
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Master Commands List, All Releases</a> 』
Integrated Services Routers ライセンス	『 <i>Software Activation on Cisco Integrated Services Routers</i> 』

### シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
右の URL にアクセスして、シスコのテクニカルサポートを最大限に活用してください。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	<a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a>

## Cisco License Call Home の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 11 : Cisco License Call Home の機能情報

機能名	リリース	機能情報
Cisco License Call Home	12.4(15)XZ 12.4(20)T 15.1(1)SG Cisco IOS XE Release 3.3SG	<p>Cisco License Call Home 機能は、シスコのライセンス インフラストラクチャと通信する強力なコマンドセットを提供することで、接続とデータ転送を行い、ソフトウェア ライセンスをインストールして維持するのに役立つインタラクティブ プロンプトを提供します。</p> <p>12.4(15)XZ では、この機能は、Cisco AS5300、AS5350、AS5400、AS5400HPX、AS5350XM および AS5400XM、2800、2851、2821、2811、3800、3825、および 3845 プラットフォームで導入されました。</p> <p>この機能で次のコマンドが導入あるいは変更されました。  <b>license call-home install</b>、<b>license call-home resend</b>、<b>license call-home revoke</b>、<b>license call-home url</b>、<b>show license call-home</b> の各コマンドが導入されました。</p>



## 第 7 章

# Cisco Smart Licensing クライアント

Smart Licensing クライアントの機能は、Cisco ソフトウェアを簡素化し、Cisco ソフトウェアがネットワーク全体でどのように使用されるかを理解するのに役立つ標準化されたライセンスプラットフォームです。Smart Licensing は、すべての Cisco ソフトウェア ライセンスの次世代プラットフォームです。

このドキュメントでは、Cisco Smart Licensing クライアント機能の概要について説明し、製品の登録と承認を完了するために必要な複数のツールとプロセスについて説明します。

- [機能情報の確認, 117 ページ](#)
- [Cisco Smart Licensing クライアントの前提条件, 118 ページ](#)
- [Cisco Smart Licensing クライアントの制約事項, 118 ページ](#)
- [Cisco Smart Licensing クライアントの情報, 118 ページ](#)
- [Cisco Smart Licensing クライアントをアクティベートする方法, 119 ページ](#)
- [Cisco Smart Licensing クライアントのトラブルシューティング, 123 ページ](#)
- [Cisco Smart Licensing クライアントの設定例, 123 ページ](#)
- [Cisco Smart Licensing クライアントの追加情報, 124 ページ](#)
- [Cisco Smart Licensing クライアントに関する機能情報, 125 ページ](#)

## 機能情報の確認

ご使用のソフトウェア リリースでは、このモジュールで説明されるすべての機能がサポートされているとは限りません。最新の機能情報および警告については、[Bug Search Tool](#) およびご使用のプラットフォームおよびソフトウェア リリースのリリース ノートを参照してください。このモジュールで説明される機能に関する情報、および各機能がサポートされるリリースの一覧については、機能情報の表を参照してください。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

## Cisco Smart Licensing クライアントの前提条件

- Call Home は Smart Licensing クライアント機能を使用する前に有効になっていることを確認します。

## Cisco Smart Licensing クライアントの制約事項

- 使用ライセンス (RTU) または Smart Licensing モードのいずれかのライセンスモードだけがサポートされています。

## Cisco Smart Licensing クライアントの情報

### Cisco Smart Licensing : 概要

シスコでは、Smart Licensing と呼ばれる、単一のテクノロジーに基づく新しいライセンス モデルが設計されています。これは、すべてのシスコ製品に企業レベルの契約と同等の機能を提供することを目的としています。

スマート ライセンスは、ソフトウェア ベースのライセンスのエンドツーエンドプラットフォームで、シスコ製品の使用とレポートに関してお客様を承認するツールとプロセスから構成されています。この機能では、顧客注文をキャプチャし、求められる性能と技術レベルに合わせて製品の登録と承認を完了するために Smart Call Home 伝送メディアを通じて Cisco Cloud License Service と通信します。

Smart Licensing の目的は、すべてのシスコ製品に対する単一の標準化されたライセンシングソリューションをユーザに提供することです。

Smart Call Home の詳細を確認するには、[Smart Call Home](#) を参照してください。

### CISL から Smart Licensing への移行

Cisco Smart Licensing モデルでは、特別なソフトウェア キーまたはアップグレードライセンス ファイルを使用せずに、ライセンス付き機能をアクティベートできます。新しい機能をアクティベートするには、適切な製品コマンドおよび設定を使用します。機能がアクティベートされます。ソフトウェアのリブートは、製品の機能と要件によって変わるので必要だとは限りません。

同様に、高度な機能、パフォーマンス、および機能の削減、または削除するには、設定やコマンドを削除する必要があります。

次のアクションのいずれかがとられたら、ライセンスの状態の変更は次回同期時に Smart Software Manager で示され、適切なアクションが実行されます。

## Cisco One スイート

Cisco ONE スイートは、お客様がインフラストラクチャ ソフトウェアを購入するための新しい方法です。Cisco ONE はデータセンター、ワイドエリア ネットワーク、およびローカルアクセス ネットワークに共通のお客様のシナリオに集中化された、簡素な購買モデルを提供します。Cisco ONE スイートについての詳細は、[『Cisco ONE Suite』](#)を参照してください。

# Cisco Smart Licensing クライアントをアクティベートする方法

## スマート ライセンスのイネーブル化

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **license smart enable**
4. **exit**
5. **write memory**
6. **show license all**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>  例 :  Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  例 :  Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<b>license smart enable</b>  例 : <pre>Device# license smart enable</pre>	デバイス上の Smart Licensing を有効にします。  (注) スマート ライセンスを有効にすると、シスコ ソフトウェア ライセンス (CSL) およびすべてのライセンス コールは、スマート エージェントを通過します。 [no]でスマートライセンスがすでに登録されている場合、スマート エージェントは「license smart deregister」の操作を実行して Smart Licensing を無効化します。デバイスの CSL をアクティブにするには、デバイスをリロードします。
ステップ 4	<b>exit</b>  例 : <pre>Device# exit</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	<b>write memory</b>  例 : <pre>Device# write memory</pre>	NVRAM に実行コンフィギュレーションを保存します。
ステップ 6	<b>show license all</b>  例 : <pre>Device# show license all</pre>	(任意) すべてのライセンスに関するサマリー情報を表示します。

## スマートライセンスの無効化

### 手順の概要

1. enable
2. configure terminal
3. no license smart enable
4. exit
5. write memory
6. reload
7. show license all



## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>  例 : Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>configure terminal</b>  例 : Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>no license smart enable</b>  例 : Device(config)# no license smart enable	デバイス上の Smart Licensing を無効化します。  (注) スマート ライセンスを有効にすると、シスコ ソフトウェア ライセンス (CSL) およびすべてのライセンス コールは、スマート エージェントを通過します。[no] でスマート ライセンスがすでに登録されている場合、スマート エージェントは「license smart deregister」の操作を実行して Smart Licensing を無効化します。デバイスの CSL をアクティブにするには、デバイスをリロードします。
ステップ 4	<b>exit</b>  例 : Device(config)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	<b>write memory</b>  例 : Device# write memory	NVRAM に実行コンフィギュレーションを保存します。
ステップ 6	<b>reload</b>  例 : Device# reload	(任意) デバイスを再起動して、新しいフィーチャ セットをイネーブルにします。  (注) Cisco ONE スイートを設定した後でデバイスをリロードしていない場合はデバイスをリロードします。
ステップ 7	<b>show license all</b>  例 : Device# show license all	(任意) すべてのライセンスに関するサマリー情報を表示します。

## デバイス登録

### 手順の概要

1. **enable**
2. **license smart register idtoken *idtoken* [force]**
3. **license smart deregister**
4. **license smart renew [ID | auth]**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b>  例 : Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。  • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<b>license smart register idtoken <i>idtoken</i> [force]</b>  例 : Device# license smart register idtoken 123	バックエンドのサーバとデバイスと登録します。トークン ID は Smart Licensing サーバの仮想 a/c から取得できます。  • <b>force</b> : デバイスが登録されているかどうかに関わらずデバイスを強制的に登録します。  (注) デバイスは Cisco サーバにトークン ID を提供し、365 日間有効な「デバイス証明書」が返送されます。
ステップ 3	<b>license smart deregister</b>  例 : Device# license smart deregister	バックエンドのサーバからデバイスを登録解除します。
ステップ 4	<b>license smart renew [ID   auth]</b>  例 : Device# license smart renew ID	(任意) 手動で ID 認定または承認を更新します。

# Cisco Smart Licensing クライアントのトラブルシューティング

Smart Licensing の有効化の問題をトラブルシューティングするにはデバイスで次のコマンドを使用します。

- **show version**
- **show running-config**
- **show license tech support**
- **show license entitlement**
- **show license feature**
- **show license certificate**
- **debug smart\_lic error**
- **debug smart\_lic trace**

## Cisco Smart Licensing クライアントの設定例

### 例：すべてのライセンスに関するサマリー情報の表示

次に **show license all** のコマンドを使用して、すべてのライセンスについての要約情報を表示する例を示します。

```
Device# show license all
Cisco Smart Licensing Agent, Version 1.0.0_development

Smart Licensing Enabled: Yes

UDI:
PID:CISCO2911/K9,SN:FTX1643AJFR

Compliance Status: In Compliance

Assigned License Pool: ISR_G2_Cisco_One

Grace period: Not in use

Entitlement:
  Tag: regid.2014-06.com.cisco.ISR_2900_FS_ENT,1.0_71846b6b-db2a-46f3-9c8e-ce0fc68882fc,
  Version: 1.0, Enforce Mode: Authorized
  Requested Time: Wed Oct 29 23:34:58.011, Requested Count: 1
  Vendor String:

Smart Licensing State: authorized (4)

Licensing Certificates:
  ID Cert Info:
    Start Date: Oct 29 23:42:33 2014 UTC. Expiry Date: Oct 29 23:42:33 2015 UTC
    Serial Number: 97879
    Version: 3
    Subject/SN: 241e4492-9582-4f0a-9b01-221fdecc2a1b
```

## 例 : Smart Licensing の有効化

```

Common Name: 1A4BF5460E0939AED4D14B2E3C7CD809A98CFCC9::1,2
Signing Cert Info:
  Start Date: Jun 14 20:18:52 2013 UTC. Expiry Date: Apr 24 21:55:42 2033 UTC
  Serial Number: 3
  Version: 3

Upcoming Scheduled Jobs:
  Certificate Renewal: Apr 27 23:45:24 2015 UTC (179 days, 23 hours, 59 minutes, 47 seconds remaining)
  Certificate Expiration: Oct 29 23:42:39 2015 UTC (364 days, 23 hours, 57 minutes, 2 seconds remaining)
  Authorization Renewal: Nov 28 23:45:35 2014 UTC (29 days, 23 hours, 59 minutes, 58 seconds remaining)
  Authorization Expiration: Jan 27 23:42:54 2015 UTC (89 days, 23 hours, 57 minutes, 17 seconds remaining)
  Daily Job: Oct 30 23:28:04 2014 UTC (23 hours, 42 minutes, 27 seconds remaining)

```

## 例 : Smart Licensing の有効化

次に、Cisco ONE スイートが有効になっているかどうかを確認するために **license smart enable** コマンドを使用する方法の例を示します。

```

Device# license smart enable
Currently only Cisco ONE license suites are supported by Smart Licensing.
Please make sure your Cisco ONE suites are enabled before turning on Smart Licensing. Any
other licenses outside of Cisco ONE suites would be disabled and made unusable in Smart
Licensing. If you have any questions, please get in touch with your Cisco representative
before using this mode.
Please confirm Cisco ONE suites are enabled? [yes/no]: yes

```

## Cisco Smart Licensing クライアントの追加情報

## 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS コマンド	『 <a href="#">Cisco IOS Master Commands List, All Releases</a> 』
Cisco License Manager アプリケーション	『 <i>User Guide for Cisco License Manager</i> 』
ソフトウェアのアクティベーションの概念に関する概要	『Cisco IOS Software Activation Conceptual Overview』 モジュール
ソフトウェア アクティベーション コマンド	『 <i>Software Activation Command Reference</i> 』
Integrated Services Routers ライセンス	『 <i>Software Activation on Cisco Integrated Services Routers</i> 』

## 標準および RFC

## MIB

MIB	MIB のリンク
CISCO-LICENSE-MGMT-MIB	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、およびフィチャ セットに関する MIB を探してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。</p> <p><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a></p>

## シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>シスコのサポート Web サイトでは、シスコの製品やテクノロジーに関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、マニュアルやツールをはじめとする豊富なオンラインリソースを提供しています。</p> <p>お使いの製品のセキュリティ情報や技術情報を入手するために、Cisco Notification Service (Field Notice からアクセス)、Cisco Technical Services Newsletter、Really Simple Syndication (RSS) フィードなどの各種サービスに加入できます。</p> <p>シスコのサポート Web サイトのツールにアクセスする際は、Cisco.com のユーザ ID およびパスワードが必要です。</p>	<p><a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a></p>

## Cisco Smart Licensing クライアントに関する機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 12 : Cisco Smart Licensing に関する機能情報

機能名	リリース	機能情報
Cisco Smart Licensing クライアント	Cisco IOS Release XE 3S	<p>Smart Licensing の機能は、Cisco ソフトウェアを簡素化し、ネットワーク全体で Cisco ソフトウェアがどのように使われているかの理解を助けるための標準化されたライセンス プラットフォームです。Smart Licensing は、すべての Cisco ソフトウェア ライセンスの次世代プラットフォームです。</p> <p>この機能はプラットフォームに依存していません。</p> <p>次のコマンドは、次の <b>license smart enable</b>、<b>show license all</b> 機能によって、導入または変更されました。</p>